

令和5年度将来にわたって旅行者を惹きつける

地域・日本の新たなレガシー形成事業

「戦国最強の武将「上杉謙信公」の魂が眠る戦国最強の山城

「春日山城」の復元実現可能性調査」

報告書

令和6年3月

北陸信越運輸局

株式会社グリーンシグマ

報 告 書 目 次

事業の狙いと目的	1
1. 活用事例調査	2
(1) 観光施策事例調査	2
(2) 復元事例調査	5
2. ニーズ調査	12
(1) 外国人旅行者ニーズ調査	12
(2) 上越市民ニーズ調査	21
(3) 上越市民の春日山城にかかわる現況調査	30
(4) 復元経緯と課題	33
3. 法令調査	36
(1) 関係法令調査	36
(2) 関連計画調査	38
4. 春日山城の復元の整備方法の調査検討	46
(1) 復元の整備方法検討	46
(2) 復元の技術的課題検討	56
(3) 周辺環境への影響検討	57
5. 分析・考察	60
(1) 復元することによって得られる効果	60
(2) その他、必要となる事項	67

復元に向けた計画　－春日山城跡の復元と観光活用の手法－
目　次

1. 復元整備の基本方針と整備項目	73
2. 春日山城跡の復元効果の推測	74
3. 春日山城の復元将来像と観光資源性	78
4. 事業推進体制（案）	90
5. 将来的に検討すべき課題	91

―事業の狙い―

地域の持続的な観光地経営の実現を図るためには、将来にわたって国内外から旅行者を惹きつけ、継続的な来訪や消費額向上につながるよう、地域・日本のレガシーとなる観光資源を形成することが重要である。

○上越市では。

戦国時代の名将・上杉謙信公の居城として知られる春日山城跡は、複雑な自然の地形を巧みに利用した堅固な城塞は難攻不落の天下の名城といわれ、地域住民たちの保全活動により、空堀や土塁、大井戸といった山城の特徴を現代に伝えている。

○これまでの動きとして。

史跡としての価値を後世に残すことを第一に、環境保全活動等の取組を推進することで、保存と活用が図られてきた。

○しかし。

春日山城跡の城地は非常に広範であること、城郭等の建造物が存在しないことから、一般の来訪者にとって魅力を理解することが難しい部分がある。

○そこで。

1. 今後の観光施策の展開：

観光に対するニーズの多様化・旅行スタイルの変化やインバウンド需要回復が見込まれることを機に、これらの需要に対応可能な観光施策を展開。

2. 観光施策展開のための地域ブランドの強化：

2030年に生誕500年を迎える上杉謙信公と春日山城跡を上越市のレガシーとしてブランド力を強化。

3. 地域ブランドを強化するための方法：

全国屈指の規模を誇る本物の山城の姿を復元することで、その貴重な歴史的価値の「保存」と、旅行者に感動を与えるための「活用」を共に推進。

―事業の目的―

上記を実現するため、調査を行い、観光施策を展開するための計画を作成する。

1. レガシー形成に関する実現可能性調査を実施

本事業において各種課題の抽出、基礎資料及び検討課題の整理を行い、市場調査や採算性・経済効果に加え、法制・規制面、技術動向、実施のための組織体制のあり方等を検討する。

2. 観光施策を展開するための計画を作成

満足度の高い地域の観光施策プランを作成する。

1. 活用事例調査

(1) 観光施策事例調査

1) 調査目的

全国の戦国時代の山城に関する整備状況について活用などの事例等を収集する。事例調査は国指定史跡に限らず県市町村指定史跡並びに未指定遺跡も対象とする。

2) 調査対象

調査対象者は、全国山城サミット連絡協議会加盟地 159 に加え、重要文化財の指定を受けている備中松山城の計 160 とした。

3) 調査手法

調査は、インターネット検索を行い、以下の項目を調査した。閲覧したホームページは自治体、観光協会、「攻城団」を主とした。

表 1.-1 調査項目

県名
名称
文化財の種類
所在地
URL
復元の内容
活用の状況
攻城団ホームページの紹介文

4) 結果概要

史跡公園として整備を行っている山城が 47 件、そのうち入園料を徴収している事例が 7 件あった。

資料館など展示施設を整備している事例が 22 件、社寺などが所在しているものが 2 件あった。

表 1.-2 調査項目

整備状況	件数
有料公園整備	7
無料公園整備	40
資料館等整備	22
社寺等所在	2

表 1.-3 全国山城サミット連絡協議会加盟自治体一覧

県名	城名	市町村名	担当部局名	〒	所在地
岩手県	九戸城跡	二戸市	二戸市教育委員会文化財課	028-6101	岩手県二戸市福岡字八幡下 11-1
秋田県	脇本城跡	男鹿市	男鹿市教育委員会生涯学習課文化財班	010-0595	秋田県男鹿市船川港船川字泉台 66-1
山形県	長谷堂城跡・成沢城跡	山形市	山形市まちづくり推進部公園緑地課	990-8540	山形県山形市旅籠町二丁目 3 番 25 号
	窟山城跡	米沢市	米沢市教育委員会教育管理部文化課文化財担当	992-0012	山形県米沢市金池 3-1-14
	中山城跡	上市市	上市市教育委員会生涯学習課文化財・文化芸術係	999-3192	山形県上市市河崎一丁目 1 番 10 号
	左沢橋山城跡	大江町	大江町教育委員会教育文化課歴史文化係	990-1163	山形県西村山郡大江町大字本郷丁 373-1
福島県	桑折西山城跡	桑折町	桑折町教育委員会生涯学習課歴史文化係	969-1661	福島県伊達郡桑折町大字上郡字弁慶 20 番地の 1
栃木県	西方城・皆川城	栃木市	栃木市教育委員会事務局生涯学習部文化課文化財係	328-8686	栃木県栃木市万町 9-25
	唐沢山城跡	佐野市	佐野市教育委員会教育総務部文化財課文化財保護係	327-0398	栃木県佐野市田沼町 974-1
群馬県	箕輪城跡	高崎市	高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課埋蔵文化財担当	370-8501	群馬県高崎市高松町 35 番地 1
	金山城跡	太田市	太田市教育委員会文化財課	370-0495	群馬県太田市柏川町 520
	平井城跡・金山城跡	藤岡市	藤岡市企画部自治交流課文化国際係	375-8601	群馬県藤岡市中栗須 327 番地
埼玉県	花園城跡	寄居町	鉢形城歴史館	369-1224	埼玉県大里郡寄居町大字鉢形 2496-2
千葉県	本佐倉城跡	酒々井町	酒々井町教育委員会生涯学習課	285-0922	千葉県印旛郡酒々井町中央台 4-10-1
神奈川県	河村城跡	山北町	山北町教育委員会生涯学習課	258-0195	神奈川県足柄上郡山北町山北 1301-4
新潟県	村上城跡・平林城跡	村上市	村上市教育委員会生涯学習課文化行政推進室	958-0854	新潟県村上市田端町 4-25 村上市教育情報センター内
	栃尾城跡	長岡市	長岡市栃尾支所地域振興課教育支援係	940-0298	新潟県長岡市金町 2-1-5
	春日山城跡	上越市	上越市教育委員会文化行政課	943-8563	新潟県上越市下門前 1770 番地
	坂戸城跡	南魚沼市	南魚沼市教育委員会社会教育課文化振興係	949-6680	新潟県南魚沼市六日町 865
	鳥坂城跡	胎内市	胎内市生涯学習課文化財係	959-2807	新潟県胎内市黒川 1410
富山県	守山城跡	高岡市	高岡市教育委員会生涯学習・文化財課	933-8601	富山県高岡市広小路 7 番 50 号
	松倉城跡	魚津市	魚津市教育委員会生涯学習・スポーツ課生涯学習・文化係	937-0066	富山県魚津市北鬼江 313-2
	森寺城跡(湯山城跡)	氷見市	氷見市立博物館	935-0016	富山県氷見市本町 4 番 9 号
	増山城跡	砺波市	砺波市教育委員会生涯学習・スポーツ課	932-0393	富山県砺波市庄川町青島 401 番地
	白鳥城跡	富山市	富山市教育委員会埋蔵文化財センター	939-2798	富山県富山市婦中町速星 754
	千石山城跡・茗荷谷山城跡	上市町	上市町教育委員会事務局生涯学習班	930-0393	富山県中新川郡上市町法音寺 1
	宮崎城跡	朝日町	朝日町教育委員会事務局生涯学習班	939-0793	富山県下新川郡朝日町道下 1133
石川県	七尾城跡	七尾市	七尾市教育委員会スポーツ・文化課	926-8611	石川県七尾市袖ヶ江町い部 25 番地
福井県	鳥越城跡附二曲城跡(鳥越城跡・二曲城跡)	白山市	白山市教育委員会文化財保護課	924-8688	石川県白山市倉光二丁目 1 番地
	玄蕃尾城(内中尾山城)跡・金ヶ崎城跡	敦賀市	敦賀市教育委員会事務局文化振興課	914-8501	福井県敦賀市中央町 2 丁目 1 番 1 号
	後瀬山城跡・小浜城跡	小浜市	小浜市教育委員会文化課文化遺産活用グループ	917-8585	福井県小浜市大手町 6 番 3 号
	白山平泉寺旧境内・村岡山城跡	勝山市	勝山市教育委員会史蹟整備課	911-8501	福井県勝山市元町 1 丁目 1-1
	柚山城跡	南越前町	南越前町教育委員会事務局	919-0203	福井県南条郡南越前町牧谷 29-15-1
佐柿国吉城址	美浜町	美浜町教員委員会事務局教育政策課(若狭国吉城歴史資料館)	919-1132	福井県三方郡美浜町佐柿 25-2	
長野県	林城(大城・小城)・割原城跡・山家城跡・埴原城跡	松本市	松本市教育委員会文化財課史跡整備担当	390-0823	長野県松本市中山 3738-1
	虚空蔵山城跡 砥石・米山城	上田市	上田市教育委員会生涯学習・文化財課	386-0025	長野県上田市天神一丁目 8 番 1 号
	荒砥城跡・屋代城跡・小坂城跡	千曲市	千曲市歴史文化財センター	387-0013	長野県千曲市大字桜堂 268-2
	葛尾城跡	坂城町	坂城町教育委員会教育文化課文化財係	389-0601	長野県埴科郡坂城町大字坂城 6362-1
岐阜県	美濃金山城跡・久々利城跡・今城跡	可児市	可児市文化スポーツ部文化財課歴史資産活用係	509-0292	岐阜県可児市広見一丁目 1 番地
	苗木城跡	中津川市	中津川市商工観光部観光課	508-0032	岐阜県中津川市栄町 1-1 中津川市にぎわいプラザ 4F
	岩村城跡	恵那市	恵那市商工観光部観光交流課観光交流係	509-7292	岐阜県恵那市長島町正家一丁目 1 番地 1
静岡県	三岳城跡・千頭峯城跡・犬居城跡・二俣城跡・鳥羽山城跡・佐久城跡・太平城跡・高根城跡	浜松市	浜松市市民部文化財課	430-8652	静岡県浜松市中区元城町 103-2
	山中城跡	三島市	三島市産業文化部商工観光課観光政策室	411-8666	静岡県三島市北田町 4-47
	諏訪原城跡	島田市	島田市教育委員会博物館課文化財係	427-0037	静岡県島田市河原 1 丁目 5 番 50 号
	横須賀城跡・高天神城跡	掛川市	掛川市教育委員会社会教育課文化財係	436-8650	静岡県掛川市長谷一丁目 1 番地の 1
	深沢城跡	御殿場市	御殿場市教育委員会社会教育課	412-8601	静岡県御殿場市萩原 483
	下田城址	下田市	下田市教育委員会生涯学習課社会教育係	415-0024	静岡県下田市四丁目 6 番 16 号
	葛山城址	裾野市	裾野市教育委員会生涯学習課	410-1102	静岡県裾野市深良 435 生涯学習センター内
	狩野城跡・柏久保城跡・大見城跡・丸山城跡・高谷城跡	伊豆市	伊豆市教育部社会教育課生涯学習スタッフ	410-2592	静岡県伊豆市八幡 500-1
	足柄城跡	小山町	小山町教育委員会教育部生涯学習課生涯学習班	410-1395	静岡県駿東郡小山町藤曲 57-2

県名	城名	市町村名	担当部局名	〒	所在地
静岡県	小山城跡	吉田町	吉田産業課	421-0395	静岡県榛原郡吉田町住吉 87 番地
	社山城跡	磐田市	磐田市教育委員会文化財課 (磐田市埋蔵文化財センター)	438-0086	静岡県磐田市見付 3678 番地の 1
	横地城跡	菊川市	菊川市教育委員会社会教育課文化振興係 (菊川市埋蔵文化財センター)	437-1514	静岡県菊川市下平川 618-1
	勝間田城跡	牧之原市	牧之原市教育委員会相良文化財調査事務所	421-0592	静岡県牧之原市相良 267-2
	飯田古城跡・飯田城跡・ 天方新城跡・真田山城跡	森町	森町教育委員会社会教育課文化振興係	437-0215	静岡県周智郡森町森 1485
愛知県	船形山城址	豊橋市	豊橋市教育芸術博物館 文化財センター	440-0897	愛知県豊橋市松葉町三丁目 1 番地
	山中城跡・日近城跡・ 岩津城跡	岡崎市	岡崎市教育委員会社会教育課文化財係	444 8601	愛知県岡崎市十王町二丁目 9 番地
	大給城跡・足助城跡	豊田市	豊田市教育委員会文化財課	471-0079	愛知県豊田市陣中町一丁目 21 番地
	亀山城跡	新城市	新城市教育委員会設楽原歴史資料館	441-1305	愛知県新城市竹広字信玄原 552
	田峯城跡	設楽町	設楽町教育委員会教育課	441-2301	愛知県北設楽郡設楽町田口字辻前 14
三重県	峯城跡・鹿伏見城跡	亀山市	亀山市生活文化部文化スポーツ課まちなみ文化財グループ	519-1192	三重県亀山市関町木崎 919-1
	佐和山城跡	彦根市	彦根市市長直轄組織文化財課	522-0001	滋賀県彦根市尾末町 1-38
滋賀県	清水山城館跡・田屋城跡・ 伊井城跡・田中城跡・ 太山寺城跡・西山城跡・ 日爪城跡・打下城跡	高島市	高島市教育委員会事務局教育総務部文化財課	520-1217	滋賀県高島市安曇川町田中 453 番地
	箕作山城跡・大森城跡・ 布施山城跡・佐生城跡	東近江市	東近江市教育委員会歴史文化振興課 (東近江市埋蔵文化財センター)	521-1225	滋賀県東近江市山路町 2225
	鎌刃城跡・上平寺城跡・ 太尾山城跡	米原市	米原市教育委員会事務局歴史文化財保護課	521-0292	滋賀県米原市長岡 1206 番地
	観音寺城跡	近江八幡市	近江八幡市総合政策部文化観光課文化財保護グループ	523-8501	滋賀県近江八幡市桜宮町 236 番地
	小谷城跡・田上山城跡	長浜市	長浜市市民協働部歴史遺産課	526-8501	滋賀県長浜市八幡東町 632 番地
	三雲城跡	湖南市	湖南市教育委員会事務局教育生涯学習課文化振興係	520-3195	滋賀県湖南市石部中央一丁目 1 番 1 号
	水口岡山城跡	甲賀市	甲賀市教育委員会事務局歴史文化財課埋蔵文化財係	528-8502	滋賀県甲賀市水口町水口 6053 番地
	福知山城	福知山市	福知山市地域振興部まちづくり推進課文化振興係	620-8501	京都府福知山市字内記 13-1
	置塩城跡	姫路市	姫路市教育委員会生涯学習部埋蔵文化財センター (姫路市埋蔵文化財センター)	671-0246	兵庫県姫路市四郷町坂元 414 番地 1
	波賀城跡	宍粟市	宍粟市教育委員会社会教育文化財課社会教育文化財係	671-2583	兵庫県宍粟市山崎町中広瀬 133 番地 6
兵庫県	白旗城跡	上郡町	上郡町教育委員会教育総務課総務・文化財係	678-1292	兵庫県赤穂郡上郡町大持 278 番地
	竹田城跡	朝来市	朝来市産業振興部観光交流課	669-5292	兵庫県朝来市和田山町東谷 213 番地 1
	宇陀松山城跡・澤城跡	宇陀市	宇陀市教育委員会事務局文化財課	633-0292	奈良県宇陀市榛原下井足 17-3
奈良県	高取城跡	高取町	高取町まちづくり課	635-0154	奈良県高市郡高取町大字観音寺 990-1
鳥取県	鳥取城跡・鹿野城跡・ 景石城跡・太閤ヶ平	鳥取市	鳥取市教育委員会文化財課	680-8571	鳥取県鳥取市上魚町 39 番地
	米子城跡	米子市	米子市経済部文化観光局文化振興課	683-8686	鳥取県米子市東町 161-2
	若桜鬼ヶ城跡	若桜町	若桜町教育委員会事務局生涯学習係	680-0701	鳥取県八頭郡若桜町若桜 757
島根県	七尾城跡 (史跡益田氏城館跡)	益田市	益田市教育委員会文化財課	698-8650	島根県益田市常盤町 1-1
	月山富田城跡	安来市	安来市教育委員会文化財課文化財係	692-0404	島根県安来市広瀬町広瀬 703 番地
	三沢城	奥出雲町	奥出雲町教育委員会教育魅力課	699-1832	島根県仁多郡奥出雲町横田 1037
	三刀屋城跡 (尾崎城跡・じゃ山城跡)	雲南市	雲南市教育委員会文化財課文化財・文化振興グループ	699-1392	島根県雲南市木次町里方 952-5 雲南市役所里方分庁舎
	本明城跡	江津市	江津市教育委員会社会教育課文化スポーツ振興係	695-8501	島根県江津市江津町 1525
岡山県	矢筈城跡・岩屋城跡	津山市	津山市教育委員会文化課文化財保護係	708-0824	岡山県津山市沼 600-1
広島県	小早川氏城跡 (高山城跡・新高山城跡)	三原市	三原市教育委員会文化課文化財係	723-0014	広島県三原市城町 1-2-1
	鏡山城跡	東広島市	東広島市教育委員会生涯学習部文化課文化財係	739-8601	広島県東広島市西条栄町 8 番 29 号
	郡山城跡	安芸高田市	安芸高田市教育委員会生涯学習課	731-0501	広島県安芸高田市吉田町吉田 761
山口県	小倉山城跡・日山城跡	北広島町	北広島町教育委員会生涯学習課文化振興係	731-1595	広島県山形郡北広島町有田 1234 番地
	高嶺城跡	山口市	山口市教育委員会文化財保護課大内文化財担当	753-0073	山口県山口市春日町 5 番 1 号
愛媛県	能島城跡	今治市	今治市村上水軍博物館	794-2203	愛媛県今治市宮窪町宮窪 1285 番地
	河後森城跡	松野町	松野町教育委員会教育課文化振興グループ	798-2192	愛媛県北宇和郡松野町大字松丸 343 番地
福岡県	猫尾城跡	八女市	八女市文化振興課文化財保護係	834-8585	福岡県八女市本町 647
	松山城跡	苅田町	苅田町協働のまちづくり課 観光まちづくり担当	800-0392	福岡県京都郡苅田町富久町一丁目 19 番地 1
佐賀県	勝尾城筑紫氏遺跡	鳥栖市	鳥栖市教育委員会事務局生涯学習課文化財係	841-8511	佐賀県鳥栖市宿町 1118
長崎県	日野江城跡	南島原市	南島原市教育委員会文化財課	859-2412	長崎県南島原市南有馬町乙 1023
	勝本城跡	壱岐市	壱岐市企画振興部観光商工課	811-5192	長崎県壱岐市郷ノ浦町本村触 562 番地
大分県	角半礼城跡	玖珠町	玖珠町教育委員会社会教育課文化財係	879-4405	大分県玖珠郡玖珠町大字岩室 24 番地の 1 くすまちメルサンホール内
	岡城跡	竹田市	竹田市教育委員会文化財課	878-8555	大分県竹田市大字会々 1650
宮崎県	佐土原城跡・穆佐城跡	宮崎市	宮崎市教育委員会文化財課	880-2101	宮崎県宮崎市大字跡江 4200 番地 3 (生目の柱遊古館内)
鹿児島県	知覧城跡	南九州市	南九州市教育委員会文化財課文化財係	897-0302	鹿児島県南九州市知覧町 17880 (ミュージアム知覧)
沖縄県	浦添城跡	浦添市	浦添市教育委員会教育部文化財課	901-2501	沖縄県浦添市安波茶 1-1-1

令和元年 11 月 9 日現在 102 団体 159 城

(2) 復元事例調査

1) 調査目的

戦国時代の山城を復元した自治体等における、復元に至る経緯や復元内容、活用状況などを把握する。

2) 調査対象

調査対象者は、観光施策事例調査の結果、復元が行われている山城の管理者 21 自治体を抽出した。

3) 調査手法

調査は、復元が行われている山城の管理者 21 自治体へアンケート用紙をメールまたは郵送で配布し、回答を送付してもらった。その結果、15 自治体より回答があった。

4) 結果概要

問1. 山城を整備した目的について、一番優先したものの1つに○をつけてください。

- 「観光振興」「地域のシンボル化。地域の愛着醸成。」「文化財価値向上」とも同割合であった。

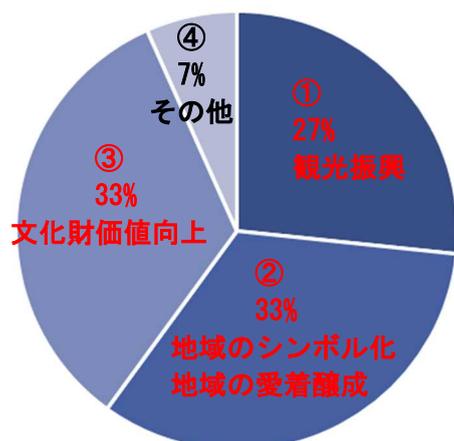
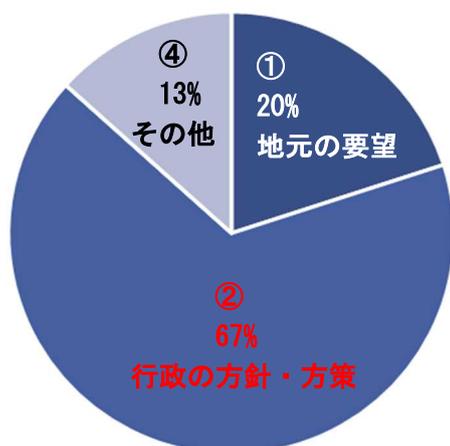


図 1.-1 問1. 一番優先したものの回答

問2. 山城の整備に至ったきっかけについて、適切と思うものの1つに○をつけてください。

- 「行政の方針・政策。」が 66.7% 「地元要望。」が 20% であった。



※ 「③有識者の助言」
は回答 0

図 1.-2 問2. 整備に至ったきっかけ回答

問3. 山城の復元に際して実施した調査に関する下記の全ての項目について、当てはまるものに○をつけてください。

【歴史資料調査】

- 「文書」「絵図」「古写真」を調査して、「大いに成果があった」は4件あり。
- 「文書」または「絵図」を調査して、「ある程度成果があった」は2件あり。

【発掘調査】

- 「整備範囲」を調査して、「大いに成果があった」は8件あり。その内2件は「特徴的な部分」を調査している。
- 「史跡範囲全て」を調査して、「大いに成果があった」は2件あり。
- 「特徴的な部分」のみを調査した自治体は2件で、「ある程度成果があった」ものが1件、「あまり成果がなかった」ものが1件。

問5. 山城を整備した範囲について、当てはまるものに○をつけてください。

- 「塀・柵」「石垣」が13.2%、「本丸」「櫓」が11.3%あり。
- 「土塁」「堀・濠」が9.4%あり。
- 「その他」としては、「門」「三の丸」という回答があげられた。

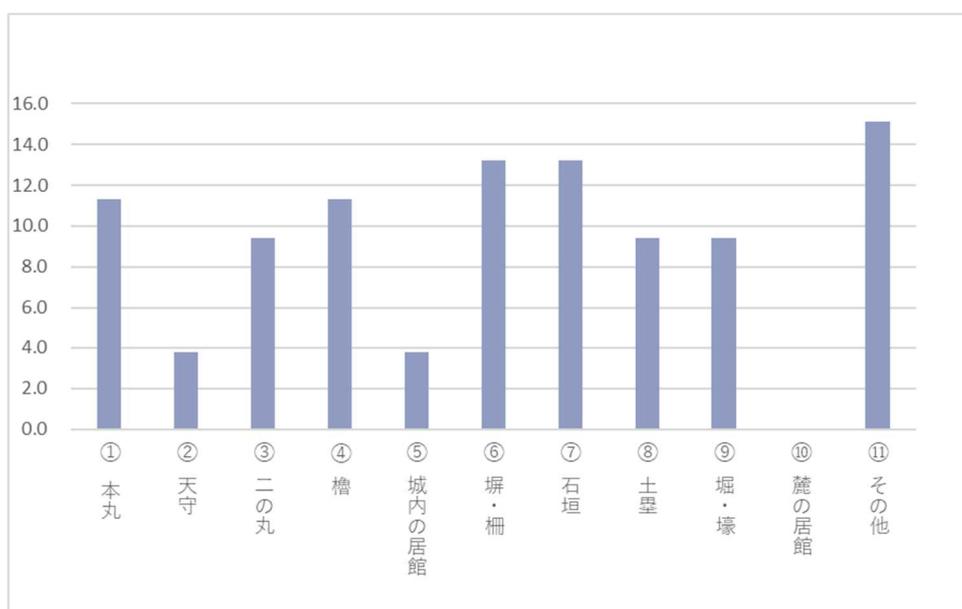


図 1.-3 問5. 山城を整備した範囲回答

※問4は設問票で欠番のため回答なし

問6.-1 史跡内の施設整備について、当てはまるものに○をつけてください。

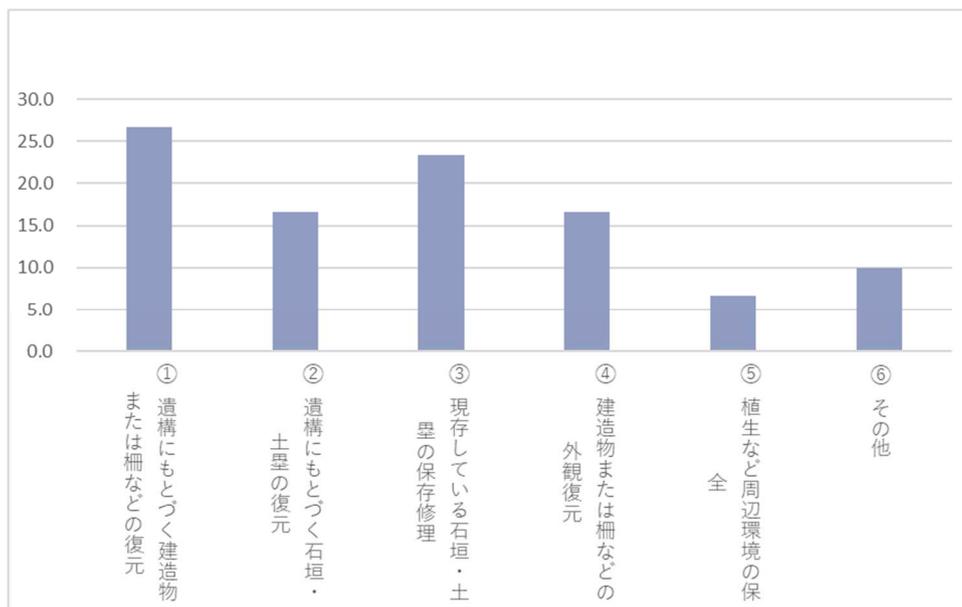


図1.-4 問6.-1 史跡内の施設整備回答

問6.-2 山城周辺に整備した施設について、当てはまるものに○をつけてください。

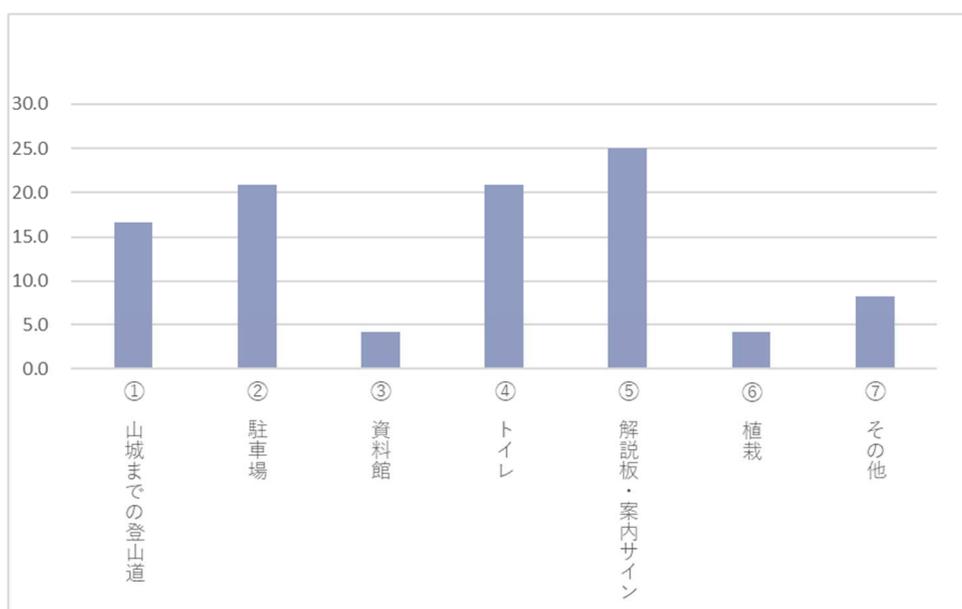


図1.-5 問6.-2 山城周辺に整備した施設回答

問6.-3 山城の整備にかかった事業費の概算についてお教えてください。

- 回答があった自治体の平均は全体事業で4億5千2百万円。

問7. 山城の整備に関する地元住民の反応について、当てはまるもの全てに○をつけてください。

- 回答があった自治体14のうち、整備前、整備後とも「整備への賛成意見が多かった」ものが11件、その他が2件。

問9. 現在の活用方法について当てはまるもの全てに○をつけてください。

- 「小中学校の総合学習」が29.7%。
- 「案内ガイドツアー」「観光ルートの受け入れ」が27%

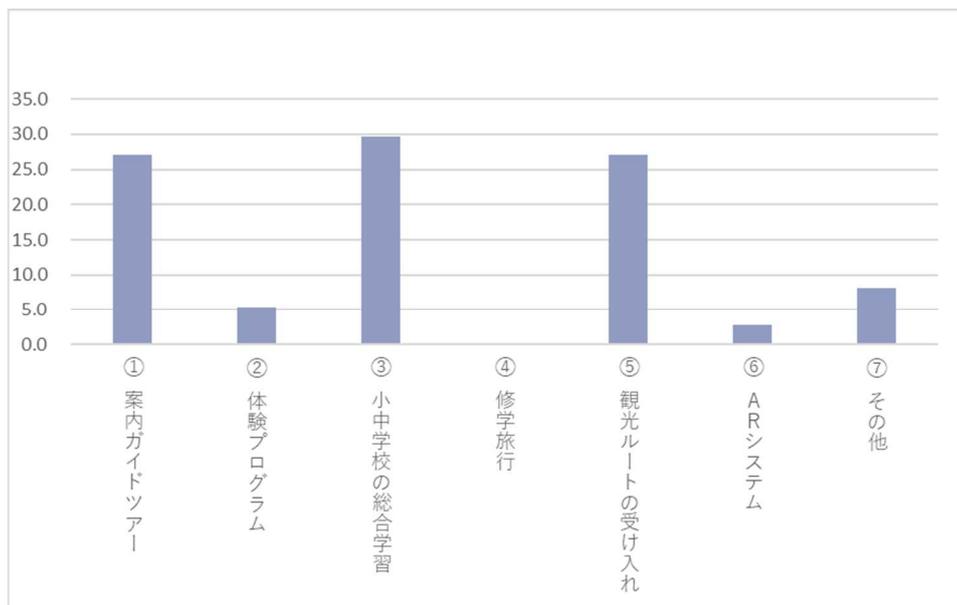


図 1.-6 問9. 現在の活用方法について当てはまるもの回答

問10. 現在の運用方法について当てはまるもの全てに○をつけてください。

- 「自治体自らが運用している」が55%。
- 「ボランティア団体関わっている」が30%。
- 保存会、友の会、指定管理制度は少数であった。

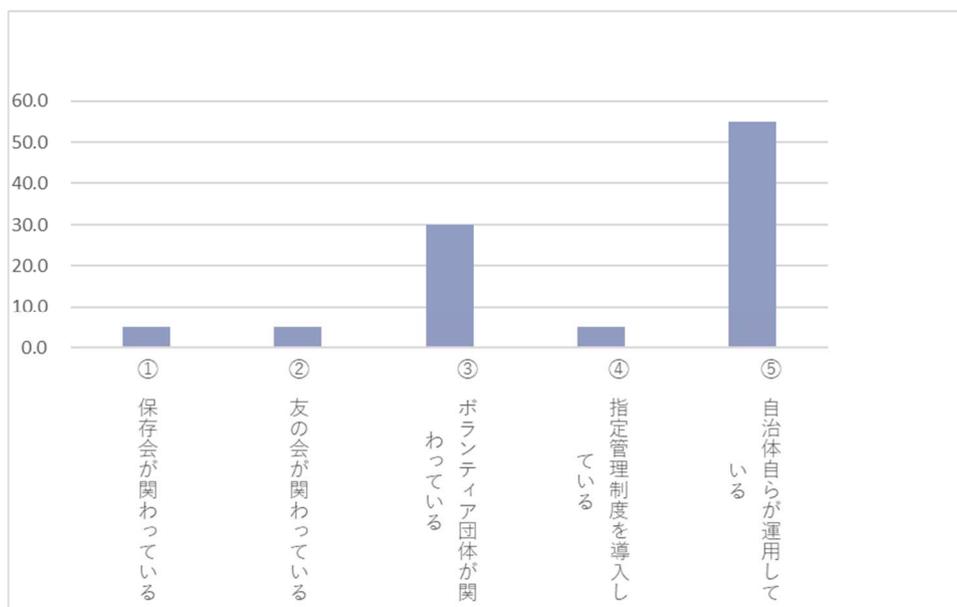


図 1.-7 問10. 現在の運用方法について当てはまるもの回答

※問11は設問票で欠番のため回答なし

表 1.-4 問 8 自由回答

問 8
山城の整備に際して課題になったことがありましたら、記述をお願いします。
・傾斜地が多く、バリアフリーに対応できない。
・元々本丸には神社があり、社殿の移転に苦勞した。
・公園整備予定地には、民間会社が建設した遊園地・動植物園があり、整備の時点で遺構が殆ど破壊された状態であり、明確な遺構の確認はできなかった。そのため、同時期に復元された愛知県の「足助城」を参考としている。
・整備は多額の経費が掛かるため、国の補助金をいただきながら整備を行っていますが、文化庁からの補助金の減額が続いており、計画どおりの整備ができていません。
・土地所有者からの承諾を得ることが課題となった。土地所有者が不明の土地については整備から除外した。
・城の形状を確定できる資料（文書及び絵図等）がなかったため、復元施設を建設するにあたって、時代背景を最大限に考慮し施設の設計にあたった。
・用地買収交渉、地元へいかに利益があるか（有益か）の説明・説得。
・盛土の維持管理、排水。
・現在、史跡公園内に設置している二層櫓は模擬櫓である。
・見学客が入城しない閉山期間内に整備工事を施工するため、施工環境が悪い中での実施になってしまうこと。
<ul style="list-style-type: none"> ・資金不足 ・市民団体との調整 ・駐車場の不足 ・案内看板の不足 ・倒木などの対応
<p>・史跡地が臥牛山の 8 箇所点に点在している形であり、文化庁からは山全体及び山腹の御根小屋（岡山県指定史跡、現岡山県立高梁高等学校敷地）の追加指定を課題として与えられている状況。しかし、山については国有林、御根小屋は県立高校用地であることから、難しい状況。</p> <p>・現在は、過去に策定した保存管理計画・環境整備基本計画を基に整備を実施中であるが、文化庁から保存管理計画の見直し、保存活用計画の策定を求められている状況。</p> <p>・法的規制（文化財保護法、森林法（国有林、保安林）、県立自然公園）の手続きを行った上で史跡整備を継続的に実施している状況。</p> <p>・整備にあたっては、山の上にお城があることから、種々の仮設費（遺跡を保護するための仮設道の設置、運搬費（小運搬））が一般的な工事費に対して比率が高くなる。</p> <p>・運搬等が不可能なものを使用しての整備が不可能であるため、平地のお城と比較して制約があるとともに、工法等においても工夫が必要となる。</p> <p>・現状では、遊歩道を利用して一周することができないため、一周することのできる周遊ルートが課題である。</p>

表 1.-5 問 12 自由回答

問 12
現在の活用状況について課題がありましたら、記述をお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> ・ AR、VR等のデジタル技術の活用。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲輪までの登山道〔林道）が狭く、大型観光バスが通れない。国史跡範囲なので拡幅は不可能。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 山城のため、駐車場が十分に確保できない上、大型バス等による集客もできない。また、園内道路の勾配がきつく、高齢者・体の不自由な方への対応が難しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の誘客やPRをどのように行っていくか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設までは駐車場から徒歩で30分ほど山道を登る山頂に位置し、無人の施設であるため、案内を地元の観光ボランティアガイドの団体のご協力により行っている。少人数のガイドツアー等の実施はしているが、イベント等を実施するには、経費と方法に課題がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンス施設がないため、急な雨の時、隠れる場所がない。 ・ ガイダンス施設がないため出土遺物を一緒に見学できない。 ・ 芝刈りや樹木の刈り込み等に年間約 1,400 万円の経費を要すが、全額市費で負担している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後継続的な整備ができるか不安 ・ 現在はボランティアガイドの会が中心であるが、高齢の方もいるため。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 山城に関する更なる情報発信の取組が必要である。 ・ 山城によっては、見学ルートや便益施設の整備が不十分である。 ・ 活用に当たっての指針となる保存活用計画の策定を進める。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナ感染症の影響により入込数が減少している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬季閉山時の活用方法 ・ VAR等の導入
<ul style="list-style-type: none"> ・ 常駐のガイドは設置されていない。 ・ 企画内容がマンネリ化している。 ・ 他城との連携 ・ VRの活用 ・ 他城との連携 ・ 多言語対応
<ul style="list-style-type: none"> ・ エリアが広大なため、草刈等の維持管理がなかなか追いつかない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 山城のため、お城へ登るためには山道を距離で700m、高さで1000m、時間で20分以上は、山道を徒歩にて登る必要がある。当時のお城の状況を自らの足で歩き体験をしていただくという意味では山城ならではの特徴になるが、観光客の来訪やお城を活用したイベントを行う上では大きな課題となっている。 ・ 史跡のため、史跡に影響を与えないような方法での活用もその都度考えながら行う必要がある。

表 1.-6 問 13 自由回答

問 13 現在の運用状況について課題がありましたら、記述をお願いします。
・管理地が広大なため、管理が行き届かない。
・整備より 20 年が経過し、復元建物・柵が経年劣化して修繕が必要。併せて豪雨災害、地震などで令和 4 年 8 月より、閉鎖中。
・公園整備後 25 年以上が経過し、各施設の老朽化・損耗がみられる。施設維持のため、長期計画策定と毎年の修繕工事の実施・継続が必要。
・運用に関わっている者の高齢化や人事不足。
・整備から 20 年以上が経過し、老朽化がかなり進んでいる。施設の維持管理に大きな課題がある。
・全体に盛土をして整備を行ったが、盛土の崩れ等が見られるようになってきている。排水について当初に検討がきちんとなされなかったようであり、民地への流入への対応が必要となっている。
・日常的な維持管理を行う団体への補助を実施しているが、団体によっては人的・資金的面で課題を抱えており、史跡の維持管理を進める上で課題となっている。
・登山道の荒廃が進み、令和 3 年度に大規模な改修工事を実施した。櫓等も老朽化が進み、今後の修繕等が懸念されている。
・ボランティアガイドからプロフェッショナルガイドへ。 ・来場者数の減少（適正来客数 150 千人）。 ・警備等経常経費の削減。 ・来場者数の季節天候による偏り。
・今後の指定管理制度導入について。
・ガイダンス施設の充実。

2. ニーズ調査

(1) 外国人旅行者ニーズ調査

1) 調査目的

山城および春日山城跡をコンテンツとした観光に対する、海外客のニーズを把握する目的で、日本に来訪経験のある海外在住者に対してアンケート調査を実施した。

2) 調査対象者

調査対象者は、以下の条件に該当する人を対象とした。

- ・アジア地域及びその他地域において 2022 年の来日者数（観光客+商用客）の多い以下の国に在住（JNTO、年別集計）

<アジア地域>	<その他地域>
・韓国（年間 1,012 千人）	・アメリカ（年間 324 千人）
・台湾（年間 331 千人）	・オーストラリア（年間 89 千人）
・香港（年間 269 千人）	・英国（年間 57 千人）

- ・過去 5 年間に 1 回以上、日本に訪れた経験のある人
- なお、各国の回収数は以下の通りとした。

表 2.-1 対象者の種別

国・地域	回答数	%
香港	100	16.7
台湾	100	16.7
韓国	100	16.7
オーストラリア	100	16.7
アメリカ	100	16.7
イギリス	100	16.7
合計	600	100.0

3) 調査手法

調査は、株式会社クロスマーケティングに再委託し、そこから各国の提携先である調査会社を通じてアンケートモニターに調査票を配布する Web アンケートとした。

アンケートは、スクリーニング調査・本調査の 2 段階で実施し、スクリーニング調査の結果、過去 5 年以内に日本へ訪れた経験のある人を対象に本調査を行った。

4) 結果概要

①主要項目の結果

主要な項目における6か国全体(n=600)の集計結果について概要を以下にまとめる。

- 「山城跡」の認知度は56%。「天守閣」62%との差は6ポイント程度。

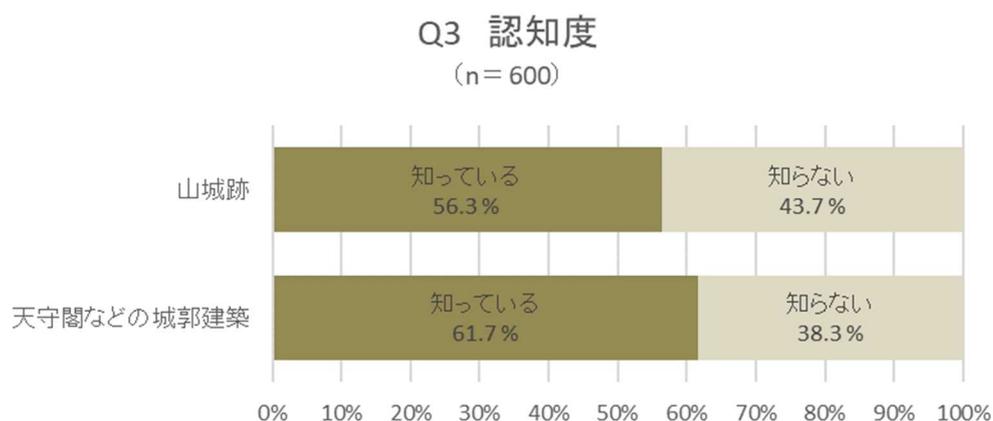


図 2.-1 Q3 認知度回答

- 「山城跡」へ行ったことがある人は全体の41%。「天守閣」48%との差は7ポイント程度。

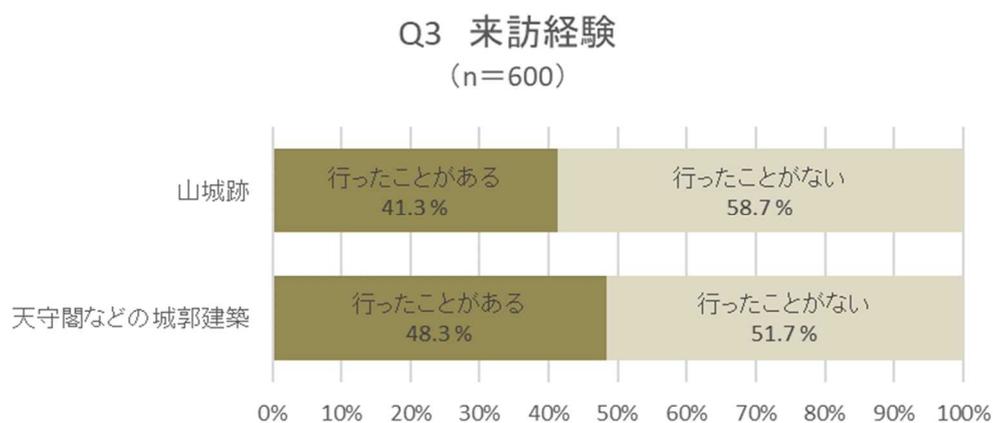


図 2.-2 Q3 来訪経験回答

- 「山城」へ訪れたきっかけの上位は、「日本の伝統建築や城郭に興味があったから」47.2%、「美しい景色が眺められるから」34.1%、「その地域の文化等に興味があったから」24.1%であることから、復元によらず「美しい景色」や「地域文化の発信」が売りになる可能性あり。

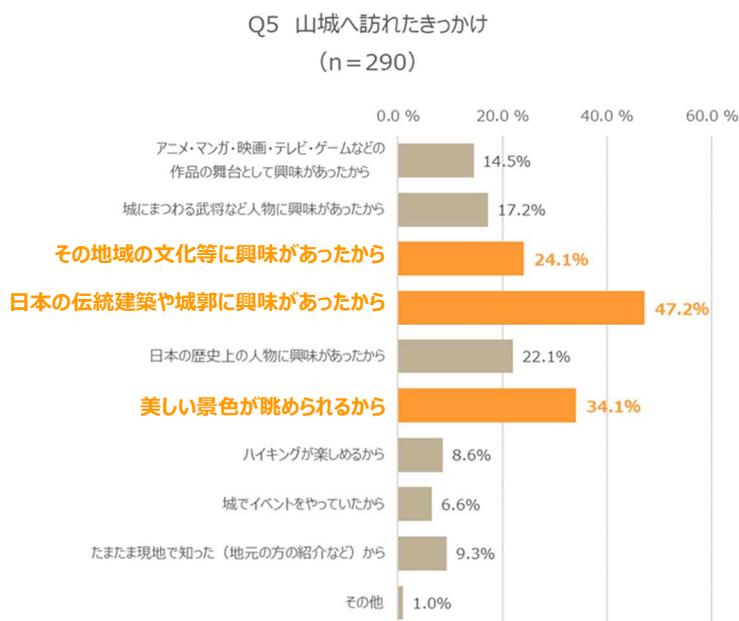


図 2.-3 Q5 山城へ訪れたきっかけ回答

- 「上杉謙信公」の認知度は21%で第5位。「武田信玄」29.2%と「伊達政宗」20.8%の間の認知度。

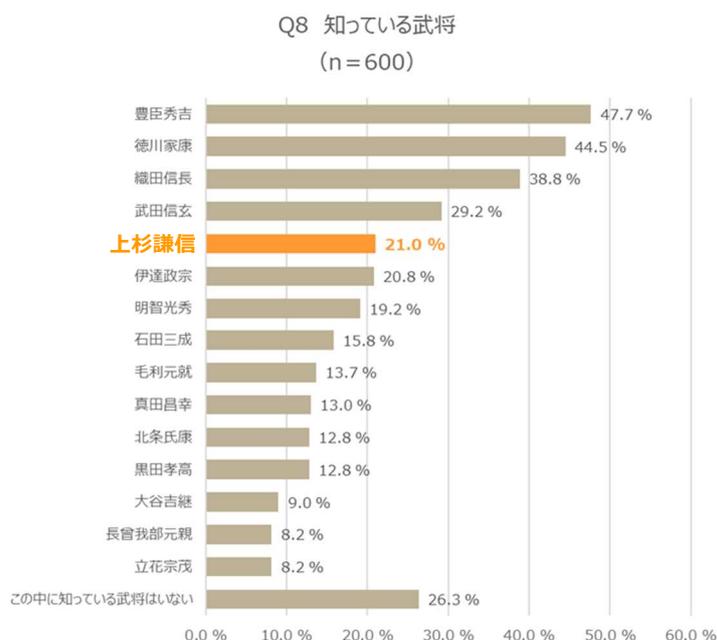


図 2.-4 Q8 知っている武将回答

- 「春日山城跡」の認知度は43%。

Q9 春日山城を知っているか
(n=600)

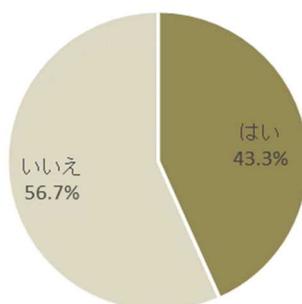


図 2.-5 Q9 春日山城跡を知っているか回答

- 「春日山城跡」への来訪経験は17%。

Q11 行ったことがある日本の城
(n=600)

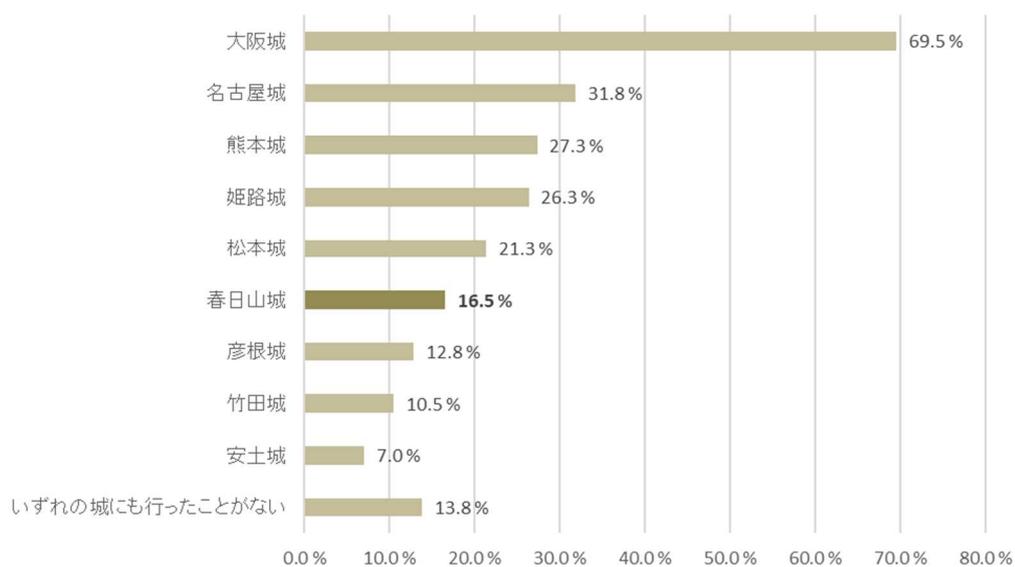


図 2.-6 Q11 行ったことがある日本の城回答

5) 春日山城跡の潜在的なニーズ、類似遺跡に対する優位性

海外客の春日山城跡の現在の認知度、来訪者などをふまえ、潜在的な需要の見込みを推察するとともに、アンケート結果から他地域の山城に対する春日山城跡の優位性についても触れる。

①春日山城跡の認知度・来訪経験によるセグメント

春日山城跡の認知度・来訪経験を基に 4 区分のセグメントに分けると下図の割合となる。

春日山城跡を知っており来訪経験がある人は全体の 17%であった。「春日山城跡を知っているが来訪経験がない人」は 27%、「春日山城跡を知らず来訪経験のない人」は 57%であった。

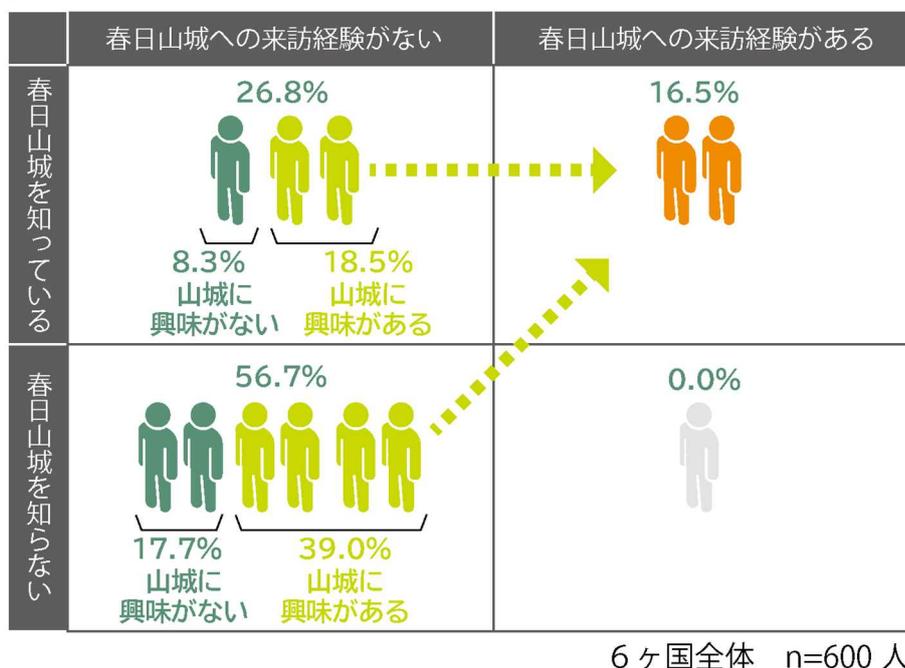


図 2.-7 認知度・来訪経験区分表

春日山城跡への来訪経験がない人のうち、58%は「山城に興味がある」人であることから、情報発信やイベント実施などにより誘客を図れる可能性がある。

春日山城跡の情報発信にあたっては、以下のアンケート結果が参考になりえる。

【メディア】

英米豪は Youtube、旅行情報誌で春日山城跡を知った人が多く、東アジアはアニメ、マンガ、日本映画、テレビ、Youtube で春日山城跡を知った人が多い。

【発信する情報】

春日山城跡へ訪れたことがない人が、他の山城を訪れたきっかけとしては、「日本の伝統建築や城郭に興味があったから」「美しい景色が眺められるから」という理由が多い。

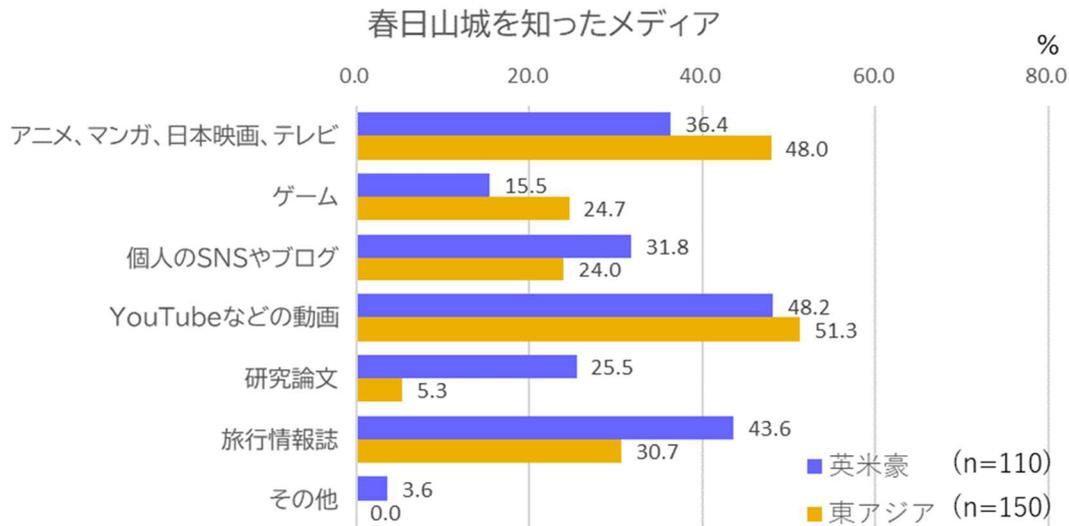


図 2.-8 春日山城を知ったメディア

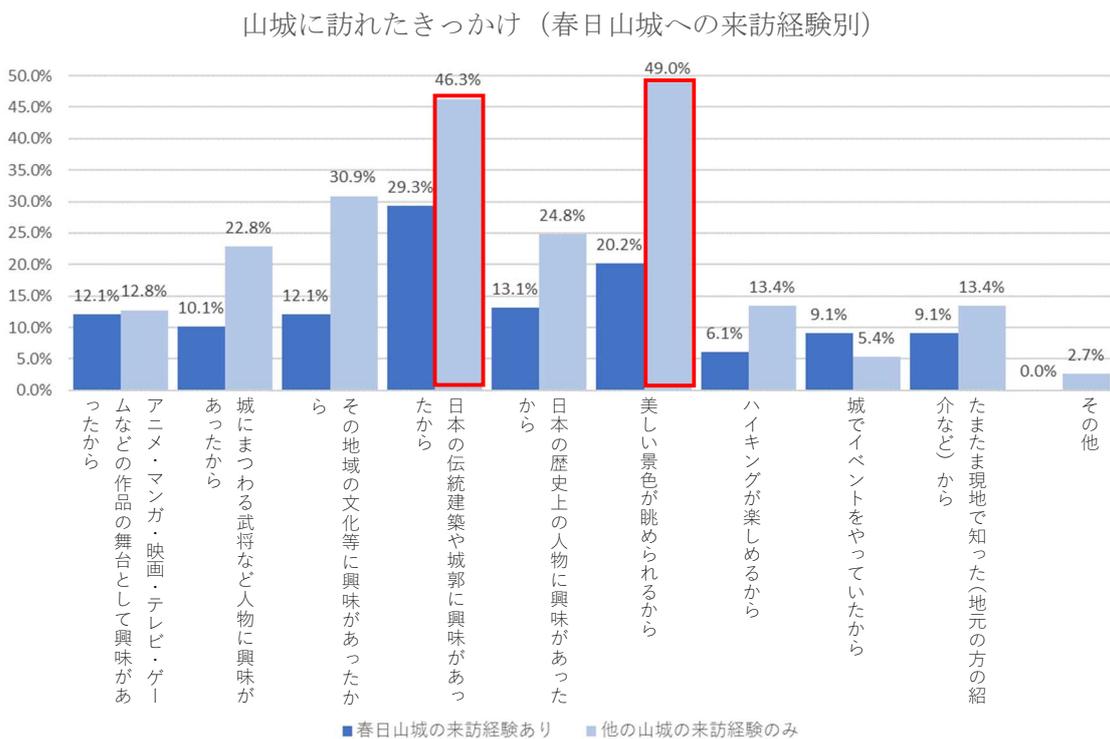


図 2.-9 山城に訪れたきっかけ

②春日山城跡の優位性

都市部に近くアクセスしやすい山城

- ・ 山城に訪れなかった理由として「時間不足」「交通手段不足」が挙げられている。
- ・ 春日山城跡は、山城としては都市部に近く、最寄駅から山城までの所要時間も短い。

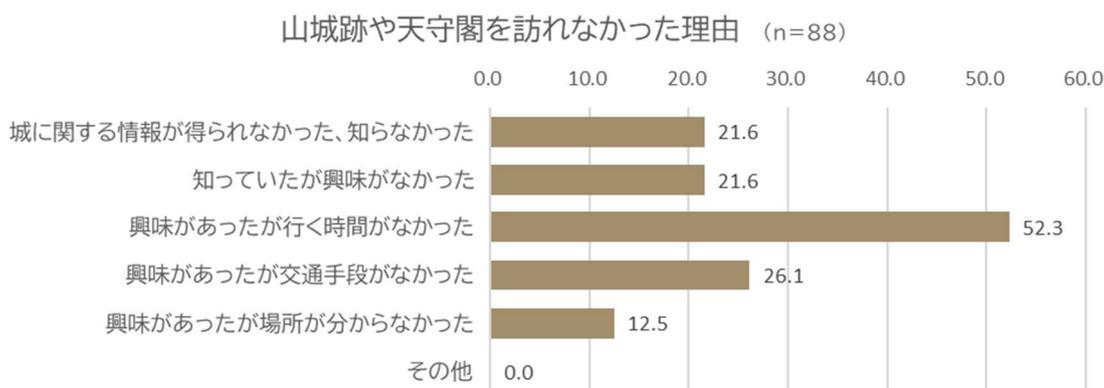


図 2.-10 山城跡や天守閣を訪れなかった理由

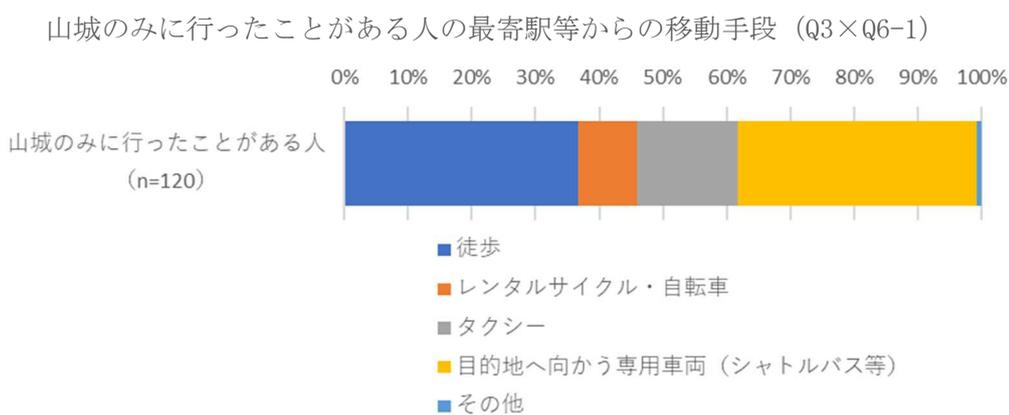


図 2.-11 最寄駅等からの移動手段

表 2.-2 山城の最寄駅からの距離

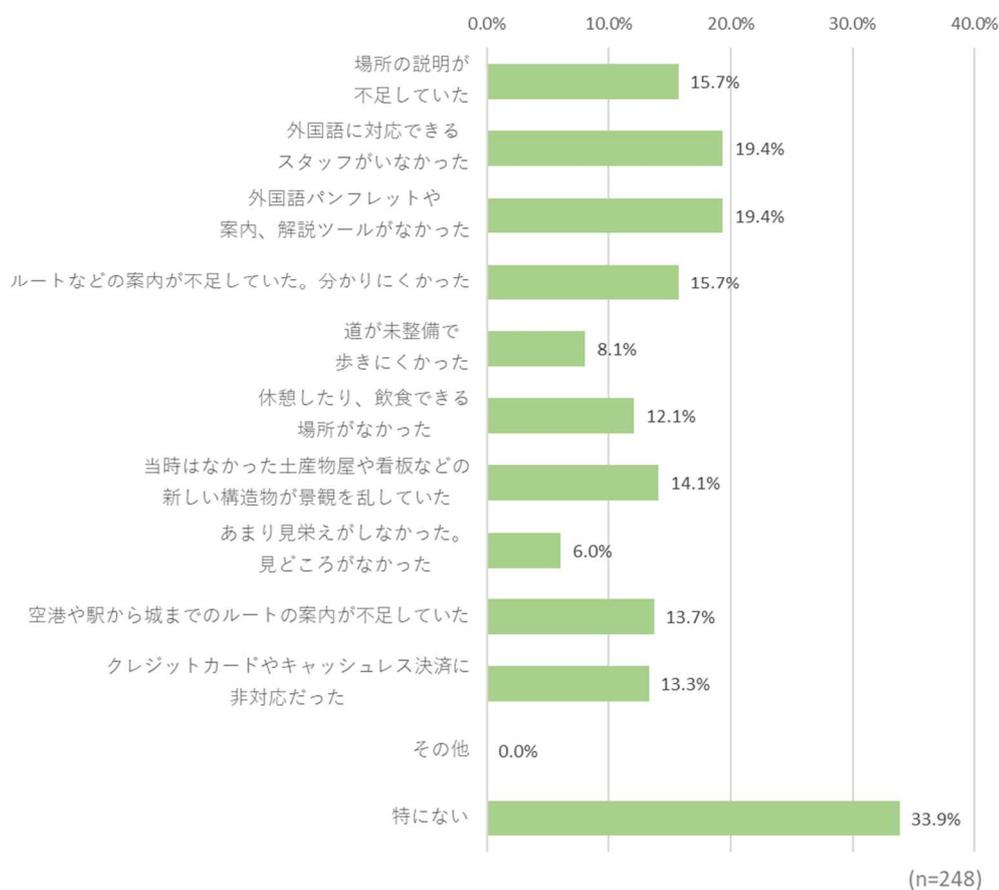
城名	所在地	最寄駅	最寄駅 までの 距離
高根城跡	浜松市天竜区水窪町地頭方 184	向市場駅	0.7 k m
河後森城跡	北宇和郡松野町富岡	松丸駅	1.0 k m
福知山城	福知山市内記	福知山駅	1.3 k m
米子城跡	米子市久米町	米子駅	1.4 k m
浦添城跡	浦添市仲間山川原	浦添前田駅	1.4 k m
春日山城跡	上越市中屋敷他	春日山駅	3.1 k m
竹田城跡	朝来市和田山町竹田	竹田駅	3.2 k m
岩村城跡	恵那市岩村町城山	岩村駅	3.4 k m
荒砥城跡	千曲市大字上山田字城山 3509 番地	戸倉駅	4.1 k m
鳥取城跡	鳥取市東町 2	鳥取駅	4.2 k m
備中松山城	岡山県高梁市内山下 1	備中高梁駅	4.4 k m
鎌刃城跡	米原市番場	米原駅	4.8 k m
苗木城跡	中津川市苗木	中津川駅	6.4 k m
平井城跡	藤岡市西平井	群馬藤岡駅	6.7 k m
佐土原城跡	宮崎市佐土原町上田島字追手 1327 番ほか	佐土原駅	8.2 k m
箕輪城跡	高崎市箕郷町東明屋	群馬八幡駅	8.3 k m
月山富田城跡	安来市広瀬町富田	安来駅	11.9 k m
鳥越城跡	白山市三坂町・別宮町・釜清水町・上野町・出合町	鶴来駅	12.2 k m
山中城跡	三島市山中新田字下ノ沢	三島駅	12.5 k m
七尾城跡	七尾市古府町、古屋敷町、竹町入会地大塚 14-1、2-4、15-2	七尾駅	12.7 k m
足助城跡	豊田市足助町須沢 39-2	平戸橋駅	15.9 k m
田峯城跡	北設楽郡設楽町田峯城 9	本長篠駅	19.2 k m
波賀城跡	宍粟市波賀町上野 2-51	播磨新宮駅	34.8 k m

③春日山城跡の海外客受入のための課題

外国語対応や案内の充実が必要

- ・ 山城跡を訪れた経験のある海外客の感じた問題点・課題としては、「外国語対応のスタッフの不在」、「パンフレットなどのツールの不足」が約 20%で最も多く挙げられる。
- ・ 春日山城跡においても、これらの更なる充実が望まれる。

山城等の問題点・課題
(山城跡への来訪経験者のみを集計)



※山城跡・城郭のどちらも来訪している人もおり、必ずしも山城跡のみを評価している訳ではないことに留意。

図 2.-12 山城等の問題点・課題

(2) 上越市民ニーズ調査

1) 調査目的

上越市民の春日山城跡への関心度の把握と観光資源としての期待度を把握する目的で、上越市民に対してアンケート調査を実施した。

2) 調査対象者

調査対象者は、20歳以上の上越市在住者。地域・年齢・性別が偏らないように区ごとの人口割合に応じて無作為抽出した。

3) 調査手法

調査は、上越市民1000人へアンケート用紙を郵送で配布し、返信用封筒で回答を送付してもらった。

4) 調査期間

令和6年1月9日～令和6年1月31日（郵送、二次元コード併用回答）

5) 回収結果

表 2.-3 対象者の種別

調査対象者（配布数）	1000人
WEBによる回答数	69件
郵送による回答数	290件
回答数計	359件
回収率	35.9%
有効回答数	353件※

※6件は無記入による返信

6) 結果概要

①主要項目の結果

有効回答数は 353 件の集計結果について概要を以下にまとめる。

【回答者属性】 有効回答数：353 件

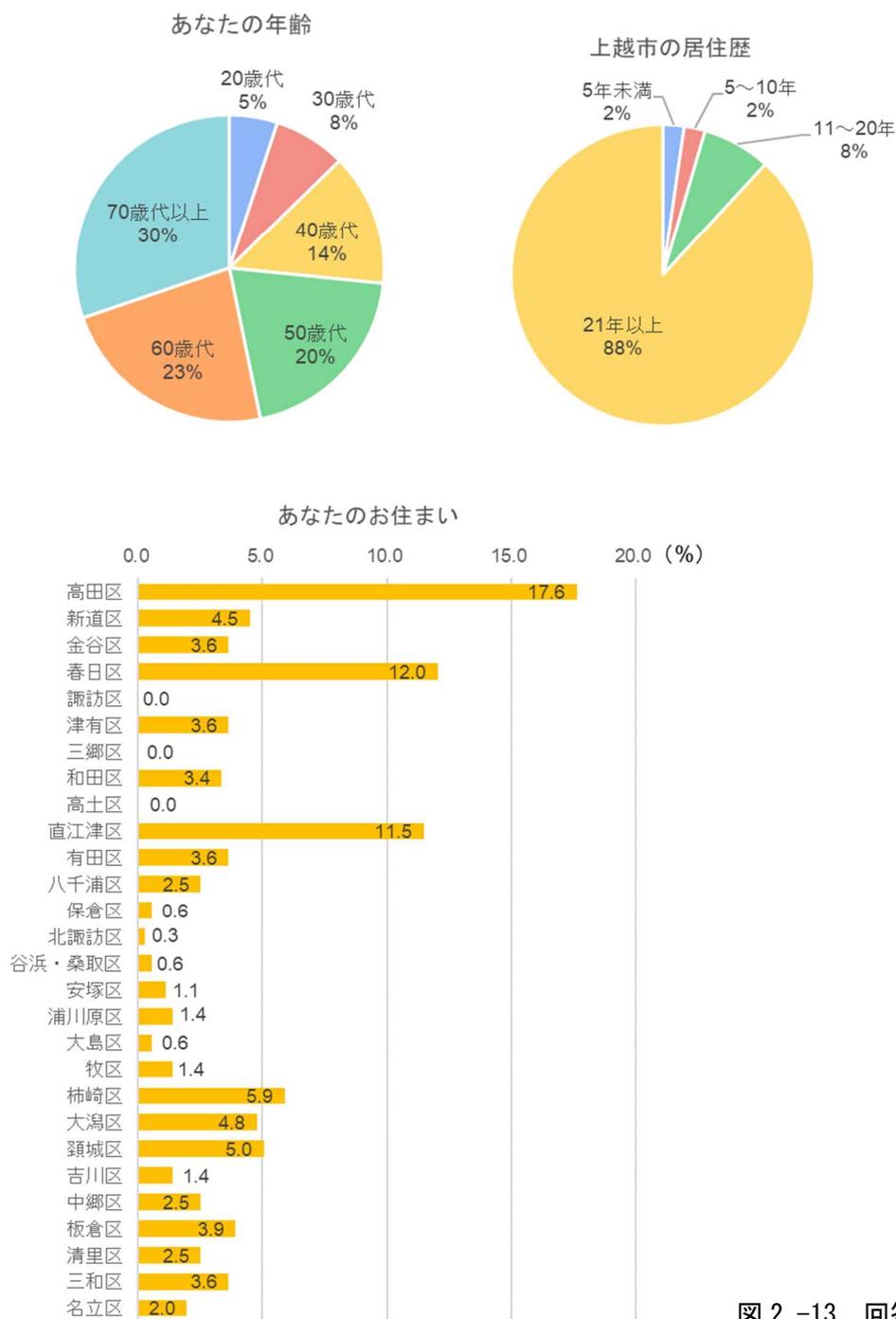


図 2.-13 回答者属性

【調査結果の概要】

■ 上越市民の春日山城跡および周辺の利用状況



図 2. -14 上越市民の春日山城跡および周辺の利用状況回答

■春日山城跡の観光活用に対する市民意識

- 市民の約9割が春日山城跡は上越市を代表する観光地として認識。
- 市民の6割がなんらかの整備をすべきと考えており、そのうち関連遺構・建築物の復元整備を望む声が高い。
- 整備しなくてよいと答えた人の理由は「史跡として守るべき」「観光資源としての魅力少ない」「お金をかけることに疑問」がそれぞれ3割程度。

■市民の求める春日山城跡の整備イメージ

- 春日山城跡の観光整備として、市民の5割弱が「総構の土塁の復元や古道の整備」を望む。
- その人たちが併せて選択した整備などは「春日山城跡や上杉謙信公のイメージ戦略」「散策道の整備」「小中学生向けに春日山城跡の歴史を学ぶ機会」が多い。
(下図)

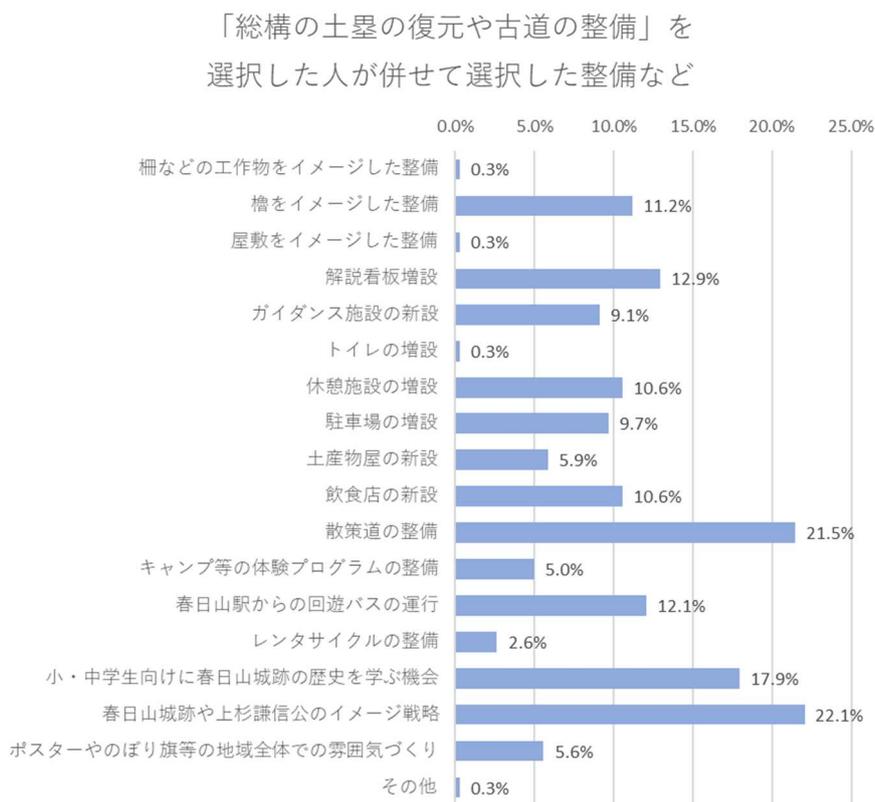


図 2.-15 市民の求める整備イメージ回答

【集計結果】

- 「春日山神社」「謙信公銅像周辺」は80%以上の人が来訪経験あり。
- 「ものがたり館」「埋文センター」については60%以上の人が来訪経験なし。

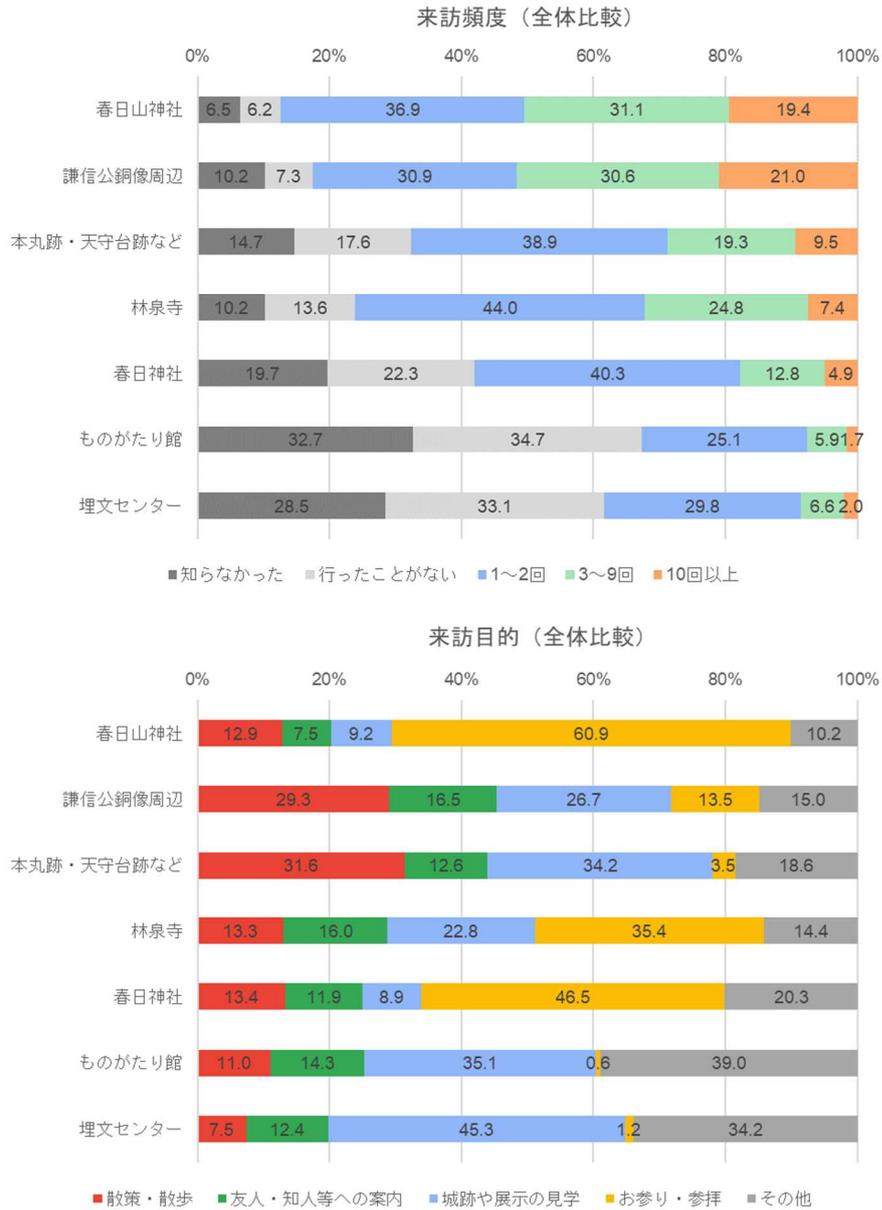


図 2.-16 来訪経験回答

- 当時のイメージとして、「天守閣があった」と考えている人が過半数を超える。

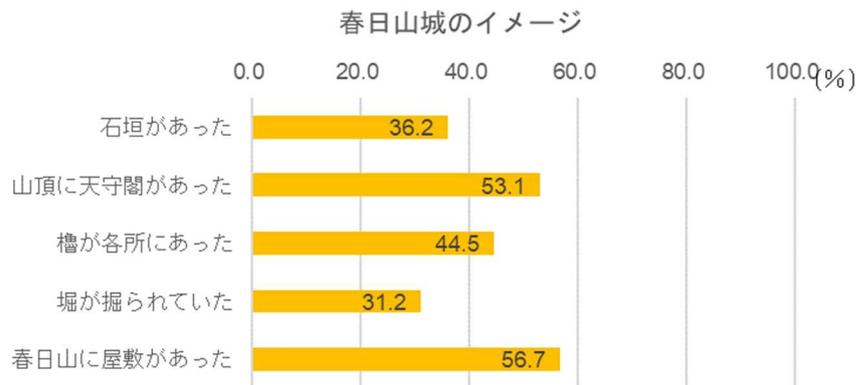


図 2.-17 春日山城跡のイメージ回答

- 90%以上の人々が、春日山城跡を観光資源として捉えている。

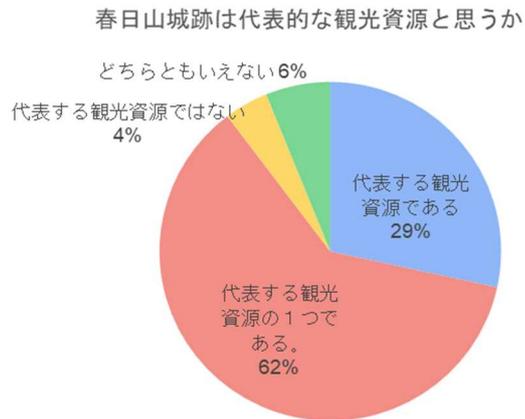


図 2.-18 観光資源としての捉え方回答

- 約 70% の人が、春日山城跡を整備すべきと考えている。

春日山城跡を観光地として整備すべきと思うか

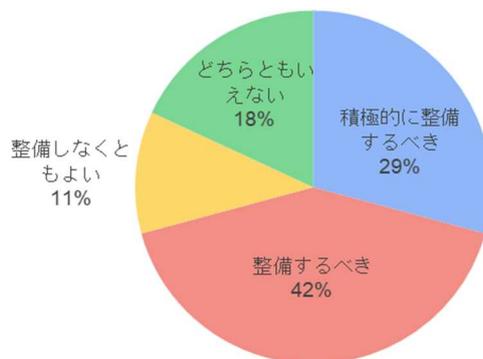


図 2.-19 観光地としての捉え方回答

- 整備の方向性としては、「屋敷などの復元」41%、「全てを充実させる」23%、「観光施設の充実」20%。

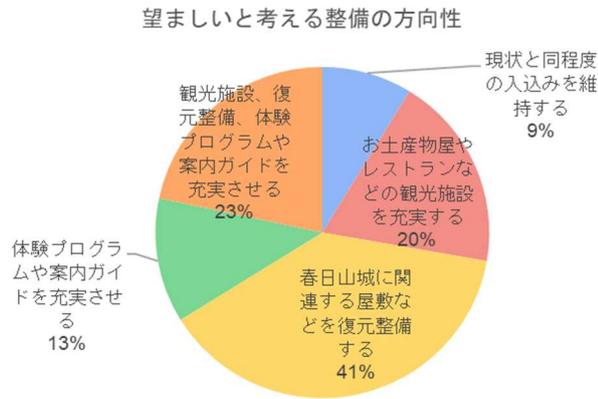


図 2.-20 整備の方向性回答

- 整備すべきでない人の理由は、「史跡として守ることを優先」、「観光資源として期待できない」「資金投入に疑問」がそれぞれ40%を超える。



図 2.-21 整備すべきでない人の理由回答

- 春日山城跡で不足しているものは、「遺構の整備・復元等」が50%と最も多い。

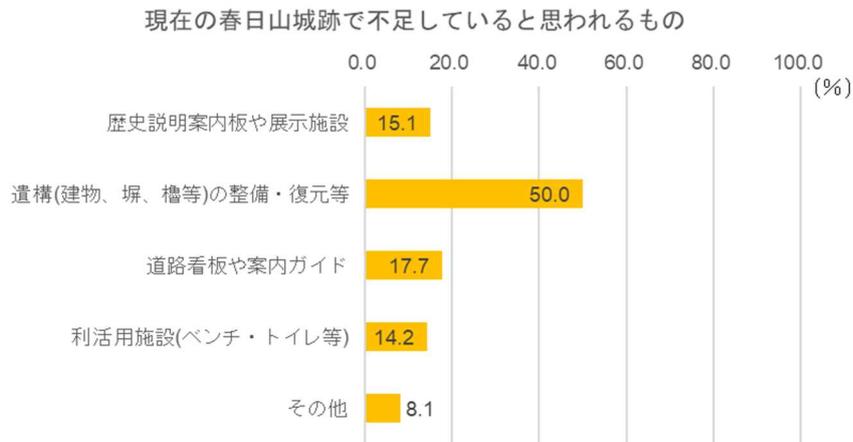


図 2.-22 不足しているもの回答

- 今後の春日山城跡に希望する保存・活用は、「良好に残る遺構の保護を優先」が約40%と最も多い。

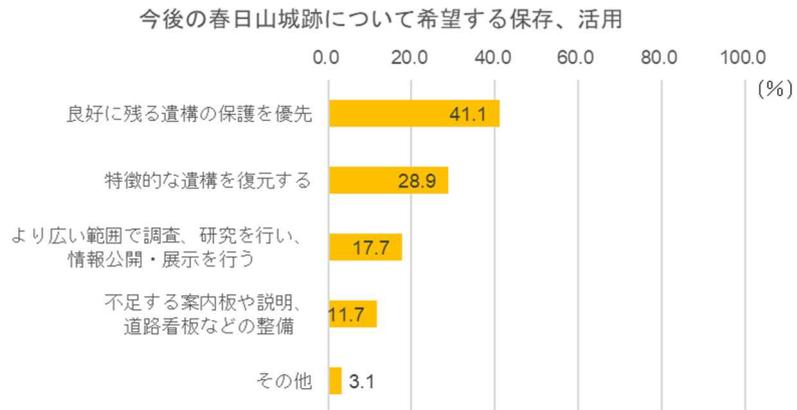


図 2.-23 希望する保存・活用回答

- 春日山城跡の整備として望ましいものとしては、「総構や古道の整備」が47%と最も多く、次いで「散策道の整備」「小・中学生向けに春日山城跡の歴史を学ぶ機会」「春日山城跡や上杉謙信公のイメージ戦略」が40%を超える。



図 2.-24 整備として望ましいもの回答

- 約40%の人がボランティアへの参加意向を示している。

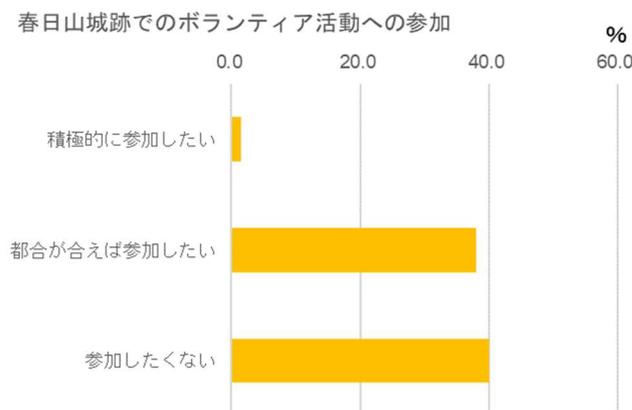


図 2.-25 ボランティアへの参加意向回答

(3) 上越市民の春日山城跡にかかわる現況調査

1) 春日山城跡保存整備促進協議会

春日山城跡に向かう県道の改良工事を求める期成同盟会が発展、解消して2008年11月に、春日山町内会や市民団体、企業が中心となって結成された。地域と行政が一体となって、上杉謙信公が居城としていた往時の春日山城跡の保存、整備等を行い、市民や多くの観光客から親しまれる山城として、後世に継続することを目的としている。主な活動は以下の通り。

- ・春日山城跡の調査、研究
- ・古道整備、大清掃、草刈りなどの環境整備
- ・小、中学生と松葉かきなどの活動の実施

整備事業の一環として行っている年3回の清掃活動には、地元19町内の有志をはじめ、地元の中学生や大学生、企業、各種サークルなどから多数のボランティアが参加する。



写真 2.-1 草刈りの様子



写真 2.-2 清掃の様子

(出典：上越市 HP)

2) 土の一袋運動

土の一袋運動は、廃城後400年あまり経ち、長年の風雨で土砂が流出して風化が進む春日山城跡の修復に役立てるため上越市が呼びかけ、訪れた方々と協働で一袋の土を運ぶ地道な活動。平成11年から開始し、現在は、次世代を担う地元の小中学校が伝統行事としても積極的に取り組んでいる。「土の城」春日山城跡を守るには、雨水などの水処理がとても大切で、近年の集中豪雨により課題となっている水回りの改善などに役立っている。



図 2.-26 土の一袋運動



写真 2.-3, 2.-4 中学生との保全活動(土の一袋運動の一環)

(出典：上越市 HP)

3) 御城印の頒布

上越市は、春日山城跡・高田城跡への来城を促し、城跡の魅力を発信するため、御城印を頒布し、その収益は、城跡の維持管理に活用している。頒布施設の上越市埋蔵文化財センターもしくは上越市歴史博物館のどちらか片方が休館日の場合に限り、もう片方の施設で春日山城、高田城両方の御城印を頒布する。頒布時間は午前9時から午後5時まで、価格は300円。



図 2.-27 御城印

(出典：上越市 HP)

4) 上越市「地域の宝」認定制度

多様な自然環境に恵まれ、悠久の歴史を刻んできた上越市には、たくさんの宝物（文化財）が守り伝えられている。教育委員会では、市民のみなさんが大切にし、心のよりどころとする文化財を「地域の宝」と定め、認定することで次世代への継承を図り、魅力ある地域づくりの一助とすることを目的に、上越市「地域の宝」認定制度を令和2年度に創設した。

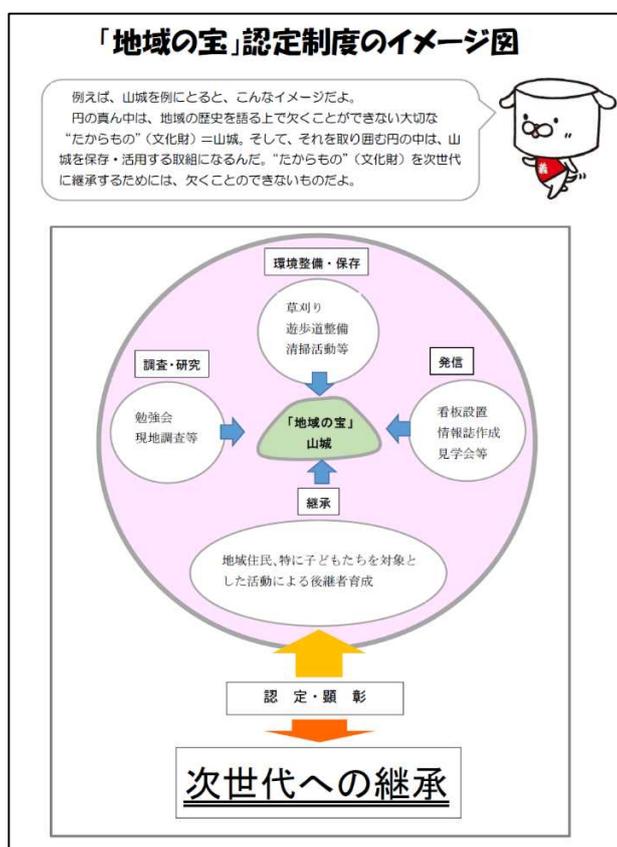


図 2.-28 「地域の宝」認定制度

対象となる文化財は、有形・無形、文化財の指定・未指定は問わず、例えば、建物、仏像などの彫刻、年中行事や祭礼などの風俗慣習、地域に伝わる踊りなどの民俗芸能、地域のシンボルになっている樹木や山城など、様々な種類を対象とする。なお、令和4年度で「地域の宝」の募集は終了しており、これまでに118件が認定されている。春日山城跡も『戦国の名将上杉謙信公の居城「春日山」』として認定(認定番号96)されている。



写真 2.-5 春日山城跡本丸方向



写真 2.-6 春日山城跡総構(春日山城史跡広場)

(出典：上越市 HP)

(4) 復元経緯と課題

1) 自治体アンケート等から窺われる復元経緯と課題

山城復元事例を有する自治体からのアンケート結果と上越市からの聞き取り調査結果から、春日山城の復元に対する課題を整理する。

①自治体アンケート結果

【復元のねらいと背景】

- ・「地域のシンボルや地域愛醸成のため」の目的が最も多く(35.7%)、「観光振興」は「文化価値向上」と同率二番目(28.6%)となっている(問1)。
- ・行政の方針・政策が復元の背景にあるケースが非常に多い(71.4%)(問2)。

→山城の復元は、保存しながらの活用という行政側の施策として進められ、観光振興がその一環に位置付けられていることが推察される。全般に観光振興が第一義的にはなっていないと考えられるが、活用の方針として観光振興といかに結びつけるかが課題である。

【復元の根拠】

- ・復元に際してその根拠となる調査を実施した自治体のうち、「文書・絵図・古写真を調査」または「文書・絵図を調査」した自治体(全3件)は全て大いに成果があったと回答している一方、「文書」または「絵図」のみを調査した自治体(各1件、計2件)は、いずれもある程度成果があったとしている。また、「整備範囲を対象に発掘調査」した自治体(全8件)は、全て大いに成果があったと回答している(問3)。

→復元に際して多角的な根拠が存することは、復元作業に大いに役立つとともに、また事後の検証や評価に耐えうることにもつながる。一方で単独根拠のみだと復元の正確性の低下は否めなくなる。春日山城跡では総構の復元が部分的になされているが、その際の発掘調査でも遺物が見つかっており、整備範囲を対象とした発掘作業は有意義だと言える。

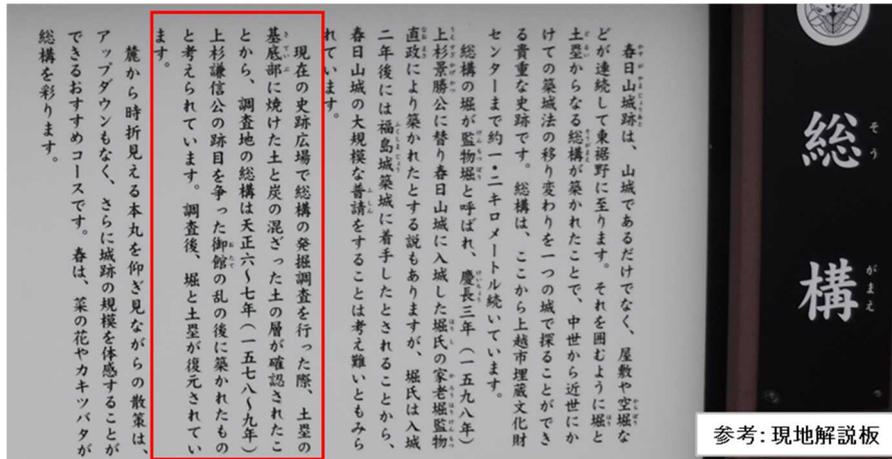


写真 2.-7 総構解説板

【復元の対象要素】

- ・復元対象とした山城の施設は、「塀・柵」が最も多く(14.6%)、次いで「石垣」が多く(12.5%)、「本丸」「櫓」「土塁」「堀・壕」が同率3位(10.4%)となっている(問5)。
- ・復元の内容としては「遺構にもとづいての建造物復元」「現存する石垣・土塁の修理による保存」、「遺構にもとづく石垣・土塁復元」が全体の64.3%を占めている。一方「建造物の外観復元」が17.9%、「植生等周辺環境の保全」が7.1%となっている(問6-1)。

→史実や現状に基づいて復元・保存することは大原則である。但し正当な理由や根拠があり、且つ復元要素として不可欠な場合などに限り、他事例等を参考にしての整備もある程度はやむを得ないと思われる。一方であくまでも現況と史実を優先し、それらの支障のない範囲で山城跡の立地する周辺環境を整え、楽しみ方は訪問客に委ねるという姿勢も少数派ではあるが検討の余地がある。

【来訪客対応施設】

- ・山城の利用のための施設として「解説板・案内サイン」が最も多く(25.0%)、次いで「駐車場」「トイレ」が同率(20.5%)となっており、「山城までの登山道」が3位(18.2%)となっている(問6-2)。

→一般に山城跡は曲輪や堀など土地(地面)の普請痕が主体となっているため、万人向けの分かりやすい案内や解説は必須アイテムとなる。山城はその名の通り殆どが郊外の山手に立地しており、公共交通アクセスが不便な場所も多く、自家用車等の利用に対応する必要がある。またある程度の滞在時間を想定するとトイレも必要である。山頂付近の曲輪や天守台など山城の「核」に到達するためには散策道(登山道)整備が重要であるが、一定のルートを設定することで史跡の保全にもつながるとと思われる。

【復元整備に対する地元の反応】

- ・整備前及び整備後も、復元整備についての地元住民の反応は賛成意見が大半であり、反対意見はないか、ごく少数だったと考えられる(問7)。ある自治体では「用地買収交渉、地元へいかに利益があるか(有益か)の説明・説得」「土地所有者からの承諾を得ること」を整備の課題として回答している(問8)。

→地元に対して、復元整備することの必然性、メリットとデメリット、復元の内容や予算といった丁寧な説明が必要である。また説明の機会(頻度)や場(説明会などの直接手段、広報やHPなどの間接手段)も工夫も課題である。

②上越市からの聞き取り結果(聞き取り先:上越市教育委員会文化行政課、R6年1月22日実施)

- ・通常、史跡の復元は最も新しい時代痕が優先される。となると春日山城最後の城主である堀氏が前面に出ることになる。春日山城は上杉謙信公の居城としての一般認識が支配的なので、その意味でも単純に復元するのは難しい。
- ・仮に様々な場所を発掘調査して遺構や遺物が出土しても、上杉謙信公・景勝公・堀の各時代間のスパンが短いため、どの時代に該当するのかを確定するのが困難である。
- ・上越市の春日山城跡の整備目標としては、直江津(府中)との関りに焦点を当てたいと考えている。その一環として、城跡の北東側のスギ林の間伐を行い、直江津駅から春日山城跡を視認できるようにすることを進めている。
- ・府中方面から春日山城跡へ、春日神社や林泉寺を経て観光客をアプローチするのも新しい展開になると思われる。守護所があった越後府中に対して、当時の政治の要である春日山城が常に目を光らせていた、というコンセプトである。
- ・2030年の謙信公生誕500年に向けて、総構の監物堀等の復元整備を進めているが、時間的な制約などを踏まえると、全区間の整備は難しいので、埋蔵文化財センター裏手の一定区間(堀の南部区間辺り)の復元を目途としている。

→市の文化行政サイドとしては山城内の空堀や櫓等の建造物の復元に対しては慎重姿勢である。現状保存に重きを置きつつ、保存に支障のない手法で活用の道を探っている。一方で、春日山城跡の新しい捉え方として、直江津(府中)方向・方面からのアプローチといったコンセプトも検討している。総構は大部分が山の裾野の平場にあり、復元工事がやりやすい一方、山城の曲輪や空堀は山手にあるので、資材の搬入や工事車両等の進入路の確保、史跡を毀損しない施行ヤードの設定といった整備の前段から難しい課題が出てくると考えられる。

③課題の総括

- 山城復元と観光振興をいかに結びつけるか。
- 山城の復元根拠の信頼度が将来に渡って保てるか。
- 復元精度のレベルと山城のあるべき姿の合理性の構築。
- 利活用も含めた復元整備に対する地元市民の意識の醸成。

3. 法令調査

(1) 関係法令調査

1) 文化財保護法

(現状変更等の制限及び原状回復の命令)

第二百五条

第一項 史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置又は非常災害のために必要な応急措置を執る場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。

(現状変更等の許可の特例)

第二百二十九条の四

第二百二十九条の二第三項に規定する事項が記載された史跡名勝天然記念物保存活用計画が同条第四項の認定（前条第一項の変更の認定を含む。以下この章及び第五十三条第二項第二十五号において同じ。）を受けた場合において、当該史跡名勝天然記念物の現状変更又は保存に影響を及ぼす行為をその記載された事項の内容に即して行うに当たり、第二百五条第一項の許可を受けなければならないときは、同項の規定にかかわらず、当該現状変更又は保存に影響を及ぼす行為が終了した後遅滞なく、文部科学省令で定めるところにより、その旨を文化庁長官に届け出ることをもって足りる。

2) 『史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準』

『史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準 令和2年4月17日 [文化審議会文化財分科会決定]』で定める復元の定義並びに基本的事項

1. 復元

1. 定義

「歴史的建造物の復元」とは、今は失われて原位置に存在しないが、史跡等の保存活用計画又は整備基本計画において当該史跡等の本質的価値を構成する要素として特定された歴史時代の建築物その他の工作物の遺跡（主として遺構。以下「遺跡」という。）に基づき、当時の規模（桁行・梁行等）・構造（基礎・屋根等）・形式（壁・窓等）等により、遺跡の直上に当該建築物その他の工作物を再現する行為をいう。

2. 基準

歴史的建造物の復元が適当であるか否かは、具体的な復元の計画・設計の内容が次の各項目に合致するか否かにより、総合的に判断することとする。

(1) 基本的事項

- ア. 当該史跡等の本質的価値の理解にとって有意義であること。
- イ. 当該史跡等の本質的価値を理解する上で不可欠の遺跡の保存に十分配慮したも

のであること。

ウ．復元以外の整備手法との比較衡量の結果、国民の当該史跡等の理解・活用によって適切かつ積極的意味をもつと考えられること。

エ．保存活用計画又は整備基本計画において、当該史跡等の保存管理・整備活用に関する総合的な方向性が示され、歴史的建造物の復元について下記の観点から整理されていること。

①復元の対象とする歴史的建造物の遺跡が史跡等の本質的価値を構成する要素として特定されていること。

②当該史跡等の歴史的・自然的な風致・景観との整合性が示されていること。

③復元後の管理の方針・方法が示されていること。

3) 都市計画法

春日山城跡、春日山神社、春日山城史跡広場は都市計画区域内の市街化調整区域となっている。

史跡整備等により開発行為（主として建築物の建築または特定工作物を建設する目的で行う「土地の区画形質の変更」のこと（都市計画法第4条第12号））を行う場合、面積の大小に関係なくすべてにおいて開発許可申請が必要となる。

4) 建築基準法

復元建築物または工作物を新築する場合は建築基準法にしたがって、それらの構造などを準拠する。

5) 消防法

復元建築物または工作物を新築する場合は消防法にしたがって、必要な設備などを準拠する。

6) 復元にかかる法令の要点

- ・春日山城跡の史跡指定地内において現状に変更を加える場合、文化財保護法に規定する「現状変更許可申請」を提出し、許可を得る必要がある。
- ・現状変更にあたっての取扱い基準は平成21年3月策定の『国指定史跡春日山城跡保存管理計画書』において、「地形改変」や「工作物等の建設・新設」は原則として認めないとしている。
- ・「歴史的建造物の復元的整備」とは、史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準において「歴史時代の建築物その他の工作物を遺跡の直上に再現する行為」と規定されている。
- ・都市計画法・建築基準法・消防法など建設関連法令に準拠することが必要となる。

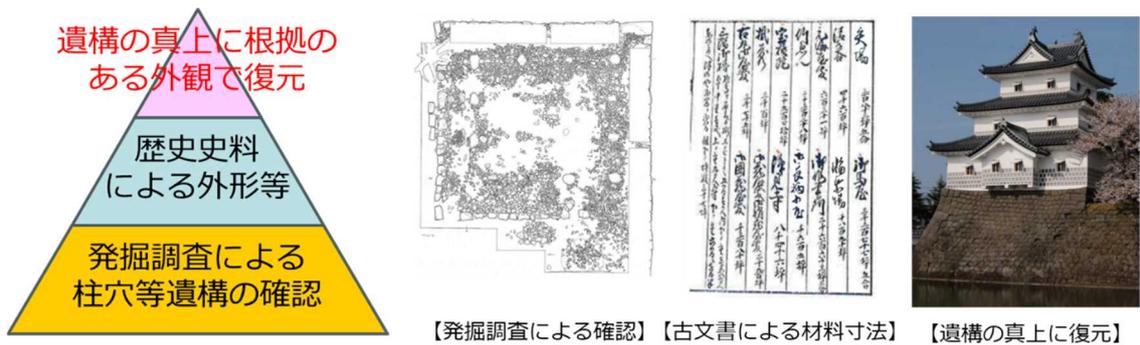


図 3.-1 復元的整備の基準イメージ

(2) 関係計画調査

本業務と関連すると考えられる、上越市の以下の 9 つの計画において、「春日山城」の復元実現の可能性との関わり(以下、「本業務との関わり」等と称す)を整理する。

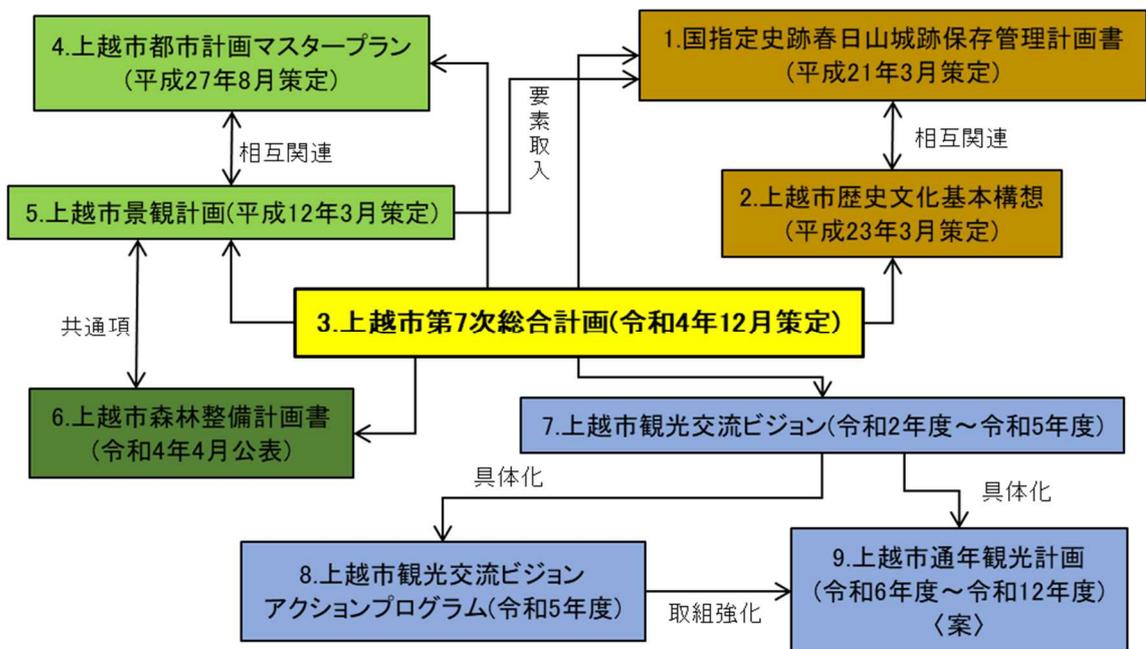


図 3.-2 関連計画の相関イメージ図

以下、文化財及び観光振興にかかる部分を抜粋して記載する。

1) 国指定史跡春日山城跡保存管理計画(平成 21 年度策定)

●策定の狙い

昭和 55 年に策定された「保存管理計画」について、社会動向や史跡指定地周辺環境の変化等を踏まえて、「景観主義」という新たな視点を含め、将来的な春日山城跡の保存と活用、整備公開、維持管理等の方向を改めて示すことを目的とする。

- ◆史跡管理の4つの理念**
- ①史跡の価値の見直し
 - ②地域とともにある史跡のための取組
 - ③史跡が記憶してきた歴史の再生
 - ④地域住民と協働で育成する歴史



- ◇基本方針**
- 1)史跡の多面的な価値を踏まえた見直しと新たな保存管理
 - 2)史跡景観の保存と人材育成
 - 3)地域と共にある史跡のための現状変更の見直し
 - 4)市民協働による保存管理及び活用への推進
 - 5)防災・植生管理への対策

【現状変更取扱い基準】

■史跡指定地

- 1) 工作物等の建設・新設
原則として認めない。
- 2) 工作物等の改良
地域住民に必要不可欠なものであって、遺構・景観に影響のないものを除いて、原則として認めない。可能な限り新規の掘削を生じないことが望ましい。
- 3) 地形改変
原則として認めない。
- 4) 家屋等の増改築・維持管理
原則として認めない。
- 5) 家屋等の新築
原則として認めない。
- 6) 植栽・伐採
史跡の保存・管理・活用及び防災等の観点から有益と判断されるものは認める。ただし、伐採における伐根は原則として認めない。

2) 上越市歴史文化基本構想(平成23年3月策定)

●中核的文化財と関連文化財群の考え方

「歴史文化」という考え方を具体的に表現するために、この構想では「中核的文化財」と「関連文化財群」というものを設定している。上越市は、各時代の権力者の交代に伴ってその拠点とする場所が変わり、前時代を否定し、継続しないという地域的特徴を持っている。そのため「歴史文化」の中には、各時代に拠点であった場所が存在しており、それが文化財として残っている。そこで拠点であった文化財を「中核的文化財」とし、それを核として関係ある文化財の集合体を「関連文化財群」とした。

- 中核的文化財

「原始～古代」の「吹上・釜蓋遺跡」、「中世」の「春日山城跡」、「近世～現代」の「高田城下町と直江津今町」、の3つを選定した。

- 関連文化財群

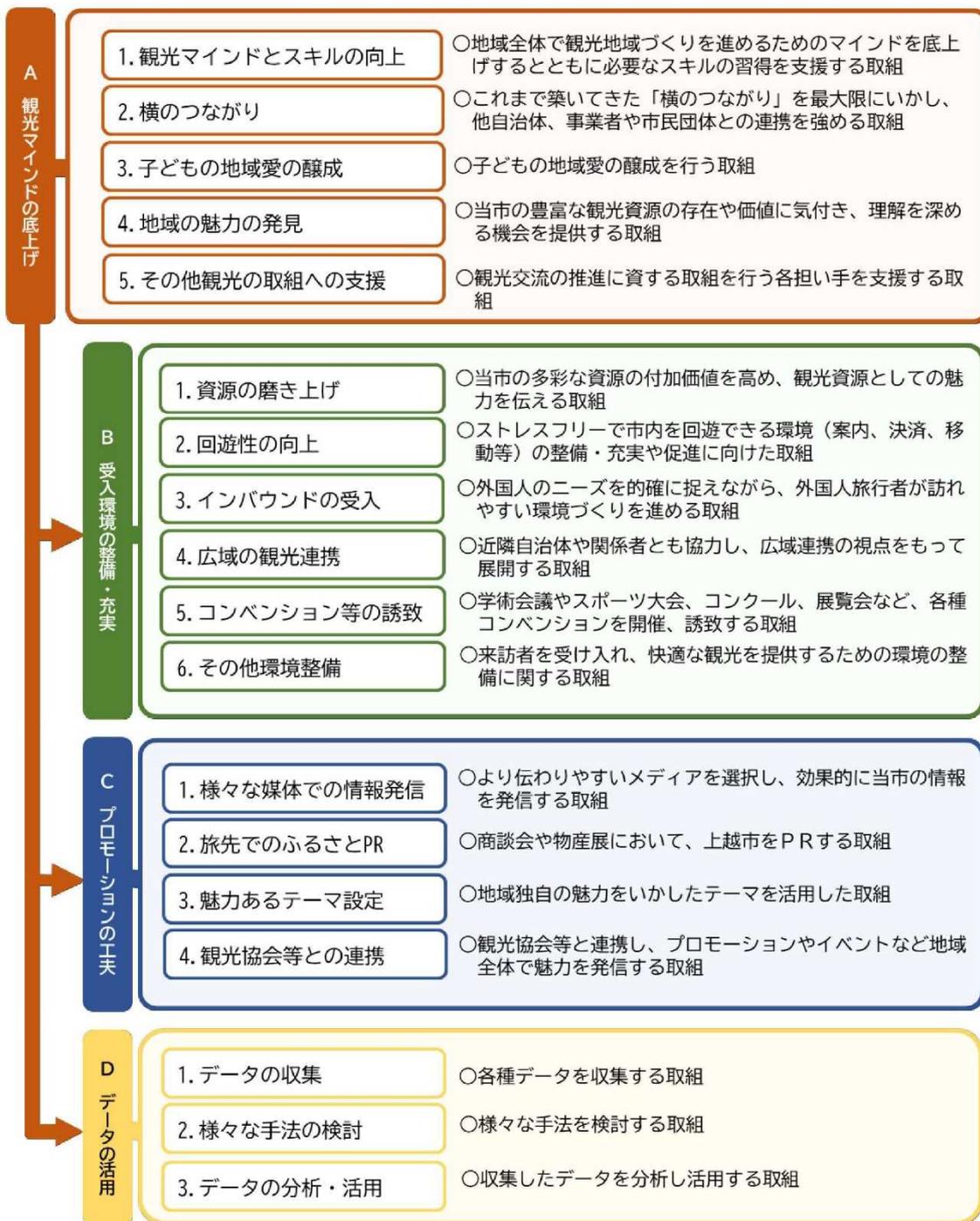
中核的文化財との歴史・文化・地域・環境・生業・生活などの関わりや、時代や地域を超えた物語、複数がつながる物語などの物語性、同時代性などの条件に従って選ばれた文化財によって構成される。関連文化財群は、中核的文化財とそれぞれの文化財など様々なものの相互の関連性によりくくられるもので、同時代性が重視されるが、ただ単純に文化財を時代で区切るものではない。中核的文化財との関連性の中で、文化財やその背景にある地域の景観や暮らしがどれだけ密接にかかわっているか、どれだけ物語性をもって語るができるかにより、3つのうちどの関連文化財群に含まれるかが決められる。

関連文化財選定例：謙信公祭…大正時代に郷土の英雄である上杉謙信公を顕彰する意味で始められた祭りであり時代的には新しいが、地域住民が日常生活の中で地元の英雄を誇りに思い、後世に伝えるための祭りとして、春日山城跡の関連文化財に位置付けられると考えられる。

3) 上越市観光交流ビジョン・アクションプログラム 2023(令和5年度)

●位置づけ

「上越市観光交流ビジョン」で表した「ありたい姿」に向かうために、「基本取組」を柱として、行政が予算に基づいて行う事業や民間事業者・団体等が行政と連携して取り組む事業を取りまとめ、「上越市観光交流ビジョン」を基に、行政が何を行うのかを示したもの。観光を取り巻く状況の変化やその速さに柔軟に対応していくことが必要であることから、毎年進みぐあいの確認や事業の見直しを行い、単年度ごとにアクションプログラムを作成する。



（上越市観光交流ビジョン_アクションプログラム 2023 より引用）

図 3.-3 アクションプログラムの体系図

基本取組の具体化に向けたアクションプログラムの事業や取組のうち、本業務に関わりのある事業等について抽出・整理する。

【A 観光マインドの底上げ】

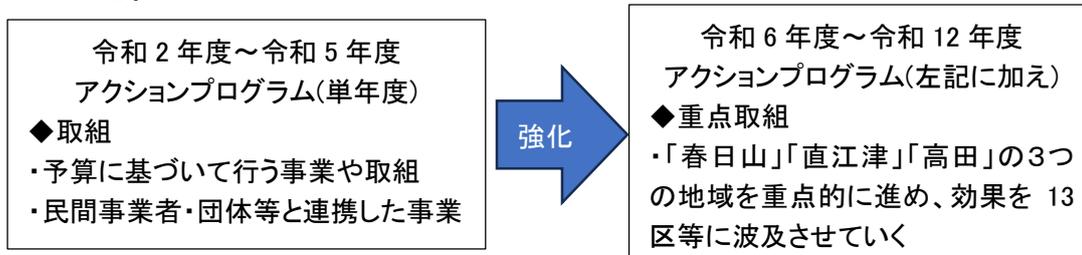
◆主要事業(★)・事業

事業	実施内容	区分
★観光地域づくり実践事業	# (ハッシュタグ) 上越もよう ・市民自らが当市の魅力を発信しようとする気運を高めるため、投稿写真を観光PR素材として積極的に活用する。	継続
★インバウンド推進事業	インバウンド推進事業補助金 ・市内事業者が実施する外国人旅行者の受入態勢の整備を支援する。	継続
観光案内所運営事業	・当市への来訪者が楽しく快適に過ごせるよう、高田駅前、直江津駅前、上越妙高駅に観光案内所を設置し、観光情報の提供や各種問合せに対応する。 ・春日山城跡を訪れる観光客への案内のほか、ゴールデンウィークやお盆期間中におけるシャトルバスの運行や駐車場の誘導対策などを実施する。	継続
「越後上越 上杉おもてなし武将隊」事業	・「越後上越 上杉おもてなし武将隊」による観光客の出迎えや観光案内、謙信公の遺徳を後世に伝えるための伝承・啓発活動を行う。	継続
地域の歴史的・文化的資源の保存と継承	郷土の偉人顕彰の取組支援 ・郷土の偉人の顕彰活動団体の取組を支援するため、新たに交付金を創設。	新規
謙信KIDSプロジェクト	・当市の豊富な地域資源及び地域の人材を活用した講座の実施や体験活動を通じて、各分野の興味・関心を高め、子どもたちの好奇心を刺激し、知的探求活動を進め、心豊かでたくましい「ふるさと上越」を語るができる子どもを育てる。	継続
埋蔵文化財センター管理運営費	・埋蔵文化財の保護と情報発信の拠点として、調査研究、保存管理、普及公開を行い、小中学校の総合学習や春日山城跡ものがたり館等を結ぶ史跡めぐりのルートとして利活用を図る。	継続
★観光インフォメーション利用環境整備事業	観桜会等のイベント向けアプリの導入 ・市内の回遊性の向上や消費拡大につなげるため、各種の観光情報やサービスを提供するアプリを新たに導入するとともに、来訪者の属性や行動パターンの収集・分析に取り組む。	新規
★歴史文化推進費	「地域の宝」認定制度 ・有形・無形、文化財の指定・未指定に関わらず、地域住民が大切に守り伝え、心のよりどころとする文化財を「地域の宝」と定義した上で、「地域の宝」とそれを保存・活用する取組を総体として認定する制度を運用し、次世代への継承を図るとともに、魅力ある地域づくりの一助とする。 (新規)「地域の宝」ガイドブックの作成 ・歴史・文化的資源を次世代に継承するため、「地域の宝」を掲載するガイドブックを作成し、情報発信を行う。	拡充

歴史的建造物等整備 支援事業	・市民団体等が行う歴史的建造物等の整備に対し、補助金を交付することにより、歴史的建造物等の保存と活用を図る。	継続
-------------------	--	----

●アクションプログラムの強化

アクションプログラムの令和6年度以降は、以下の重点取組を追加することとしている。



4) 上越市通年観光計画(案)(令和6年度～令和12年度)

●計画の基本方針

計画の目的として、人口減少を背景とする地域の課題、特に、衰退が懸念されている地域の歴史・文化について、観光という手法を用いてこれらを継承していくことを目指す姿として位置付け、計画で取り組む施策の中核として「観光地域づくり」の考えを用いている。

「観光地域づくり」については、これまでのスポット的な観光”地”づくりから、当市のような課題の解決を視野に、「まち・暮らしづくりの観点」と、「新しい観光産業の創出の視点」を取り入れていくものである。

通年観光では、まずは日帰り観光客の滞在時間を延ばすことや、一泊から二泊の滞在者を増やし、ビジネスが生まれやすいコンスタントな観光客の増加に向けて、施策を展開していくこととしている。

これにより、地域の資源をいかした生業の創出など、観光を通じて、地域の歴史・文化の継承や市民のまちへの誇りや愛着の醸成をはじめ、持続可能なまちの形成を図っていくものである。

●観光地域づくりコンセプト(全体)

「越後の都 誇れる上越の3つの暮らしと心意気」

◇重点地域

- ①春日山地域 義の心と強さに出会う「謙信公の春日山城」
- ②直江津地域 歴史と人情の「日本海うみまち」
- ③高田地域 雁木でつながる「花咲く共助の城下町」

◇重点地域

①春日山	義の心と強さに出会う「謙信公の春日山城」 ・春日山城に抱（いだ）かれる豊かな暮らし ・謙信公に出会う（義の精神・勝負強さ） ・自然と景観と心に触れる
②直江津	歴史と人情の「日本海うみまち」 ・日本海うみまちの新しい暮らし ・人情と祭りとの精神 ・府中とみなと町の歴史と文化
③高田	雁木でつながる「花咲く共助の城下町」 ・城下町の歴史ある豊かな暮らし ・雁木でつながる共助の精神 ・花咲く景観と生業

これらの重点地域やコンセプトのうち、本業務と関わりのある「春日山」地域についての事項を抽出・整理する。

●春日山城跡の将来イメージ

公園的な管理を行うことで、山全体が手入れされた整然さを持ち、「城」の風格を創出していく。

●重点地域「春日山」におけるエリア別施策展開案

エリア等	施策
①春日山城エリア	・植林された杉を伐採し、大正時代の山城の姿に戻す。 ・散策道や木道の再整備に加え、古道を整備し、山全体に手入れされた整然さと「城」の風格を創出していく。 ・エリア全体に統一した案内サインを整備するとともに、ベンチ等を整備する。 ・馬場広場を修景整備するとともに、飲食・物産機能の強化を図る。 ・本丸～馬場広場～神社下駐車場のトイレ配置を再検討し、改修を行う。また、駐車場の在り方を検討し、再整備を行う。 ・白山、大手道、黒金門の3ルート of 入口を整備する。
②観光拠点エリア	・総構の堀と土塁を復元し、植栽を行う。 ・埋蔵文化財センター周辺敷地において、休憩、飲食、物産、学習、貸室機能を備えた観光拠点施設を整備する。シャトルバスを始め二次交通の発着場・主要経由地と位置付け、春日山城エリア回遊の拠点とする。 ・施設整備や運営は民間ノウハウを活用し、サウンディング型市場調査等により活用候補者選定後、施設整備を行う。 ・春日山荘を除却し、観光拠点施設と一体的な施設を整備する。
③史跡広場エリア	・謙信公祭において川中島合戦の再現を行っている史跡広場の利活用方法を検討する。 ・埋蔵文化財センター周辺に新たに観光拠点施設を整備することから、現在、春日山城のガイダンス施設と位置付けている「ものがたり館」について、観光拠点施設（公園管理、飲食、グランピング）としての機能、運営を検討する。

④春日山駅エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・上越文化会館の広場を改修し、車両の乗り入れが可能な集客イベント広場の整備を行う（繁忙期のパークアンドライド用の駐車スペースや災害時の避難場所としても活用）。 ・春日謙信交流館に観光案内機能を新たに整備するとともに、電車利用客及びパークアンドライド客の移動手段とするため、二次交通の実証実験を行うとともに、結果を踏まえ二次交通を整備する。 ・春日山城来訪客の玄関口として、春日山駅に春日山城や謙信公の雰囲気を感じることができる設えを整える。
回遊動線	<ul style="list-style-type: none"> ・エリア全体の回遊観光に必要な整備を行うため、回遊観光戦略（案内所、二次交通、駐車場の最適化、全体サイン計画）を策定する。 ・二次交通の検討を行うため、シャトルバス、グリーンスローモビリティ及びレンタルサイクルの実証実験を行う。 ・駅からの誘導や歓迎ムードづくりのため、謙信公大通り沿いにサイン及びバナーフラッグを整備する。
ソフト事業	<ul style="list-style-type: none"> ・集客が見込めるコンテンツ、拠点施設機能等の市場調査を踏まえた観光コンテンツ基本計画を策定する。 ・謙信公ブランディング戦略を策定する。（マーケティング、プロモーション、シンボルマーク） ・環境保全活動・研修活動の収益化に向けた仕組みづくりを行う。 ・地域の子どもの郷土への誇りと愛着の育成を行う。

4. 春日山城の復元の整備方法の調査検討

(1) 復元の整備方法検討

1) 復元整備方法の検討

①史料からみる建築物・工作物に関する復元整備方法の検討

『国指定史跡春日山城跡保存管理計画書』によると、春日山城の絵図は「建物が描かれず郭に本丸・門・馬場といった機能を記したり、武将名を表記したもの」と「建物が描かれているタイプで、印刷物などで市中に出回っているためよく知られているもの」の二つの系統をみることができるという。建物を表現しているものは、幕末になって登場するものと考えられ、尊王思想を背景にした王政復古という時代動向の影響を受けたものであること推測されるという。

したがって、絵図に書かれている建物を根拠として復元整備を行うことは難しいといえる。

②発掘調査からみる建築物・工作物に関する復元整備方法の検討

これまでの発掘調査について上越市へ聞き取りをした結果を以下に示す。

- ・春日山城跡では4回に渡る史跡指定に伴う発掘調査は、ほぼなされたことはない。
- ・山城や古墳は地上に見えているので発掘はせずに史跡指定できるのが通例である。
- ・おもに史跡広場(監物堀)など整備に伴う場所での発掘調査を実施している。
- ・春日山城に関する史料が存在すれば、それと突き合わせるために発掘調査をする場合もあるが、史料がなければ調査の必要性は薄い。
- ・御屋敷跡は史跡指定地外だったため、トレンチを広めに掘ってみたが建造物跡は見つからなかった。また礎石や掘建の痕跡もなかった。
- ・仮に様々な場所を発掘調査して遺構や遺物が出土しても、上杉謙信公・景勝公・堀の各時代間の間隔が短いため、どの時代に該当するのかを確定するのが困難である。

(聞き取り先：上越市教育委員会文化行政課 2024年1月22日)

以上のことから、本丸・二の丸・曲輪における建造物や工作物の復元整備に関して、史料がない中での新たな発掘調査は実施しない方針であり、建造物・工作物の復元にあたって遺構直上の復元根拠が整わないため、復元整備は難しいといえる。

③復元事例からみる建築物・工作物に関する復元整備方法の検討

山城復元事例自治体アンケートによる山城整備に際しての課題事例を以下に示す。

- ・静岡県浜松市：高根城跡(市指定)
城の形状を確定できる資料(文書及び絵図等)がなかったため、復元施設を建設するにあたって、時代背景を最大限に考慮し施設の設計にあたった。

- ・長野県千曲市：荒砥城跡（市指定）
公園整備予定地には、民間会社が建設した遊園地・動植物園があり、整備の時点で遺構が殆ど破壊された状態であり、明確な遺構の確認はできなかった。そのため、同時期に復元された愛知県の「足助城」を参考としている。
- ・兵庫県宍粟市：波賀城跡（市指定）
現在、史跡公園内に設置している二層櫓は模擬櫓である。（二層櫓は歴史資料館として公開している）

以上のことから、本丸・二の丸・曲輪における建造物や工作物の復元整備に関して、時代背景を考慮して類似施設の事例を参考に建造物・工作物の復元を行っている山城があることがわかる。

しかし、上越市教育委員会文化行政課への聞き取り（2024年1月22日）結果を踏まえると、上杉謙信公・景勝公・堀の各時代間のどの時代に該当するのかを確定するのが困難であることから、春日山城の時代背景を考慮した参考事例を定めることが難しいといえる。

④建築物・工作物以外の復元整備方法の検討

上記をふまえ、建築物・工作物の復元整備は難しいといえるため、堀・土塁・曲輪といった地形や山城の景観に関する復元整備方法を検討する。

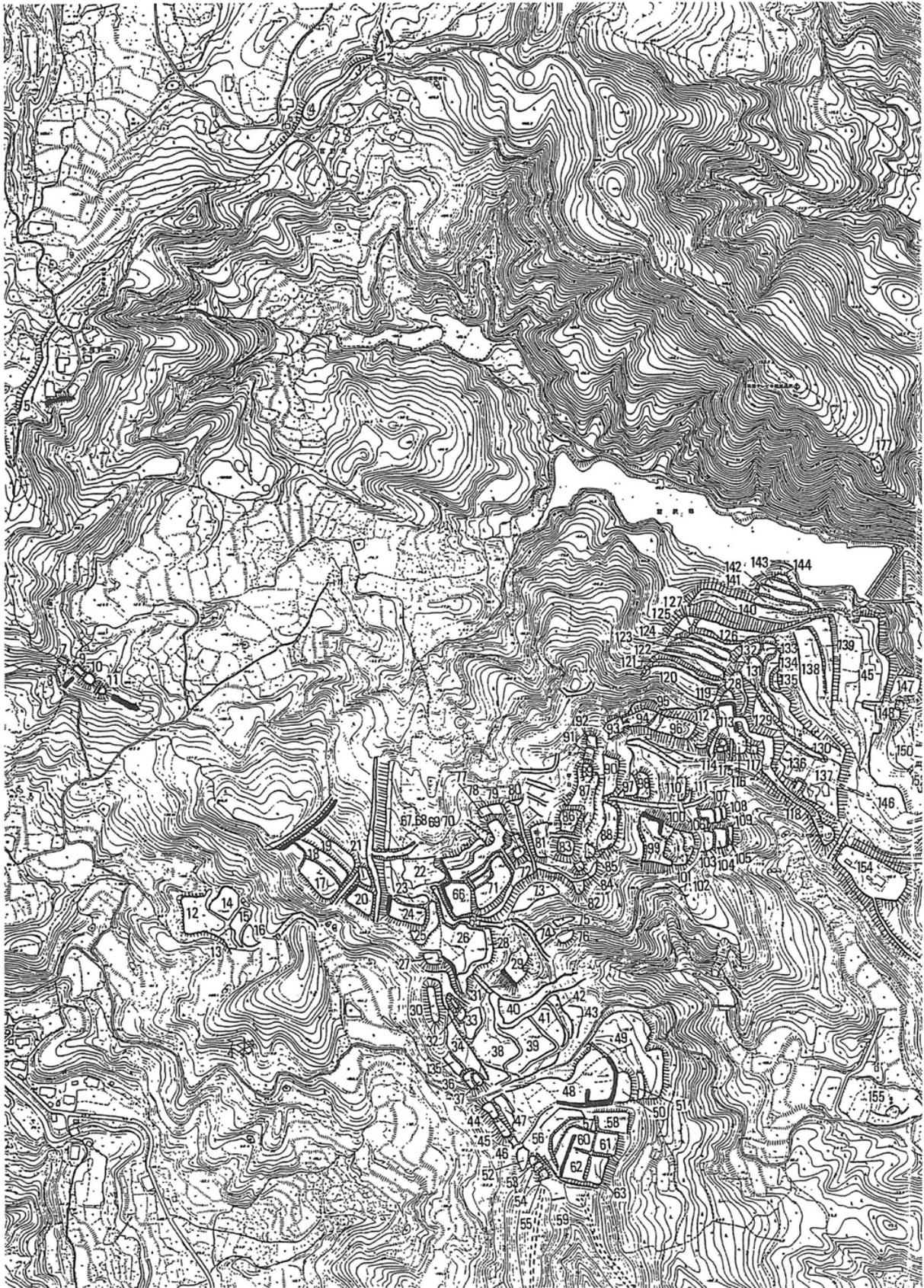
現在、上越市では春日山の麓に春日山城史跡広場として堀・土塁の一部を復元整備し、今後もそれら総構と称される監物堀等の復元整備を進めていくこととしている。

加えて、春日山そのものにおいては昭和後期に植林された杉を間伐し、大正時代の古写真で写されている山城の曲輪の輪郭がよくわかる景観を復元する事業が進められている。

それらは、春日山城の特徴である山頂の本丸から山下の平坦部まで途絶えることなく遺構が連続している、大きな景観を復元していることと捉えられている。

したがって、来訪者にとって堅堀や曲輪の形状が分かりやすい状態となるよう景観復元をより一層推進し、春日山城跡の本質的価値と魅力の向上を図る整備を行うこととする。

以下に、春日山城の縄張り図を示す。



※81 が本丸、79 が天守台の位置

図 4.-1 春日山城縄張り図（出典：『上越の城』、原図提供：新潟県）



※171 付近が春日山城史跡広場

図 4.-1 春日山城縄張り図（出典：『上越の城』、原図提供：新潟県）

2) 復元整備の基本方針

復元整備の基本方針:『上越のシンボル景観、往時の春日山城の山容を復元』

方針1：往時の山城景観を復元

〈基本方針設定の背景〉

- ・外国人アンケート調査で、山城を訪れる理由として「美しい景色が眺められるから」が3割近くと比較的高かった。
- ・上越市通年観光計画（案）において春日山城エリアにおける施策として「植林された杉を伐採し、現存する最古の写真の姿(約100年前・大正時代)に復元する」が掲げられている。
- ・保存管理計画では特に現指定史跡範囲を中心に「植林された杉の計画的な伐採や植栽管理により史跡本来の姿に修景し、除草等により遺構を明示するなどして望ましい景観の形成をめざす」という保存管理方針が立てられている。

方針2：山城中核部の地形を明瞭化

〈基本方針設定の背景〉

- ・上越市民アンケート調査で、春日山城跡で不足していると思われるものとして「遺構の整備・復元等」が5割を占め、また今後希望する保存、活用が「良好に残る遺構の保護を優先」が4割と選択肢中最も高かった。
- ・現在、春日山城跡で「土の一袋運動」が展開されている。長年の風雨で本丸等の風化が進んでいるため、麓から人力ボランティアで土を本丸に運び、曲輪の補強に使われている。しかし善意に頼り続けるのは限界があるため、安定的な曲輪や土塁等の保全策が必要である。
- ・現況として堅堀に雨水が集中して洗堀が進んでいると思われ、保全が急務である。
- ・保存管理計画では本丸等山城の中核を形成する実城部の他、南三の丸、千貫門等(A地区)において「地形をいかした本来の遺構群の景観を創出し、そこで往時の雰囲気を感じられるような整備公開を目指す」との整備・公開方針が立てられている。

方針3：山裾から本丸に至る古の道を感じられる遊歩道を再整備

〈基本方針設定の背景〉

- ・上越市民アンケート調査で、春日山城跡の整備として「総構の土塁の復元や古道の整備」が5割弱で選択肢中最も高かった。

- ・上越市通年観光計画（案）において春日山城エリアにおける施策として『散策道の整備に加え、古道を整備し、山全体に手入れされた整然さと「城」の風格を創出していく』が掲げられている
- ・保存管理計画では本丸等山城の中核を形成する実城部の他、南三の丸、千貫門等（A 地区）において「本丸等主要な曲輪で構成される遺構群の保存、整備を目指すとともに、本来の通路、道順を整理する」という整備・公開方針が立てられている。

方針 4：総構直江津方面からのアプローチルートを創出

〈基本方針設定の背景〉

- ・上越市文化行政サイドは、春日山城跡の新しい捉え方として、直江津(府中)方向・方面からのアプローチといったコンセプトを検討している。
- ・保存管理計画では山城中腹や山麓における将来の追加史跡指定検討地域(D 地区)において「良好な景観を有する山城導入部として、地域住民の生活との調和を図る。堅固な山城と谷合の生活感を有する里としての環境を保全し、景観の公開に努める。地形をいかした縄張りについての案内、説明する施設の充実を行う」という整備・公開方針が立てられている。

3) 整備項目の検討

基本方針に定めた 4 つの方針を実現するための整備項目を以下に示す。

①往時の山城景観を復元

これまで行っている昭和後期に植林された杉の間伐について、北東斜面の間伐を継続し、一目見て山城だと分かる景観を復元する。

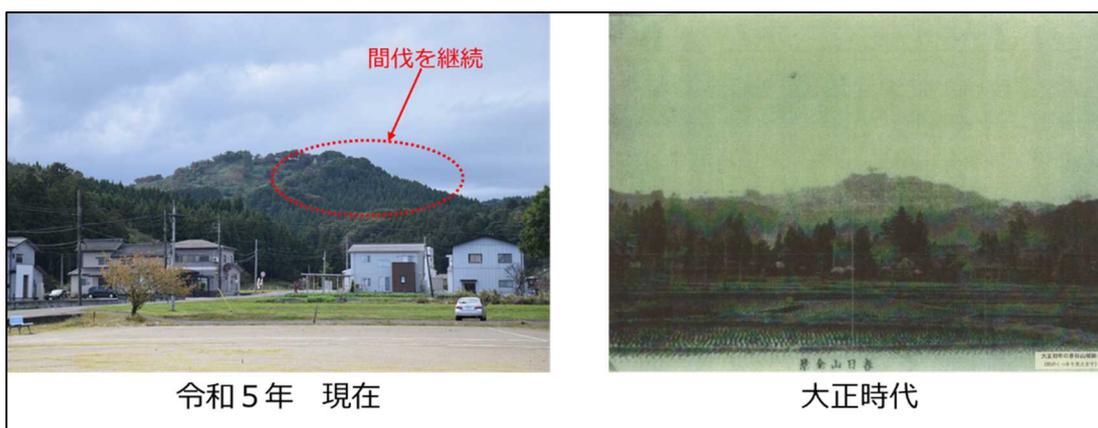


図 4.-2 春日山城跡の現在と大正時代の比較

〈整備項目案〉

- 昭和後期に植林された杉の間伐を継続し北東斜面の景観を復元する。
- 戦国の世に思いをはせる山容の復元を目指す。

②山城中核部の地形を明瞭化

土砂堆積した堀や崩落した斜面の整形など景観復元と保護を行う。

※12月撮影の写真で空堀・土塁・豎堀の地形が明瞭になっているのが分かる。

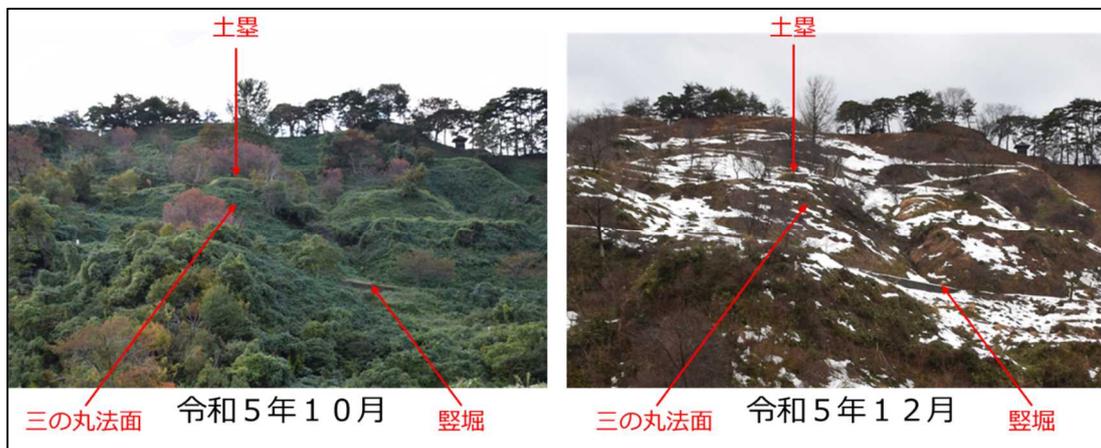


図 4.-3 本丸から三の丸付近の秋と冬の比較

〈整備項目案〉

- 堀内部に堆積している土砂の鋤取り。
- 曲輪、土塁の崩れている法面の整形や植生などによる保護。
- 繁茂した雑木や雑草の除去による景観保全。

特に豎堀については春日山城跡の特徴となるものであることから、堀の保護を目的とした史跡への影響が軽微な排水処理を行う。

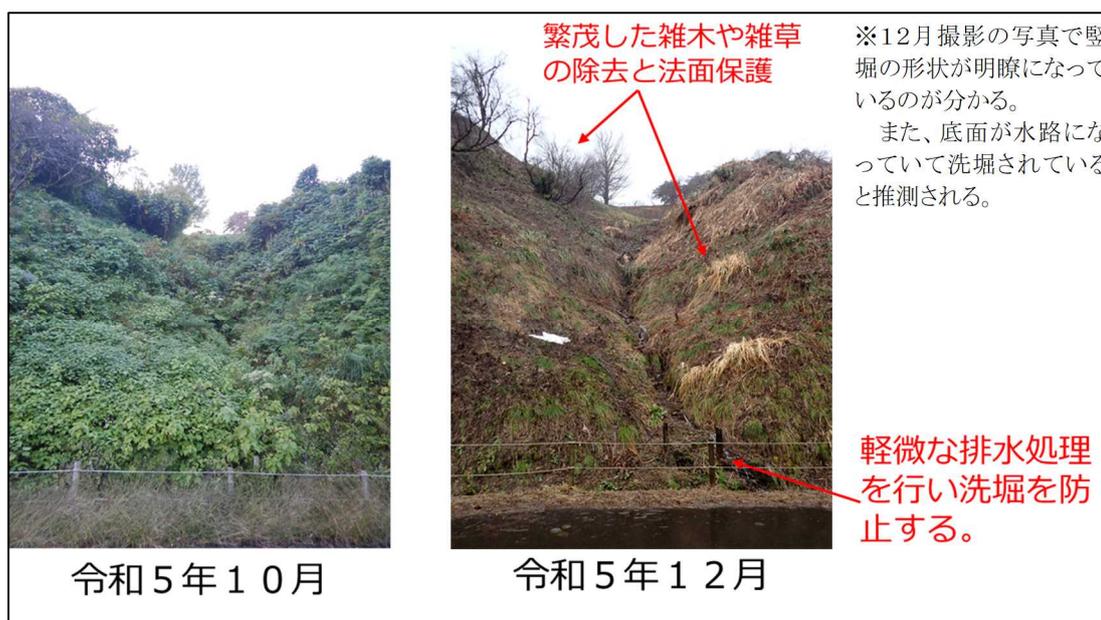


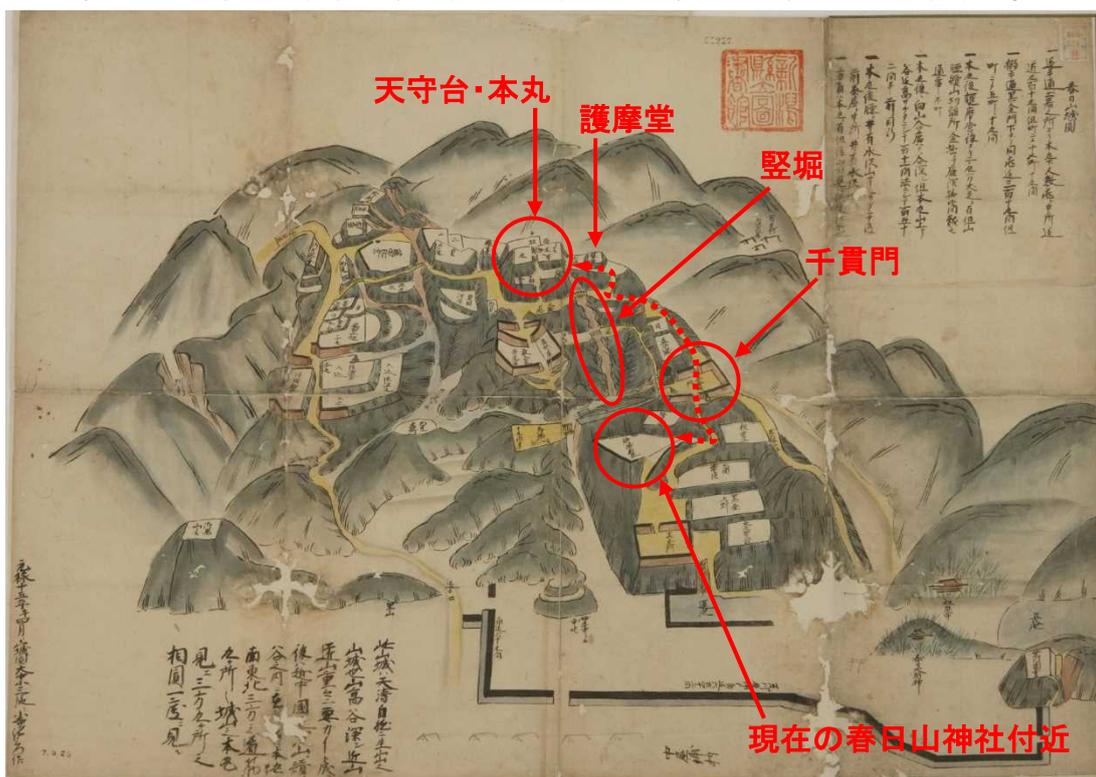
図 4.-4 豎堀の秋と冬の比較

〈整備項目案〉

- 堅堀に堆積している土砂の鋤取りを行い、整形や植生などによる法面保護をする。
- 堅堀底に軽微な排水処理を行い、洗堀を防止する。
- 繁茂した雑木や雑草の除去による景観保全をする。

③山裾から本丸に至る古の道を感じられる遊歩道を再整備

現在ある遊歩道を見直し、山裾から本丸に至る往時の遊歩道を再整備する。



（「春日山城図」（元禄 15 年（1702）新潟県立図書館蔵）より引用）

図 4.-5 絵図における千貫門ルート（推測）

〈整備項目案〉

- 春日山神社から千貫門を通り本丸へ散策する古の道を感じられる遊歩道を再整備し、表土流出防止と景観向上のため砂利やチップを敷くなどする。

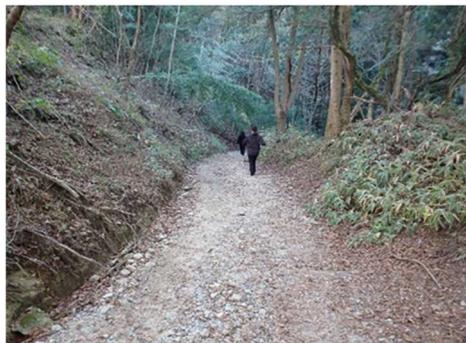


写真 4.-1
参考イメージ：中山道（馬籠峠付近）

④総構直江津方面からのアプローチルートを創出

春日山神社方面へ至る春日山城史跡広場から愛宕谷公園までの道を整備する。



図 4.-6 楼門から愛宕谷公園アプローチルート

〈整備項目案〉

- 春日山城史跡広場の楼門から春日神社－林泉寺－愛宕谷公園－御屋敷跡を見学して春日山神社へ至るルートを整備する。

以上の整備項目案について、次頁に整理する。



図 4.-7 整備項目案【一目見て山城だとわかる姿を復元】

- ①戦国の世に思いをはせる往時の山城景観を復元し、堀・曲輪・土塁が望める遠景と山城からの眺望を確保する。
- ②堀内部の堆積土鋤取り、曲輪・土塁の整形や植生による法面保護、繁茂した雑木・雑草の除去により景観復元を行い、山城中核部の地形を明瞭化する。
(春日山城跡の特徴である堅堀とひな壇状の曲輪が分かる景観整備)
- ③千貫門を通る古の道を感じられる遊歩道を再整備し、遊歩道を登って城を満喫できるようにする。
(砂利やチップを敷く)
- ④楼門から春日神社－林泉寺－愛宕谷公園－御屋敷跡を見学して山城へ登る気分を盛り上げるルートを整備する。
(案内板、誘導サイン、道路舗装の美装化など)

(2) 復元の技術的課題検討

整備の基本方針を実現するための整備項目案について、技術的な課題を以下に示す。

①往時の山城景観を復元

- ・山の涵養機能を損なわないような間伐量の設定
- ・山容を望むことができる場所からの眺望範囲と伐採範囲の設定
- ・伐採後の更新樹木の選定

など

②山城中核部の地形を明瞭化

- ・堆砂している土砂の鋤取り範囲の設定
- ・土砂鋤取り後の地表面整形と表面保護
- ・崩落した斜面の整形や植生による法面保護
- ・雑木・雑草の除去後の維持管理

など

③山裾から本丸に至る古の道を感じられる遊歩道を再整備

- ・現状遊歩道の土留め範囲の設定
- ・復元する遊歩道のルート選定
- ・通路の雨水排水対策の工法選定

など

④総構直江津方面からのアプローチルートを創出

- ・春日山城史跡広場の楼門から春日神社－林泉寺－愛宕谷公園－御屋敷跡を経て春日山神社へ至るルート設定
- ・ルート設定に伴う歩行空間の確保
- ・レンタサイクルなど2次交通手段の導入

など

(3) 周辺環境への影響検討

復元整備を行うにあたっては、自然環境へのインパクトが予想される。実際に復元整備を進める場合に、周辺環境へどのような影響が発生するかを図 4.-8 に整理する。

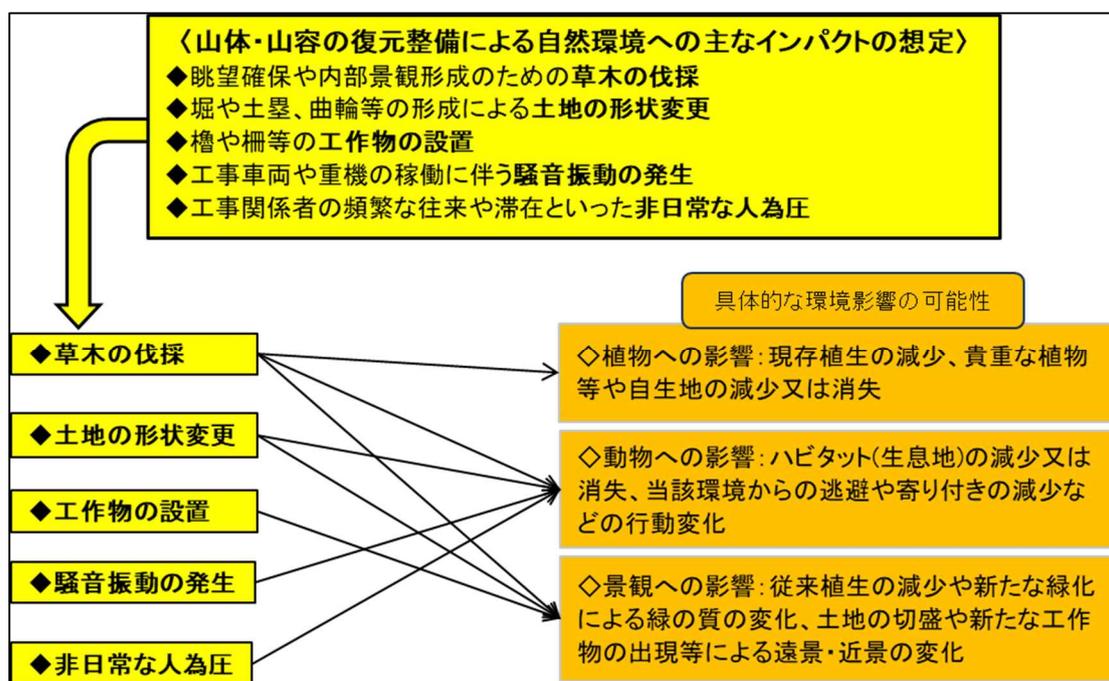


図 4.-8 復元整備による環境影響の想定

また、その対処の必要の有無、対処が必要な場合の保全や配慮などを以下に整理する。

上越市における環境保全の制度や計画等	
①上越市自然環境保全条例(平成 20 年 4 月施行)に基づく自然環境保全基本方針	「自然環境保全地域」や「保護野生動植物」が生息や生育する地域で開発行為を行う場合は、自然環境に与える影響などを十分に配慮する。可能な限り回避することを前提に、やむを得ず開発行為をする場合であっても、影響を最小限度にとどめることを基本とする。同条例で指定された自然環境保全地域には春日山城跡は含まれていない(図 4.-9)。自然環境保全地域以外の土地では、開発行為の予定地域や周辺地域において「多くの自然が残る」「絶滅が危惧されている野生動植物(以下、「絶滅危惧種」)が生息・生育する」などがある場合は、開発行為が及ぼす影響を十分に配慮し、できる限りの保全を行う。
②上越市第 4 次環境基本計画 2023-2030(令和 5 年 2 月策定)の自然環境分野の主要施策	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針「2-1 自然環境との共生」の主要施策として「生物多様性の保全」「環境に配慮した事業活動の推進」を掲げている。 ・基本方針「2-2 自然環境の活用」の主要施策として「自然環境と調和した景観形成の推進」を掲げている。
③上越市レッドデータブック(平成 23 年発行)の活用	市内における絶滅のおそれのある植物 136 種、キノコ 20 種、動物 103 種が掲載されており、自然環境保全施策開発計画における配慮のための基礎資料等となる。



図 4. -9 上越市の自然環境保全地域の位置図

①草木の伐採

【具体的な影響の可能性と保全や配慮対策】

影響の可能性	保全や配慮対策
植物への影響：現存植生の減少、貴重な植物等や自生地の減少又は消失	<ul style="list-style-type: none"> 伐採や草刈り等を行う前に、対象地において植生調査を実施し、絶滅危惧種等の有無を確認し、その結果によっては自生地の除外や他地域への移植などの保全対策を講ずる。
動物への影響：ハビタット(生息地)の減少又は消失、当該環境からの逃避や寄り付きの減少などの行動変化	<ul style="list-style-type: none"> 立木を伐採するエリアにおいて猛禽類(絶滅危惧種に該当する種が大半のため)の営巣の有無を確認する。整備対象地あるいはその周辺で営巣が確認された場合は、営巣木のある林をエリアから除外する、或いは繁殖期を避けて工事を行うなどの保全対策を講ずる。 整備エリアにおいて、主に陸域に生息する動物(哺乳類、鳥類、昆虫類等)の生息調査を行い、絶滅危惧種等の有無を確認し、その結果によっては生息地の整備エリアからの除外や個体の移植、繁殖期を避ける工期設定等の保全対策を講ずる。 ※沢等の水域も整備範囲に含まれる場合は、水生動物の調査も実施する。
景観への影響：従来植生の減少や新たな緑化による緑の質の変化	<ul style="list-style-type: none"> 植栽を行う場合は、地域の特性を配慮した樹種等の選定に努める。 伐採するエリアの遠景写真を利用して事前にシミュレーションを行うなどして、良好な景観の創出に努める。

②土地の形状変更

【具体的な影響の可能性と保全や配慮対策】

影響の可能性	保全や配慮対策
動物への影響: ハビタット(生息地)の減少又は消失、当該環境からの逃避や寄り付きの減少などの行動変化	<ul style="list-style-type: none"> 整備エリアにおいて、主に陸域に生息する動物(哺乳類、鳥類、昆虫類等)の生息調査を行い、絶滅危惧種等の有無を確認し、その結果によっては生息地の整備エリアからの除外や個体の移植、繁殖期を避ける工期設定等の保全対策を講ずる。 ※沢等の水域も整備範囲に含まれる場合は、水生動物の調査も実施する。
景観への影響: 従来植生の減少や新たな緑化による緑の質の変化、土地の切盛や新たな工作物の出現等による遠景・近景の変化	<ul style="list-style-type: none"> 発生した残土で自然環境を損なわないように適切に処理し、法面はその地域に適した工法で緑化修景を行う。 植栽を行う場合は、地域の特性を配慮した樹種等の選定に努める。

③工作物の設置

【具体的な影響の可能性と保全や配慮対策】

影響の可能性	保全や配慮対策
景観への影響: 土地の切盛や新たな工作物の出現等による遠景・近景の変化	<ul style="list-style-type: none"> 工作物については、周辺景観と調和するような材料、配色を選定し、高さ等の規模も周囲との兼ね合いに留意する(但し、史実等に忠実であることは原則である)。

④騒音振動の発生

【具体的な影響の可能性と保全や配慮対策】

影響の可能性	保全や配慮対策
動物への影響: 当該環境からの逃避や寄り付きの減少などの行動変化	<ul style="list-style-type: none"> 工事に際しては低騒音や低振動の工作機器等を採用する。 工期の短縮に努める。

⑤非日常な人為圧

【具体的な影響の可能性と保全や配慮対策】

影響の可能性	保全や配慮対策
動物への影響: 当該環境からの逃避や寄り付きの減少などの行動変化	<ul style="list-style-type: none"> 工期の短縮に努める。 施行ヤードはできるだけコンパクトにし、ヤード以外の不用意な踏み荒らしは慎む。

5. 分析・考察

(1) 復元することによって得られる効果

1) 外国人旅行者ニーズ調査から推察される効果

①山城の認知度から推察する外国人観光客誘致の増加

山城の認知度と来訪経験が天守閣を持つ平城の認知度と大きな差がないことから、訪日外国人の山城への誘致について可能性が大きいと考えられる。山城へ訪れたきっかけの上位は、復元整備の有無によらず「美しい景色」や「地域文化の発信」が売りになる可能性も推察される。殆どの山城には建築物は乏しいので、曲輪などまさに城の縄張(在り様)が観賞対象となる。さらに山城が高所にある最大のメリットは防御と眺めであることから、城下の眺めを確保することは重要である。春日山城跡の認知度は低いものの、訪れたことのある人はまだ少ないことから、魅力向上などの策を講じれば、今後の観光デスティネーションとしての可能性はあると考えられる。

■春日山城跡の山容復元による眺望景観向上と歴史文化の魅力向上の効果

春日山城跡の山容復元による眺望景観の向上や地域の歴史文化の魅力向上を図ることで、外国人観光客の興味対象に触れる機会が増し、来訪者の増加が見込まれる。

②情報入手先から推察する外国人観光客誘致の増加

春日山城跡を知った情報源として、英米豪はYoutube、旅行情報誌が多く、東アジアはアニメ、マンガ、日本映画、テレビ、Youtubeが多い結果から、情報発信力アップなどの策を講じれば、今後の観光デスティネーションとしての可能性はあると考えられる。

■春日山城跡の情報発信力強化の効果

英米豪圏、東アジア圏の地域事情に対応した情報発信の方法を強化することで、外国人観光客の情報アンテナにふれる機会が増し、来訪者の増加が見込まれる。

③アクセス性向上から推察する外国人観光客誘致の増加

山城に訪れなかった理由として「時間不足」「交通手段不足」が挙げられている。春日山城跡は、山城としては都市部に近く、最寄駅から山城までの所要時間も短いことから、アクセス性の向上などの策を講じれば、今後の観光デスティネーションとしての可能性はあると考えられる。

■春日山城跡のアクセス性向上の効果

春日山駅からの2次交通手段の充実及び市内歴史文化施設との周遊連携するなど、春日山城跡のアクセス性を向上することで、来訪先としての選択機会が増し、来訪者の増加が見込まれる。

2) 上越市民ニーズ調査から推察される効果

①春日山城跡の目指すべき姿から推察する本質的価値の理解度向上

春日山城跡は市を代表する観光資源としての意識が高く、資源性向上のための整備は欠かせないと考えられている。優先的整備の方向としては、春日山城跡に関連する屋敷などの復元整備を望む声が多い。現在の春日山城跡(山地部)は、いくつかの曲輪と若干の土塁や堀が主な構成要素となっており、一般的な山城イメージとしての櫓や塀などの木造建築物が足りないと感じられているようである。一方で、保存・活用の方向としては「遺構の保護を優先」という声が多く、地域の守るべき史跡として保存した方が良いとする意見もある。そのことは、春日山城跡の目指すべき姿と他の山城で整備されている建造物のイメージに差異があることを示していると考えられる。

■春日山城跡の歴史的価値の理解向上の効果

杉の間伐による景観の復元により、山城の特徴や歴史的価値の理解向上と地域の守るべき史跡としての機運向上につながるが見込まれる。

②春日山城跡に関わる施設等に対する市民の嗜好性から推察する日常利用増加

市民としては春日山城跡そのものに行く先とするというよりは、上杉謙信公ゆかりの場所を訪ねる嗜好が働いている感がある。地域の啓発・PR 施設は、地元要素の紹介であるがゆえに市民としては改めて行く必要性を感じていないと思われる。「春日山神社」「謙信公銅像周辺」の来訪頻度内訳はいずれも「3～9回」「10回以上」を合わせると50%を越えており、その目的は「散歩・散策」「史跡見学」が多かったことから、春日山城跡方面は、地元にとっては観光的な側面よりも、「散歩・散策」といった日常の行動圏の一つ・生活の一部と捉えられていると考えられる。

■日常的行動圏としての市民利用増加の効果

遊歩道整備により、眺望の向上や山城の魅力向上につながることで、市民が日常的に訪れる機運を増し、市民来訪者の増加と滞在時間の増加が見込まれる。

③観光資源として市民が望む整備から推察する交流人口の増加

春日山城跡の現況を復元などの整備により、その魅力を向上させたいと考える市民は多いと思われる。復元対象として柵や屋敷といった建築物が挙げられているのは、土地の形状(曲輪など)だけでは観賞・体験対象として物足りない、当時の暮らしをイメージしにくいという感覚が働いているものと推察される。ガイドンス施設やトイレについては既存の施設はあるものの、内容の改善・充実や使い勝手の良さ等機能の向上が望まれているものと考えられる。

■春日山城跡の魅力向上にともなう交流人口増加の効果

ガイドンス施設の内容の改善・充実や使い勝手の良さ等機能の向上により、観光客の増加(交流人口の増加)につながるが見込まれる。

3) 来訪者増加に伴う経済効果の算出

①海外からの新たな来訪者数推計

【算定の基本的な考え方】

○入込推計については、感染症による行動制限がなかった2017～2019年の3か年平均値を基に算定した。

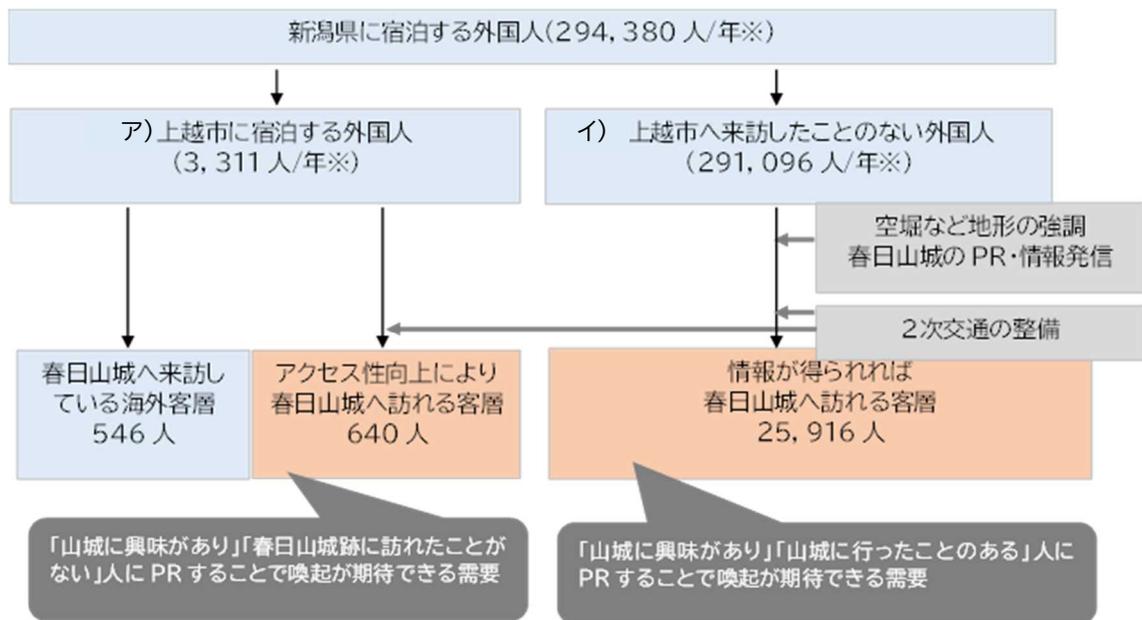
○客単価については、近年の物価上昇を考慮し、入手可能な最新値を用いて算定した。

○来訪者増加の契機として以下の整備を行うものとする。

- ・往時の堀・土塁・曲輪を想起させる整備（張芝による地形の強調など）
- ・眺望や上記整備のPR・情報発信
- ・最寄駅からの2次交通の整備

○新たな需要を喚起する対象母集団は、①上越市に宿泊する外国人 ②新潟県内に宿泊する外国人とする。

※アンケート結果から、「時間がなく山城に訪れなかった人」が過半数を占めていることから過剰な推計結果とならないよう、他県からの需要喚起は想定せず「新潟県内の宿泊者」までを母集団とした。



※2017～2019年の平均値、

図 5.-1 新たに春日山城跡に訪れる来訪者数の推計フロー

【新たな来訪者数推計】

ア) 上越市の外国人宿泊者のうち新たに春日山城跡に訪れる来訪者数

海外へのアンケート調査から、以下のうち、「山城に興味があり、2次交通が整備されれば春日山城跡へ訪れる客層 640 人が新たな来訪者数として見込める。

表 5.-1 上越市の外国人宿泊者のうち新たに春日山城跡に訪れる来訪者数（推計）

	割合 (アンケート結果より)	推計値
海外宿泊者数 (2017～2021 年平均)	—	3,311 人
整備・施策がなくとも 春日山城跡へ訪れる客層	16.5% (春日山城跡の来訪経験者)	546 人
山城に興味がある客層	74.0% (山城に興味がある人)	2, 450 人
2次交通が整備されれば春日山城跡へ訪れる客層	26.1% (交通手段がなく山城を訪れなかった人)	640 人
交通手段以外の理由で山城跡へ訪れない客層	73.9%	1, 810 人

※上越市に宿泊した外国人は、「時間的制約によって山城へ来訪できない」状況は想定しない。

イ) 新潟県の外国人宿泊者のうち新たに春日山城跡に訪れる来訪者数

海外へのアンケート調査から、以下のうち、「山城に興味があり、2次交通が整備されれば春日山城跡へ訪れる客層 640 人が新たな来訪者数として見込める。

表 5.-2 新潟県の外国人宿泊者のうち新たに春日山城跡に訪れる来訪者数（推計）

	割合 (アンケート結果より)	推計値
海外宿泊者数 (2017~2021年平均)	—	294,380 人
上越市に訪れたことがない客層	—	291,069 人
山城に興味がある客層	74.0% (山城に興味がある人)	215,391 人
時間不足のため山城へ行けない人	53.9% (滞在日数 6 日以下の人※)	116,096 人
情報が得られれば山城へ行く人	46.1%	99,295 人
春日山城跡の選択率	39.9% (山城の来訪経験者 248 人のうち春日山城の来訪経験者 99 人の割合)	46,322 人
2次交通が整備されれば春日山城跡へ訪れる客層	26.1% (交通手段がなく山城を訪れなかった人)	25,916 人

※山城に訪れない理由として「時間がない」と回答した人の滞在日数は 5 日以下が多かったため、6 日以下の人は対象外とした。

ウ) 新たな来訪者数の推計（まとめ）

外国人の新たな来訪者数（推計値）を以下にまとめる。

表 5.-3 外国人のうち新たに春日山城跡に訪れる来訪者数（推計）

	新たな来訪者数
ア) 上越市に宿泊する外国人	640 人
イ) 新潟県に宿泊する外国人	25,916 人
合 計	26,556 人

②海外客の増加による経済効果

観光庁の「2023年暦年全国調査結果（速報）の概要」より、2023年の全国籍・地域の訪日外国人の旅行消費額と滞在日数は以下の通りとなる。

表 5. -4 海外客の増加による経済効果

1人当たり旅行支出	平均滞在日数	1日あたり旅行支出
212,193 (円/人)	10.2 (日/人)	20,803 (円/日)

春日山城跡へ来訪した人の滞在時間を2時間程度、上越市に滞在する時間を半日と仮定すると、外国人の新たな来訪者が増えることで得られる経済効果は、

$$26,556 \text{ 人} \times 20,803 \text{ 円/日} \times 0.5 \text{ 日} = 276,222,234 \text{ 円/年}$$

$$= 276 \text{ 百万円/年}$$

③国内客の増加による経済効果

国内客の増加については、上越市通年観光計画（案）で掲げている目標値「2019年の1.3倍」を基本とする。

本事業の整備によって、春日山城跡の国内からの来訪者が2019年の1.3倍に増加したと仮定し、その経済効果を算定する。

新潟県の観光統計から、上越市及び春日山城跡の観光客数は以下の通りである。

表 5. -5 上越市および春日山城跡への来訪者数（2017～2019年）

	②上越市の観光客数（人）				目標値	
	2017年	2018年	2019年	3か年平均値	2019年の1.3倍	
上越市全体	4,938,539	5,176,854	5,398,033	5,171,142	7,017,443	
春日山城跡	253,920	232,800	282,360	256,360	367,068	
来訪割合	県内客	20.0%	18.2%	15.3%	17.8%	—
	県外客	80.0%	81.8%	84.7%	82.2%	—

上越市の観光統計から、2019～2021年の市内へ訪れる人の出発地割合と観光消費額は以下の通りである。

表 5. -6 上越市の観光客の消費額単価（2019～2021 年平均値）

上越市 観光客の消費額単価 ※2019～2021 年平均値			
県内客		県外客	
宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
10,353 円/人回	3,622 円/人回	16,609 円/人回	5,555 円/人回

以上から、春日山城跡への来訪者が 2019 年の 1.3 倍に増加した場合の経済効果は、以下の通りとなる。

$$\begin{aligned}
 & (367,068 - 256,360) \text{人} \times (17.8\% \times 3,622 \text{円/人回} \\
 & + 82.2\% \times 5,555 \text{円/人回}) = 576,782,960 \text{円/年} \\
 & = 577 \text{百万円/年}
 \end{aligned}$$

④春日山城跡の整備により見込まれる経済効果

以上から、春日山城跡の整備により、見込まれる来訪者の増加数および経済効果は以下の通りとなる。

表 5. -7 春日山城跡の整備による来訪者数増・経済効果（推計）

	春日山城跡への来訪者数増	経済効果
海外客	26,556 人	276 百万円/年
国内客	110,708 人	577 百万円/年
合計	137, 264 人	853 百万円/年

(2) その他、必要となる事項

1) 春日山城跡のソフト面としての上杉謙信公

①春日山城と城主上杉謙信公概観

春日山城を居城とした上杉謙信公は、越後国の守護代・長尾為景の子として生まれ、14歳で元服、長尾景虎と名乗った。その後、兄の晴景に代わって家督を相続し、32歳の時、関東管領・上杉憲政の名跡を継ぎ、管領職と上杉姓を譲られて上杉政虎とし、さらに輝虎と改名、後に出家して謙信と号した。

春日山城の発祥は南北朝時代に遡ると言われ、古くから国府が置かれた越後府中(直江津)の防備のために造られたと考えられる。戦国時代に入り、越後守護代の父為景が守護上杉氏に代わって実質的な支配者になると、春日山城を本格的に拡張整備して大城郭に改修した。謙信公は1548年、19歳で入城(家督相続)し、戦国屈指の山城を整えた。

春日山城は標高180mの蜂(鉢)ヶ峰に築かれた一大要塞で、日本五大山城の一つである。「実城」と呼ばれる主要の曲輪を中心に、200以上の曲輪、土塁、空堀を配して、ほぼ全山を城壁化している。石垣はないが土塁や空堀が頑丈に曲輪を防御している。山麓に総延長1200mにも及ぶ総構を備えた点は、戦国時代の山城には珍しい特徴である。実城は本丸、天守台、大井戸、護摩堂、諏訪堂、毘沙門堂、お花畑などの曲輪から構成される。中でも大井戸は山城としては国内最大級で、現在でも水が湧いている。

謙信公は生涯春日山城を本拠地とし、戦の時は必ず春日山城から出陣したとされている。自ら敵地へ赴く戦闘スタイルを貫き、春日山城へ攻め入られることはなかった。留守中の城の警備を細かく指示し、特に防火対策を厳しく注意したといわれている。

謙信公は戦いの神・毘沙門天を厚く信仰し、合戦前には本丸付近に建立した毘沙門堂に籠り、熱心に戦勝を祈願した。春日山城は一度も戦いの場にはならなかったが、生涯独身であった謙信公が跡継ぎを明確にしないまま49歳で急逝すると、二人の養子(上杉景勝公・景虎)の家督争い(御館の乱)がおこり、内乱の舞台になってしまった。内乱は3年をかけて上杉景勝公が鎮圧し、家督を受け継いだ。1590年に豊臣秀吉が天下を統一すると、景勝公は会津に移封を命じられ、移封前の91万石から120万石へと加増された。景勝公の後は堀秀治が春日山城主となった。



写真 5. -1 謙信公像



写真 5. -2 冬の春日山城跡(本丸方向)

(本文出典：城の楽しみ方完全ガイド)

②上杉謙信公と特に関わり深い主な人や事柄、事物など

人や事柄等	概説
上杉景勝公	上杉謙信公の養子で甥にあたる。謙信公の急死を発端とした上杉家の内紛を経て、二代目当主となる。後に会津に加増移封、しかし関ヶ原の合戦で豊臣方についたため徳川家康により、米沢へ削封を命ぜられた。
直江兼統	景勝公に仕えた軍師。景勝公の命で与板城主直江家を相続した。佐渡平定、小田原征伐、朝鮮出兵、大坂の陣などで景勝の参謀として貢献。景勝公の会津移封の際に、米沢城を与えられ、殖産興業に尽力した。
武田信玄	甲斐の守護・戦国大名。1541年父を追放して家督を奪う。信濃を次々と攻略し、駿河にも進出。西上を試み 1572年遠江三方原で徳川家康に大勝したが、陣中で病没。
川中島の合戦	武田信玄との5回に渡る合戦。元々は信濃地方に武田軍が侵攻し、領地を奪われた葛尾城主や長沼城主らからの助けに謙信公が応じた戦いである。
堀秀治	豊臣秀吉の功臣で越前北庄城主。景勝公の会津移封に伴い、春日山城へ移った。旧上杉勢力を鎮圧後、直江津に福島城築城中に死去、秀治の子忠俊が春日山城主となる。1607年福島城が完成すると忠俊は同城へ移り、春日山城を廃した。
合戦前の食事 「かちどき飯」	謙信公の日常の食事は一汁一菜の質素なものだったが、ひとたび出陣となれば、飯を山のように炊かせ、部下将兵に山海の幸をふんだんに振る舞ったと伝えられている。現在、古文書に則った献立を上越市が認定し、黒米、集め汁、炙り焼き、胡桃浸しなどを出陣の食「かちどき飯」と銘打って市内の飲食店で提供している。
青苧(=からむし)	謙信公は青苧とよばれる植物の栽培を奨励した。その繊維で織ったものが越後上布で、一般庶民の衣料として重要であった。京都などへも盛んに送られ、稼ぎ頭の青苧商人から冥加金を徴収し、謙信公の重要な財源となった。
仏教	観音菩薩の信者であった母虎御前の下で育ち、幼少期に林泉寺の天室光育禅師から禅を学んだことで仏への信仰心が育まれた。春日山城主となった後、二度の上洛の際も、高野山金剛峰寺、大徳寺、比叡山延暦寺などを参詣するなどして仏教に帰依、晩年には剃髪して「不識庵謙信」と号した。また謙信公は自らを毘沙門天(仏を守る四天王のひとつ)の化身と信じ、「毘」を軍旗とした。

(出典：春日山城と上杉謙信公、上杉謙信公と上杉鷹山、上越観光 Navi HP.)

③上杉謙信公が主人公、テーマのメディアなど

メディアの種類と タイトル	摘要
小説「天と地と」	作者：海音寺潮五郎、「週刊朝日」で1960年～1962年まで連載された。その後1962年、朝日新聞社より上下巻で書籍化。
テレビ：NHKの大河ドラマ「天と地と」	1969年1月～12月まで放送。全52回。出演：石坂浩二、高橋幸治ほか。このドラマの放映期間中に、春日山城跡に上杉謙信公の銅像が建立された。
テレビ：日本テレビのドラマ「天と地と～黎明編」	1990年4月放送。金曜ロードショー特別企画。出演：大沢樹生、三船敏郎ほか。
テレビ：テレビ朝日のドラマ「天と地と」	2008年1月放送。同局開局50周年記念番組。出演：松岡昌宏、木村佳乃ほか。
テレビ：NHK番組：歴史探偵「戦の神 上杉謙信公」	2023年10月放送。謙信公に巨万の富をもたらした物流の力や知られざる上杉水軍の活躍を紹介する。出演：佐藤二郎ほか。
映画「天と地と」	1990年公開。監督：角川春樹、出演：榎孝明、津川雅彦ほか。
音楽：サウンドトラック・アルバム「天と地と」	映画「天と地と」のサウンドトラック。小室哲哉プロデュース、1990年リリース。レーベル：エピックソニー。
漫画「天と地と」	作者：石川賢、海音寺の同名小説の漫画化。角川書店発行、1987年～1988年、全5巻。
ゲームソフト「天と地と」	戦略シミュレーションゲーム、1990年、海音寺の同名小説を原作として作成、販売。コナミデジタルエンタテインメント製品。

この他、特に春日山城跡を取り扱った以下のテレビ番組がある。

テレビ番組	摘要
NHK：日本最強の城「秋の絶景！城ハイキング」	2023年10月放映。全国に3万以上もあると言われる城の中から、えりすぐりの名城をピックアップ。「春日山城（新潟）」山全体を要塞化した上杉謙信公の壮大な山城。目前に広がる日本海に強さの理由が！出演：恵俊彰、千田嘉博ほか。

（出典：ウィキペディア、NHKウェブサイト）

2) その他関連する観光要素(謙信公ゆかりの行事、施設等)

関連観光要素	摘要
謙信公祭	謙信公祭は、1926年（大正15年）9月13日、当時の高田市・直江津市・春日村（いずれも現上越市）の各青年団の主権により、春日山神社で開催されたのが始まり。当日は、春日山神社で祭典を行い、名士の講演、相撲、剣舞などが催された。地元には、戦国大名が割拠した動乱の時代においても、謙信公は、一年に一度だけ民衆を春日山城に招き入れ、日頃の労をねぎらったという言い伝えが残っており、謙信公祭を行うきっかけになったともいわれている。現在では毎年8月に春日山地区において、出陣行列や大民謡流しなどが行われている。
義の心 (地域の宝認定4号)	義は、人間の行動・思想・道徳で「よい」「ただしい」とされる概念で、謙信公は、義を重んじた武将とされている。謙信公の居城、春日

	<p>山城麓の林泉寺には、謙信公自筆と伝えられる「第一義」の額が残されている。「第一義」は、禅の書跡『碧巖録』の達磨太子と梁（中国）の武帝との問答の逸話に出てくる語句で、釈迦のあらゆる事物の心理を表すとされており、この語句は謙信公の思想と人となりを如実に表したのものとして広く知られている。「義の心」の会では、謙信公家訓と伝えられる16箇条の「宝在心」をよりどころとしながら、「義の心」を市内外へ発信し、特に市内の子どもたちにわかりやすく「義の心」を伝え、地域への誇りと愛着の醸成を図るための取組に力を入れている。「義の心」は、謙信公や春日山城跡とともに市民に親しまれている。</p>
<p>謙信公代参登拝行事 南方山 (地域の宝認定 114 号)</p>	<p>南方山は、春日山から南方にある妙高山上の阿弥陀三尊に祈願する行事で、元亀元年（1570 年）に上杉謙信公が、領内の人々の家内安全・商売繁盛・五穀豊穰・子孫繁栄を願い、林泉寺六世天室和尚に「俱利伽羅不動尊御旗」を捧げ持ち、自身の代わりに代参登拝するよう依頼したことが始まり。毎年7月22日の朝、白装束に身を包み御旗を掲げた代参一行は春日神社を出発、途中、荒町の水谷家歓喜堂に立ち寄り、そこから関山神社を経て宿に到着、23日の真夜中に宿を出発し、朝方に妙高山頂に登拝する。そして、下山後再び歓喜堂に立ち寄り、氏子中に帰還報告の御旗渡御を行った後、春日神社に帰還する。</p>
<p>林泉寺</p>	<p>謙信公の祖父である長尾能景が、父・重景の菩提を弔うため明応6年（1497年）に建立した寺院。ここで謙信公は名僧・天室光育（てんしつこういく）の厳しい教えのもと、7～14歳までを過ごす。惣門（市指定文化財）は春日山城から移築したといわれ、山門は鎌倉時代の和様と唐様を取り入れた大正時代の名作。また、山門に掲げられる「第一義」の扁額は、謙信公の自筆（現在掲げられているものは複製、実物は境内の宝物館にて保管）。</p>
<p>春日山神社</p>	<p>山形県米沢市の上杉神社より分霊され、謙信公を祭神に祀った神社。明治34年（1901年）に、童話作家・小川未明の父である小川澄晴によって創建され、日本近代郵便の父・前島密も援助したといわれている。境内に隣接する春日山神社記念館には、謙信公の遺品・資料などが展示されている。</p>
<p>春日神社</p>	<p>春日神社は春日山城の名称の元となった。春日山頂に約500年、現在地に遷座してから600年の歴史がある。奈良の春日大社の分霊を祀っている。春日山城全体の総鎮守として謙信公時代より崇敬の念篤く、地域の産土神として大切にされてきた。</p>
<p>福島城址 (地域の宝認定 65 号)</p>	<p>福島城は、慶長3年（1598年）の上杉景勝公の会津移封後、春日山城主となった堀氏により慶長7年（1607年）に築城された越後ではじめての平城。二の丸、三の丸には武家屋敷や蔵が配置され、三の丸の南側には町人町、寺町が広がっていたとされている。越後一国の城として堀秀治・忠俊父子により築城された雄大な城郭だったが、堀氏に代わり入城した徳川家康の六男、松平忠輝の高田築城に伴い、わずか7年で廃城となった。現在、本丸跡の旧古城小学校敷地内には、奥田直榮氏筆の「福島城址」の石碑や、福島城を愛する会運営の福島城</p>

	資料館がある。
御館跡(御館公園)	謙信公が関東管領・上杉憲政の居館として建設した関東管領館。春日山城下に設けられ、後に謙信公も政庁として使用した。 謙信公の死後、上杉景勝公と上杉景虎による跡目争い「御館の乱」の舞台となった場所。
春日山城史跡広場	発掘調査によって確認できた土塁や堀、道、堀立柱建物などが復元され、中世の春日山城を体感できる。監物堀に植えられたカキツバタは、5月上旬が見頃。
春日山城跡ものがたり館	春日山城史跡広場に隣接して建てられている。上杉謙信公や、当時の春日山城の様子などを大型画面のビデオで紹介しているほか、川中島合戦図屏風などを展示している。
上越市埋蔵文化財センター	上越市内の埋蔵文化財を研究・保管・公開する施設。市内の歴史に関する展示のほか、調査室の大きな窓からは、出土品の整理や復元作業を見ることができる。春日山城跡のふもとにあり、豊かな自然になじむ土壁色の日本家屋風の建物。上杉謙信公の生涯や、その居城・春日山城について、また中世の頸城の人々の暮らしなども展示解説している。

(出典：上越市 HP、上越観光 Navi HP.)

以上の調査結果をふまえ、春日山城跡単独ではなく、謙信公ゆかりの人物、事柄、場所、施設等を活用して、多様な角度から春日山城を捉える場と機会の創造やネットワークの構築を検討し、関連する文化財観光資源としてPRすることも来訪者ニーズの満足度を向上する要素となると推察される。



図 5.-2 春日山城跡にまつわる資源群の一体化イメージ

復元に向けた計画 ー春日山城跡の復元と観光活用の手法ー

1. 復元整備の基本方針と整備項目案

『上越のシンボル景観、往時の春日山城の山容を復元』

- 方針1：往時の山城景観を復元・・・・・・・・整備項目①
- 方針2：山城中核部の地形を明瞭化・・・・・・・・整備項目②
- 方針3：山裾から本丸に至る古の道を感じられる遊歩道を再整備・・整備項目③
- 方針4：総構直江津方面からのアプローチルートを創出・・・・・・・・整備項目④



- ①戦国の世に思いをはせる往時の山城景観を復元し、堀・曲輪・土塁が望める遠景と山城からの眺望を確保する。
- ②堀内部の堆積土鋤取り、曲輪・土塁の整形や植生などによる法面保護、繁茂した雑木・雑草の除去により景観復元を行い、山城中核部の地形を明瞭化する。
(春日山城跡の特徴である堅堀とひな壇状の曲輪が分かる景観整備)
- ③千貫門を通る古の道を感じられる遊歩道を再整備し、遊歩道を登って城を満喫できるようにする。(砂利やチップを敷く)
- ④楼門から春日神社－林泉寺－愛宕谷公園－御屋敷跡を見学して山城へ登る気分を盛り上げるルートを整備する。
(案内板、誘導サイン、道路舗装の美装化など)

図 1.-1 復元整備項目

2. 春日山城跡の復元効果の推測

(1) 外国人旅行者ニーズ調査から推察される効果

1) 春日山城の山容復元による眺望景観向上と歴史文化の魅力向上の効果

春日山城の山容復元による眺望景観の向上や地域の歴史文化の魅力向上を図ることで、外国人観光客の興味対象に触れる機会が増し、来訪者の増加が見込まれる。

2) 春日山城跡の情報発信力強化の効果

英米豪圏、東アジア圏の地域事情に対応した情報発信の方法を強化することで、外国人観光客の情報アンテナにふれる機会が増し、来訪者の増加が見込まれる。

3) 春日山城跡のアクセス性向上の効果

春日山駅からの2次交通手段の充実及び市内歴史文化施設との周遊連携するなど、春日山城跡のアクセス性を向上することで、来訪先としての選択機会が増し、来訪者の増加が見込まれる。

山城は、天守を持つ平城など一般の人が抱くであろう城のイメージに比して、さほどマイナーな観光要素ではないことが推察される。殆どの山城跡には建築物は乏しいので、曲輪などまさに城の縄張(在り様)が観賞対象となる。さらに山城が高所にある最大のメリットは防御と眺めであることから、城下の眺めを確保することは重要である。春日山城跡の認知度は低くないものの、訪れたことのある人はまだ少ないので、魅力向上・アクセス性の向上・発信力アップなどの策を講じれば、今後の観光デスティネーションとしての可能性はあると考えられる。秀吉・家康・信長は国内においても各名は幅広く知れ渡っており、また信玄はクロサワ映画の題材(影武者)にもなっていることから、海外の認知度は当然高い傾向になる。それらを勘案すると、謙信公の知名度率は善戦しているといえ、山城に併せてソフト面の資源として謙信公も大いに活用すべきである。

(2) 上越市民ニーズ調査から推察される効果

1) 春日山城跡の歴史的価値の理解向上の効果

春日山城跡の杉の間伐による景観の復元により、山城の特徴や歴史的価値の理解向上と地域の守るべき史跡としての機運向上につながるが見込まれる。

2) 日常的行動圏としての市民利用増加の効果

春日山城跡の遊歩道整備により、眺望の向上や山城の魅力向上につながることで、市民が日常的に訪れる機運を増し、市民来訪者の増加と滞在時間の増加が見込まれる。

3) 春日山城跡の魅力向上にともなう交流人口増加の効果

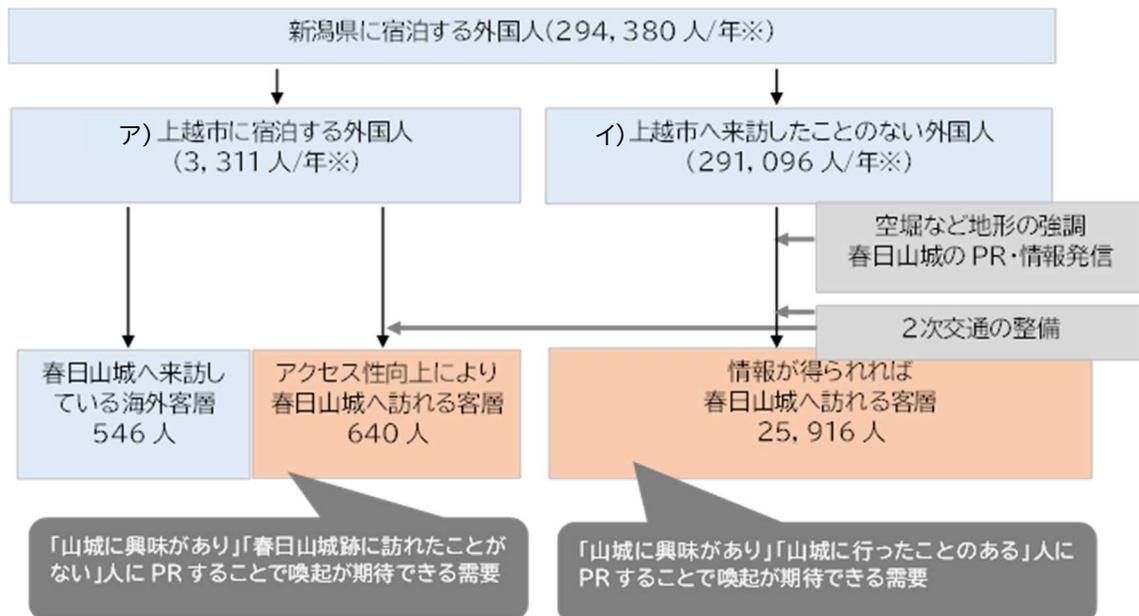
ガイドンス施設の内容の改善・充実や使い勝手の良さ等機能の向上により、観光客の増加（交流人口の増加）につながるが見込まれる。

市民にとっては日常の行動圏・生活圏の一部を構成する「拠り所」として過度の観光地化は避けつつも、誇れる歴史的な観光資源として磨きをかけることには概ね理解が得られていると考えられる。地域の大切な史跡として将来に渡って守り続けるには、人々の持続的な関りが不可欠と言える。単にそのまま放置するだけでは、物理的にも記憶の上でも風化や劣化が進んでしまう。山城跡を復元整備することにより、その存在が従前よりも人々を惹きつけ、春日山城跡を地域の宝としてさらに大切にしようという市民意識の醸成につながり、結果的に史跡保存に寄与する効果が期待される。

具体的な復元内容について、市民にとって山城は天守があり屋敷が並ぶ平城のようなイメージがあるのではないかとと思われるが、一方で、総構の土塁の復元や古道の整備が最も望まれており、付帯する施設としてガイドンス施設やトイレ増設の要望が比較的高いなど、訪れる場所としての魅力や利便性の向上が整備の要点になると考えられる。さらに春日山城跡は観光資源としての市民認識が非常に高い背景とも相まって、山城跡の復元とそれにまつわる整備を進め資源性を高めることで、上越市の主要な観光 destinations の一つとして、観光人口の底上げ効果につながると思われる。

(3) 来訪者増加に伴う経済効果の算出

外国人旅行者ニーズ調査の結果から導き出される観光客の増加予測及び上越市通年観光計画（案）から推計する国内観光客の増加目標から、来訪者の増加見込みを算出する。



※2017～2019年の平均値

図 2.-1 春日山城跡への新たな来訪者数の推計

これらの観光客の増加推計をもとに、春日山城跡の復元整備による経済効果を以下に推計する。

【海外客の増加による経済効果】

観光庁の「2023年暦年全国調査結果（速報）の概要」より、2023年の全国籍・地域の訪日外国人の旅行消費額と滞在日数は以下の通りとなる。

表 2.-1 海外客の増加による経済効果

1人あたり旅行支出	平均滞在日数	1日あたり旅行支出
212,193 (円/人)	10.2 (日/人)	20,803 (円/日)

春日山城跡へ来訪した人の滞在時間を2時間程度、上越市に滞在する時間を半日と仮定すると、外国人の新たな来訪者が増えることで得られる経済効果は、

$$26,556 \text{ 人} \times 20,803 \text{ 円/日} \times 0.5 \text{ 日} = 276,222,234 \text{ 円/年}$$

$$= 276 \text{ 百万円/年}$$

【国内客の増加による経済効果】

国内客の増加については、上越市の通年観光計画（案）で掲げている目標値「2019年の1.3倍」を基本とする。

本事業の整備によって、春日山城跡の国内からの来訪者が2019年の1.3倍に増加したと仮定し、その経済効果を算定する。

新潟県の観光統計から、上越市及び春日山城跡の観光客数は以下の通りである。

表 2.-2 上越市および春日山城跡への来訪者数（2017～2019年）

	②上越市の観光客数（人）				目標値	
	2017年	2018年	2019年	3か年平均値	2019年の1.3倍	
上越市全体	4,938,539	5,176,854	5,398,033	5,171,142	7,017,443	
春日山城跡	253,920	232,800	282,360	256,360	367,068	
来訪割合	県内客	20.0%	18.2%	15.3%	17.8%	—
	県外客	80.0%	81.8%	84.7%	82.2%	—

上越市の観光統計から、2019～2021 年の市内へ訪れる人の出発地割合と観光消費額は以下の通りである。

表 2. -3 上越市の観光客の消費額単価（2019～2021 年平均値）

上越市 観光客の消費額単価 ※2019～2021 年平均値			
県内客		県外客	
宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
10,353 円/人回	3,622 円/人回	16,609 円/人回	5,555 円/人回

以上から、春日山城跡への来訪者が 2019 年の 1.3 倍に増加した場合の経済効果は、以下の通りとなる。

$$\begin{aligned}
 & (367,068 - 256,360) \text{人} \times (17.8\% \times 3,622 \text{円/人回} \\
 & + 82.2\% \times 5,555 \text{円/人回}) = 576,782,960 \text{円/年} \\
 & = 577 \text{百万円/年}
 \end{aligned}$$

以上から、春日山城跡の整備により、見込まれる来訪者の増加数および経済効果は以下の通りとなる。

表 2. -4 春日山城跡の整備による来訪者数増・経済効果（推計）

	春日山城跡への来訪者数増	経済効果
海外客	26,556 人	276 百万円/年
国内客	110,708 人	577 百万円/年
合計	137, 264 人	853 百万円/年

3. 春日山城の復元将来像と観光資源性

(1) 市民アンケートから窺われる意識(復元効果より)

◆春日山城跡は市を代表する観光資源としての意識が高く、資源性向上のための整備は欠かせないと考えられている。優先的整備の方向としては、春日山城のかつての姿の復元を望む声が多い。一方で観光資源よりも地域の守るべき史跡として保存した方が良いとする意見もあり、そのことは前述の「行動圏・生活の一部」としての心理が働いているとも考えられる。

◆現在の春日山城跡(山地部)は、いくつかの曲輪と若干の土塁や堀が主な構成要素となっており、一般的な山城イメージとしての櫓や塀などの木造建築物が足りないと感じられているようである。ただ、保存・活用の方向としては「遺構の保護を優先」という声が多く、遺構の保護と堀や曲輪、建築物の復元は現況の土壌環境の改変を伴うことなどから、その趣旨が相反する場合も多いので、これらの調整が必要となる。

◆春日山城跡の現況を復元などの整備により、その魅力を向上させたいと考える市民は多いと思われる。復元対象として柵や屋敷といった建築物が挙げられているのは、土地の形状(曲輪など)だけでは観賞・体験対象として物足りない、当時の暮らしをイメージしにくいという感覚が働いているものと推察される。ガイダンス施設やトイレについては既存の施設はあるものの、内容の改善・充実や使い勝手の良さ等機能の向上が望まれているものと考えられる。

(2) 上越市通年観光計画(案)(令和5年度策定完了予定)における将来像など

春日山地域の観光地域づくりコンセプト
義の心と強さに出会う「謙信公の春日山城」
春日山城跡の将来イメージ
山全体が手入れされた整然さを持ち、「城」の風格を創出していく。

(3) 春日山城跡の目指すべき復元後の将来像と観光資源としての可能性

■復元後の将来像

山城の復元に際しては、その外観を直接見て楽しむ場所としてだけではなく、戦国の世に思いをはせる=想像するための空間を目指す。
曲輪や総構などの場に留まってる想像、本丸等から下界を眺めての想像、府中(直江津)から春日山城跡を仰ぎながらの想像など、訪問客は当時の人々の視点で自らがシミュレーションして楽しむ空間を目指す。

■観光資源としての可能性

・上杉謙信公と春日山城跡の一体的地域ブランド化

フランスと言えばエッフェル塔やルーブル美術館がすぐに想起されるように、上越と言えば謙信公と春日山城跡のイメージが容易につながるように、城と謙信公は単体ではなく、常にセットでのブランド資源とする。

・映画やドラマの主体としての上杉謙信公と春日山城跡

フィルムコミッションの設立や既存団体との連携を図る、過去の映像や写真等の記録を発信するなどすることで、メディアの題材としての資源となる。

・観光地+健康増進地

広い総構や山道、散策道を整備し、多様な散策コースを設定することで、歴史探訪はもとより健康増進としての位置付けも可能となる。

(4) 観光活用の手法

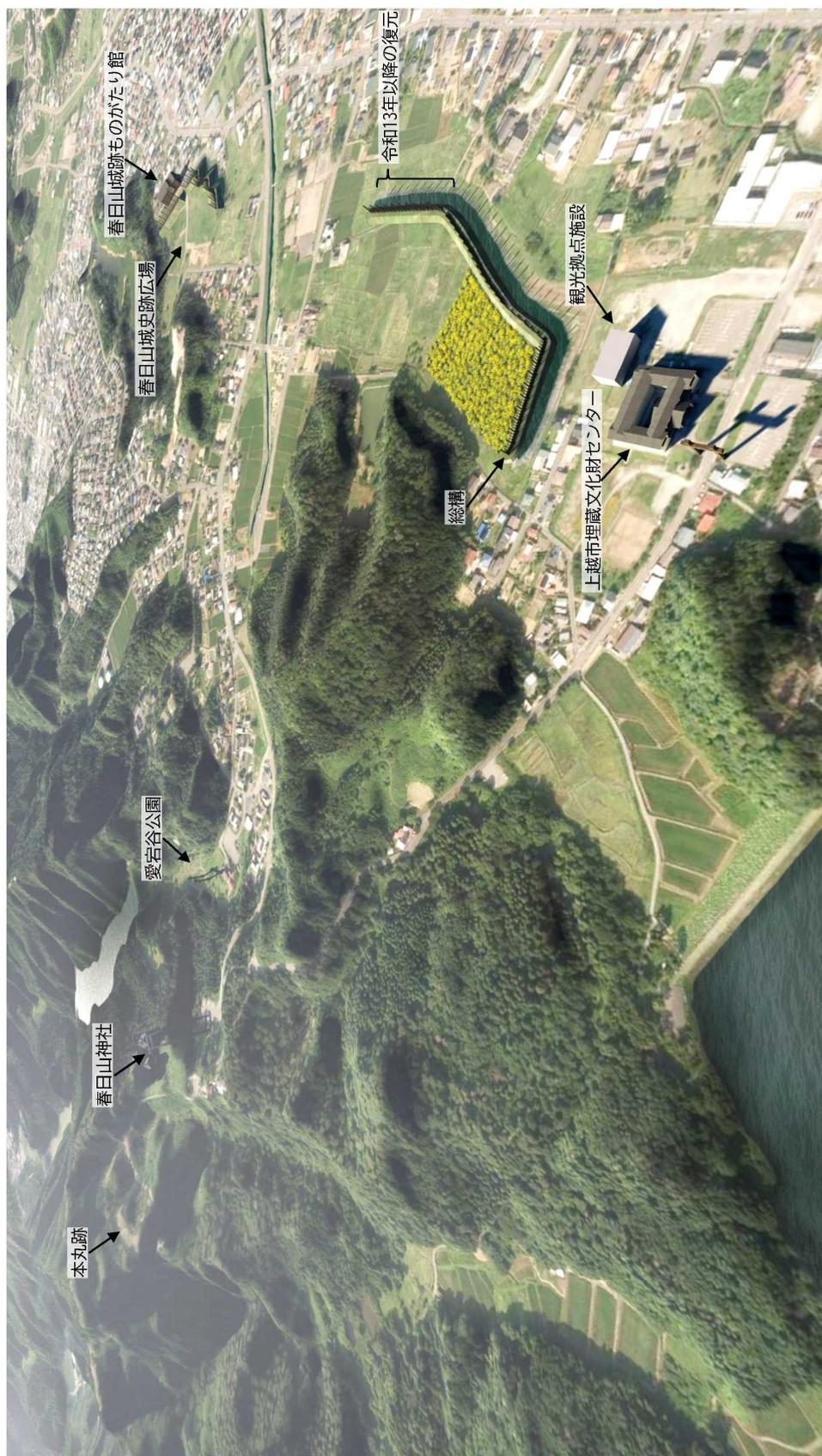
1) 上越市通年観光計画(案)(令和5年度策定完了予定)における春日山地域の事業展開

春日山地域で具体化されている事業のうち、春日山城エリアや史跡広場エリアに関わるハードとソフトを以下に示す。

事業名等	内容
春日山城エリア整備計画策定	「観光コンテンツ計画等」を踏まえ、史跡区域内のトイレや駐車場、散策道、休憩施設、誘導サインの整備計画を策定する。
デジタルコンテンツ構築	「観光コンテンツ計画等」を踏まえ、史跡区域内や観光拠点施設で体験するデジタルコンテンツを構築する。
植林伐採	春日山城跡の北側の植林を伐採する。公有地等から段階的に実施していく。
サイン・ベンチ・散策道・古道改修	階段の木道や安全柵、サイン、ベンチ等の休憩施設を整備する。
エントランス整備	3ルート(大手道、白山、黒金門)の入口を整備する。
愛宕谷公園改修	黒金門ルートの入口として愛宕谷公園を改修する。
(仮称)馬場広場改修	謙信公像の移転検討を含め、(仮称)馬場広場を観光の目的地に相応しい高質な空間として演出するため、近隣地域の民間施設との連携を図りつつ、修景整備を行う。 照明、休憩施設等を整備する。
神社下駐車場(トイレ・舗装)改修	トイレや舗装を改修する。
「総構」復元整備(第1期)	総構の復元整備に向けて構想を検討し、文化庁と必要な協議を行う。※面積が広いため整備は実現可能な個所から段階的に行う。 ○測量、復元設計・工事(約3ha) ○植栽(在来種を基準に種類、箇所を検討していく)
ものがたり館、史跡広場の利活用	歴史を感じ楽しむことができるアウトドア施設や飲食などを中心とした利活用に向けて、計画策定、市場調査、実証実験、施設改修を行う。
「観光コンテンツ計画・回遊観光計画・施設基本構想」等の策定	市場調査により春日山地域全体の観光コンテンツ(春日山神社、林泉寺、ものがたり館等)の優先誘導先、機能分担等を検討・整理した計画を策定するとともに、観光案内所、最適な駐車場・公共交通・レンタサイクル・誘導サインなどの回遊に関するインフラ計画を策定する。 ○観光コンテンツ・インフラ関連等の各施設の基本構想を策定する。 ○取組全体に関する基調色、統一フォント、シンボルマークなどの情報発信に関するルールを策定する。

これら事業のうち、山城復元のハード整備面には「春日山城エリア整備計画策定」「植林伐採」「サイン・ベンチ・散策道・古道改修」「愛宕谷公園改修」「(仮称)馬場広場改修」「総構」復元整備(第1期)が計上されており、春日山城跡の山体・山容部の復元整備は、これらを後押しする要素や、相乗効果が生まれる方法などを検討することが肝要である。

次頁に通年観光計画(案)における春日山城周辺の整備イメージを抜粋する。



「国土地理院地図」(国土地理院) (<https://maps.gsi.go.jp/#16/37.146053/138.216290/&base=ort&ls=ort&disp=1&vs=c1g10h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>) を基に作成

図 3.-1 春日山地域の将来イメージ

エリア別施策展開

●埋蔵文化財センター
●春日山荘

●総構の堀と土塁を復元し、植栽を行う。

●埋蔵文化財センター周辺敷地において、休憩、飲食、物産、学習、貸室機能を備えた観光拠点施設を整備する。
シャトルバスを始め二次交通の発着場・主要經由地と位置付け、春日山地域回遊の拠点とする。

●施設整備や運営は民間ノウハウを活用し、サウンディング型市場調査等により活用候補者選定後、施設整備を行う。

●春日山荘を除却し、観光拠点施設と一体的な施設を整備する。

総構の復元(現状)

植栽の一例

観光拠点施設(飲食や物販等)
(妙高高原ビジターセンター)

主な事業内容

(1)「総構」復元整備事業

- ①「総構」復元整備(第1期)
総構の復元整備に向けて構想を検討し、文化庁と必要な協議を行う。※面積が広いため整備は実現可能な箇所から段階的に行う。
- 測量、復元設計・工事(約3ha)
 - 植栽(在来種を基準に種類、箇所を検討していく)

(2)観光拠点施設整備事業

- ②観光拠点施設整備
「観光コンテントツ計画等(P87)」周辺の敷地の状況を踏まえ、観光拠点施設を整備する。機能は、休憩、飲食、物産、学習、貸室機能とし、規模は約1,500㎡を想定する。
(参考事例: 妙高高原ビジターセンター=約840㎡)。

③春日山荘跡地整備

- 春日山城の入口に当たる場所であることから、観光拠点施設の駐車場不足に備えるなど、様々な活用方策を検討する。
「観光コンテントツ計画等(P87)」を踏まえ、春日山荘を除却し、利活用に向けて整備する。

スケジュール

	前期 (R6～R8)	中期 (R9～R10)	後期 (R11～R12)
①「総構」復元整備(第1期)	調査調査、発掘等、基本設計等	設計、工事	工事
②観光拠点施設整備	(観光コンテントツ計画等策定)・基本計画・設計	工事	
③春日山荘跡地整備	(観光コンテントツ計画等策定)・利活用検討	工事	

概算事業費

	(百万円)
①「総構」復元整備(第1期)	504
②観光拠点施設整備	2,149
③春日山荘跡地整備	140

図 3. -2 総構及び観光拠点施設整備概要

2) 春日山城跡のシンボリック眺望スポットの創出

現在上越市では、春日山において植林された杉の間伐を行い、大正時代の古写真で写されている山城の曲輪の輪郭がよくわかる景観を復元する事業の中で、今後、城跡の北東側のスギ林の間伐を行い、直江津駅から春日山城跡を視認できるようにすることを進めている。これは、春日山城跡と直江津(越後府中)との関りに焦点を当て、直江津(越後府中)方面から春日山城跡へ春日神社や林泉寺を経て観光客をアプローチする新しい展開を目指している。守護所のあった直江津(越後府中)に対して、当時の政治の要である春日山城が常に目を光らせていたというコンセプトを打ち出すものである。

そこで、直江津のまちなかから春日山城跡を望む眺望スポットとして広場を整備することにより、市街地と春日山城跡をつなぐ周遊ルートを生み出す方法を検討する。

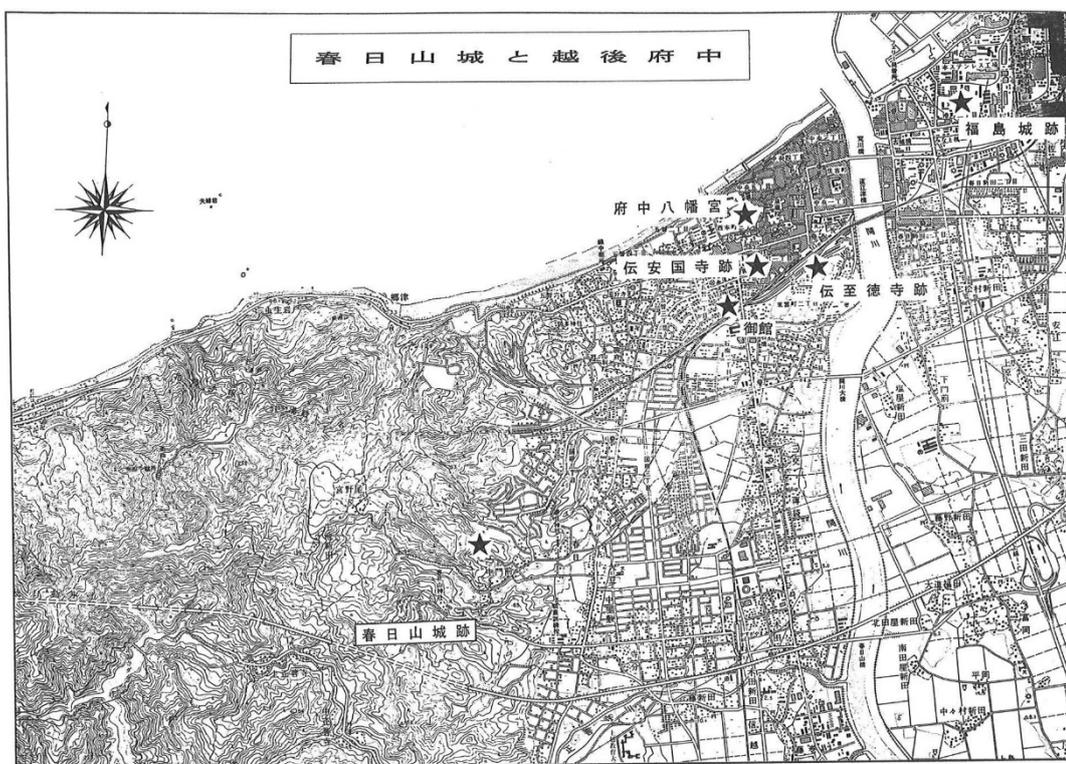


図 3.-3 「春日山城跡と越後府中」

(出典:『守護所から戦国城下へ-地方政治都市論の試み-』金子拓男・前川要 編)



写真 3.-1 : 直江津駅付近高架橋から



写真 3.-2 : 上越消防署裏から

3) 謙信公と春日山城跡のPRの現状

現在、以下に示すPR活動などがなされているが、復元整備に併せてこれらを強化していく必要がある。

PR活動等	摘要
観光ガイド	公益社団法人上越観光コンベンション協会が窓口となり、観光客等の希望見学箇所にガイドを有料で派遣する。なお任意団体として同協会のガイド事業に協力する「上越観光ボランティアガイドの会」が組織されている。
越後上越 上杉おもてなし武将隊	上越観光コンベンション協会運営。春日山城跡をはじめ、上越市内の観光施設やイベント会場等において観光客のおもてなしや演武（パフォーマンス）、上越市の観光PR活動を行う。上杉謙信公、上杉景勝公、宇佐美定満、まつえの4名で構成されている。
上越観光 Navi	上越観光コンベンション協会が運営するウェブサイト。観光スポットやイベント等の観光情報の他、コンベンションや観光・旅行者向けの情報等も発信している。

4) デスティネーションネットワークの構築

謙信公と春日山城跡の観光資源性向上のため、関連する場所や施設をネットワークで結んで「聖地巡礼」的な相乗効果を狙うことも一考である。但しあまり広げすぎるとネットワークが混線してくる恐れがあるため、主な「城」「城跡」とその周辺に留める。

以下にネットワークの案を示す。

■近隣ネットワークの構築：上越市内の関連城跡などを結び付ける。

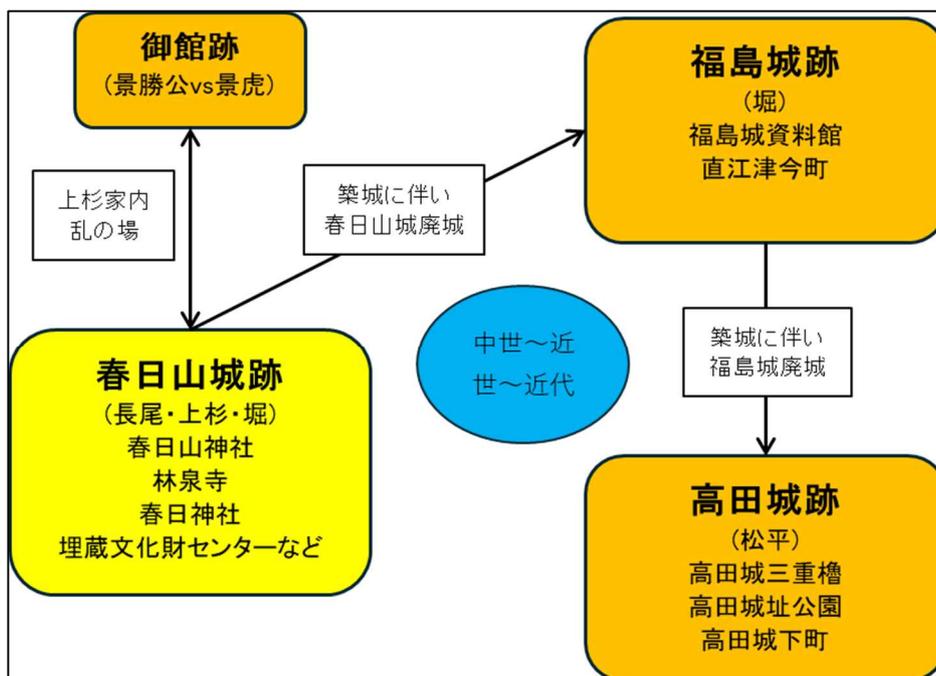


図 3. -4 近隣ネットワークの構築図

■広域ネットワークの構築：市外・県外への「聖地」を回遊するネットワークを構築

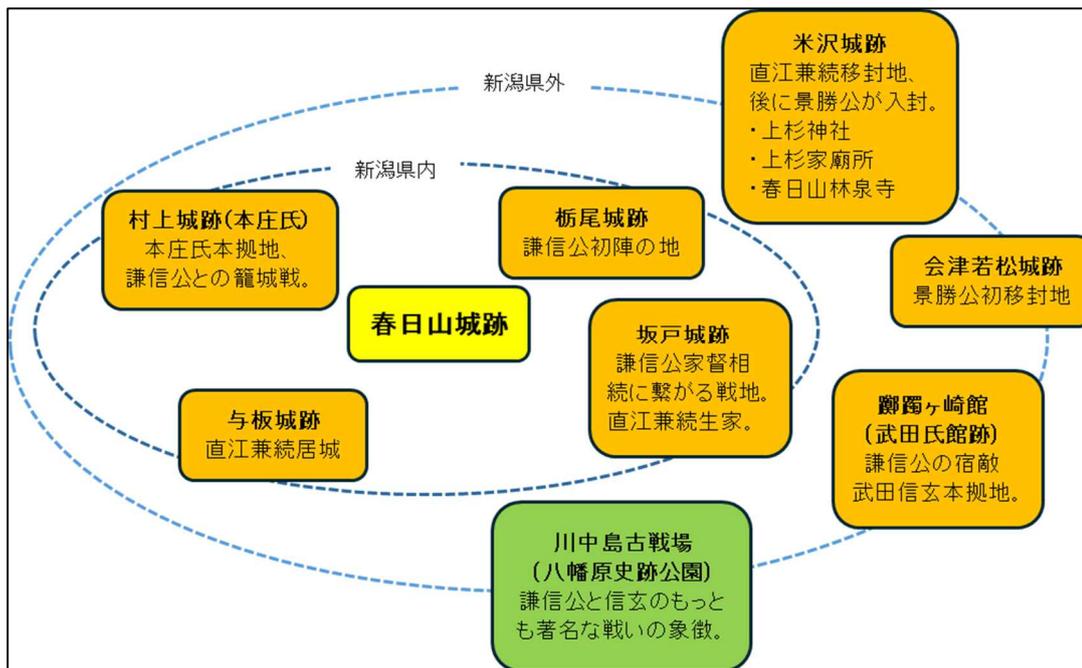


図 3.-5 広域ネットワークの構築図

5) 観光資源・観光地としての問題点や課題

①謙信公ゆかりの品々(遺宝など)の不足

上杉謙信公の次の世代である上杉景勝公の時代に、春日山城の廃城、会津への移封を経て、上杉家と家臣団は米沢に移っている。その際、謙信公の亡骸(甕に葬られた状態で会津、米沢へ移されたといわれる)や上杉家伝来品をはじめ、長尾家の菩提寺である林泉寺や、景勝公の実家の菩提寺である龍言寺などゆかりのある社寺も米沢に移っている。上杉謙信公の人物像や背景を探るには、謙信公にまつわる品々の存在は欠かせない。実物を見ることの効果は大きい。

このような経緯で上杉謙信公やその周辺の人々のゆかりの品などの多くは現在、米沢市の上杉神社及び米沢市上杉博物館が所蔵している。上杉謙信公と春日山城跡の魅力の向上のために、上杉家ゆかりの遺宝について、これらの所蔵施設とどのような連携・協力ができるか、春日山城跡に受け皿的な何かが必要なのか等の検討が今後の課題となってくる。

所蔵施設	主な所蔵品
上杉神社 稽照殿	<ul style="list-style-type: none"> ・国重要文化財：色々威腹巻 兜壺袖付(伝 上杉謙信公所用) ・国重要文化財：服飾類 88 点(伝 上杉謙信公 上杉景勝公所用) ・県文化財：上杉謙信公筆祈願文 など <p>御祭神上杉謙信公の遺品を主として初代米沢藩主景勝公、直江兼続公、中興の名君鷹山公の遺品・遺墨等が多くを占め、平安時代から明治期にわたる絵画、書跡、古文書、刀剣、甲冑、武具、仏器、陶漆器、服飾類等多種多様な遺物を収蔵している。</p>
米沢市上杉博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・国宝：上杉本洛中洛外図屏風(伝 織田信長から上杉謙信公へ贈、狩野永徳筆) ・国宝：上杉家文書(上杉家に伝来した古文書群…「上杉謙信公宛足利義輝御内書」「寛益寺充上杉謙信公書状」等) など <p>これらを代表として、数千に及ぶ上杉氏ゆかりの貴重な品々や国宝が収蔵されている。</p> <p>※同館所蔵の文化財は殆どがデータベース化されていて、インターネットで閲覧可能となっている。</p>

(参考：上杉神社 HP、「伝国の杜」米沢市上杉博物館 HP、米沢市 HP)

②交通アクセスの利便性の向上

ア) 主要都市等からの上越までのアクセスの現状と課題



図 3.-6 上越市への交通アクセス (出典：上越市 HP)

【東京方面から】

■新幹線

上越新幹線利用の場合は、ほくほく線経由(東京～越後湯沢～直江津)で3時間かかるが、北陸新幹線開通後は1時間50分(東京～上越妙高)に短縮された。首都圏からの利便性は向上しているため、富山・石川・福井方面へ向かう観光客の途中下車を誘い、上越を最終目的地とすることが課題である。

■高速道路

関越自動車道では、北陸自動車道・上信越自動車道のいずれを経由(練馬IC～上越IC)しても3時間30分前後となる。車で来訪する観光客のために各施設自体での駐車場の充実、或いは駐車拠点から各観光目的地までのシャトルバスの運行等の活用も考えられる。

【新潟方面から】(新潟空港は現在、中国、台湾、韓国からのフライトがある)

■電車

JR信越本線とえちごトキめき鉄道(特急利用)を乗り継いで2時間かかる。ダイレクトには来られないので時間的にも東京からより不便である。

■高速道路

磐越・北陸自動車道(新潟IC～上越IC)利用で1時間20分である。時間や乗り継ぎ等の面から新潟空港からの観光客は高速道路利用の利便性が高いと思われるので、高速バスの他に観光タクシーやレンタカー等高速道路利用環境の整備が課題である。

【大阪方面から】

名神・北陸自動車道(吹田IC～上越IC)利用で5時間30分を要す。また電車では今のところJR東海道本線・湖西線・北陸本線・北陸新幹線(大阪～金沢～上越妙高)と乗り継いで3時間50分もかかり、車も電車もかなり時間がかかる印象である。今後は北陸新幹線の延伸(2024年3月敦賀開業予定。敦賀～新大阪は未着工)が期待される。

イ) 春日山城跡と周辺施設等への城内交通の課題

上越市通年観光計画(案)では、城内交通について以下の実証実験の計画が掲げられている。

事業名	内容
グリーンスローモビリティ運行	公共交通による来訪者に向けて、春日山駅と(仮称)馬場広場間で、グリーンスローモビリティの実証実験を行う。実験の結果を踏まえ、運行する。
レンタサイクル整備	公共交通による来訪者に向けて、春日山駅周辺において、レンタサイクルの実証実験を行う。結果を踏まえ、整備する。
シャトルバス運行	車での来訪者に向けて、埋蔵文化財センターから春日山神社下駐車場の区間で、シャトルバスの運行、その他の二次交通の可能性を調査するため、冬期を除く週末やハイシーズン等を実証実験を行う。実験の結果を踏まえ、運行する。

また主な課題としては以下の通りとされている。

- ・神社下駐車場やアクセス道路は史跡の範囲等であり、「春日山城跡保存管理計画」において地形改変等が制限され、新たな駐車場整備や道路拡幅は困難となっている。
- ・解決策として、史跡範囲外に十分な駐車場を整備し、障害がある方等を除き、一般車両の進入制限を行うとともに、シャトルバス運行などの移手段を検討する。

6) 春日山城復元後の運用や維持管理などの課題

山城の復元整備を行った自治体のアンケート結果から復元後の運用や維持管理についての課題を整理し、それらを踏まえて春日山城復元後に想定される運用面・維持管理面での課題を総括する。

①山城復元に共通する課題(各自治体の抱える課題)

【運用面についての課題の抽出】

- ・案内を観光ボランティアに頼っている。
- ・ボランティアガイドの高齢化。また人手も不足気味。
- ・常駐ガイドがない。多言語対応が課題。
- ・ボランティアガイドからプロのガイドへのシフト。
- ・ガイドンス施設の充実。
- ・山城の立地特性上、駐車場が十分に確保できない。大型バスも乗り入れられず集客が課題。また道の拡幅などについても史跡範囲内だと難しい。
- ・史跡に影響を与えないように活用法を考える必要があり、内容が限定的になる場合もあり得る。
- ・山城内の道の勾配がきついので、高齢者や身体不自由者への対応が困難。
- ・VR等のデジタル技術導入の遅れ。
- ・山城への誘客やPRのための情報発信への取組み。
- ・来場者数の減少。
- ・企画がマンネリ化するため、他の山城と連携する等の工夫が課題。
- ・悪天候時に逃げ込めるシェルターの施設がない。
- ・冬期閉山時の活用方法。
- ・山城は起伏があるため歩くのに一定の労苦を伴う。そのため多様な観光客への対応や山城を活用したイベント企画が難しい。
- ・警備等の経常経費が削減されている。
- ・指定管理者制度の導入の検討。

【維持管理についての課題】

- ・整備から長期間が経過し、老朽化が進み、維持管理が難しくなっており、持続的維持管理のための長期計画策定や修繕工事の継続的实施が課題。
- ・芝刈りや樹木の刈込等に1400万円かかり、全額市費負担となっている。

- ・エリアが広く草刈り等の維持管理が追いつかない。
- ・盛土主体の整備をしたが、排水対策等が不十分だったため盛土崩壊や隣接民地への排水流入が発生している。
- ・総構と大手道の日常的維持管理は市民団体等への委託を行っているが、高齢化等の不安を抱えており、今後の委託に不安がある。

②春日山城復元後に想定される課題の総括

■人的資源の充実

埋蔵文化財センターには専門職員や非常勤的に「おもてなし武将隊」といった案内役を担う人材がいる一方、訪問客の随行は難しいうえ、春日山城跡現地には常駐ガイドはいない。観光客来訪の不定期性を考えると機動的な観光案内ボランティアの充実が望ましいと考えられる。ただ市民アンケートによれば、ボランティア活動への参加意識について「参加したい」「参加したくない」の割合が各々40%で拮抗している。案内役として参加・協力しやすくなる仕組みづくり(有償レベル、人材育成、参加の機会と場の創出等)が課題である。これは維持管理作業への参加・協力にとっても同様な課題といえる。

■多様な観光客への対応

インバウンド人口増の促進を目標とするなら、様々な場面で多国籍な対応が必要となってくる。案内板等文字情報は多言語化が必須である。また観光拠点施設や宿泊施設なども、多様な国からの観光客のニーズに応えるサービス展開が望まれる。インバウンドだけでなく、国内観光客であっても異なる年齢層や障害者に対しての、山城体験のあり方も検討する必要がある。

■コンテンツの充実と効果的な情報発信

春日山城跡を一度見学して終わりではなく、その場所での独自の体験や新たな楽しみ方、他の観光資源とのネットワークの強化など、観光コンテンツの充実を図り、観光客層の間口を広げると共に、リピーターを増やすことが課題となる。また現在行われているウェブサイトの情報内容を改善する、実際に春日山地域に到着した時に、スマホなどで分かりやすい観光情報が手に入るなどの情報発信策を講じていくことも必要である。

■通年利用施策の検討

上越市は多雪地帯であり、春日山城跡も冬期の、特に積雪時の来訪者は殆どいないと考えられる。例えばスノーシューを履いて春日山城跡を散策し、冬ならではの眺望を楽しむなど、オールシーズンに対応できる活用策を検討していく必要がある。

■民間活力の導入の検討

例えば新潟県では、県立大潟水と森公園の管理運営に指定管理者制度を採用している。また国や地方公共団体が行ってきた公共施設等の整備・運営を、民間の資金、

運営ノウハウ、技術的能力等を活用して効率的・効果的に行う、PFI (Private Finance Initiative) を推進している。行政が直営・直轄的に関わることのメリットとデメリットを精査し、春日山城跡の運用・維持管理などのあり方を検討していく必要がある。

■持続可能な維持管理の確立

山城はどのような復元がなされたとしても、自然環境の中にあるがゆえに、風化や劣化、崩壊、植生繁茂等の自然のインパクトに晒される。従って長期にわたる維持管理や修繕は必須要件である。それには当然経費が伴う。行政からの補助や支援は限度があるため、クラウドファンディングを募る、入山料を徴収するなどの費用の新たな捻出方法も検討していく必要がある。また維持管理を単に業者に任せればいいのか、NPO 等の市民団体を支援・育成して委託するのか、市民の直接参画も促進するのかなどの持続可能な維持管理に結びつく仕組みづくりも考えていかなければならない。

以上をふまえ、復元後に想定される課題をまとめる。

■人的資源の充実

市民がボランティア活動や維持管理作業へ参加・協力したくなる仕組みづくりを検討(有償レベル、人材育成、参加の機会と場の創出等)。

■多様な観光客への対応

案内板等の多言語化、観光拠点施設や宿泊施設における多言語サービス向上、国内観光客の異なる年齢層や障害者に対する山城体験のあり方を検討。

■コンテンツの充実と効果的な情報発信

春日山城跡独自の体験や新たな楽しみ方、他の観光資源とのネットワークの強化など、観光コンテンツの充実を図る。スマートフォンなどで分かりやすい観光情報の情報発信を検討。

■通年利用施策の検討

冬ならではの眺望を楽しむなど、オールシーズンに対応できる活用策を検討。

■民間活力の導入の検討

指定管理者制度の採用や民間の資金・運営ノウハウ・技術的能力等を活用して効率的・効果的な運用のあり方を検討。

■持続可能な維持管理の確立

クラウドファンディングの活用や協力金の徴収など費用の新たな捻出方法を検討。NPO 等市民団体の支援・育成を検討。



写真 3.-3 : 多言語化イメージ



写真 3.-4 : 体験イメージ
染物体験



写真 3.-5 : 通年利用イメージ

4. 事業推進体制（案）

春日山城跡の復元整備を進めるにあたっての事業推進体制(案)を以下に示す。

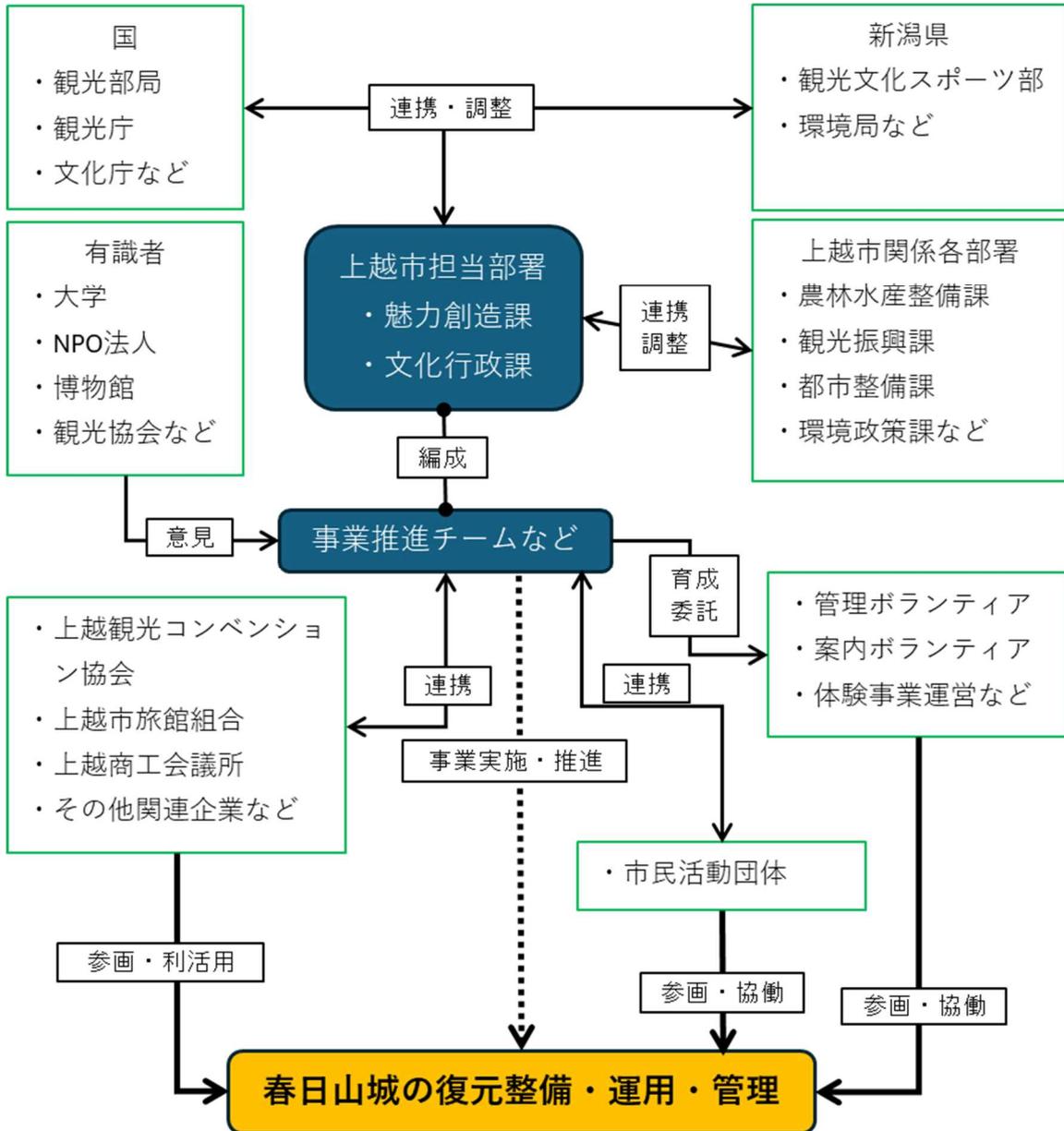


図 4. -1 春日山城復元整備事業推進体制(案)

5. 将来的に検討すべき課題

春日山城跡の復元整備を進めることは、地域のシンボルとなり、地域住民の方々の誇りを醸成する一助となる。加えて、今後継続的に形成していくレガシーを地域の文化や関係のある地域と結び付けることによって地域の魅力がより高まり、来訪者を強く惹きつけることができる。それは地域の活性化につながり、地域の持続可能な発展に欠かせないものとなっていくこととなる。

そこで、復元整備を継続していく中で将来的に検討すべき課題を以下にあげる。

(1) 本質的価値の理解向上

- ・ 謙信公居館場所、謙信公葬送地の研究継続
- ・ 上杉謙信公、上杉景勝公、堀氏の三代にわたる居城の認知度向上
- ・ 本当の姿「土の城」の認知度向上
- ・ 戦国時代の越後における中心都市としての認知度向上

(2) 遺構表現の課題

- ・ 遺構表示の方法について文化庁と調整
- ・ 屋敷、南三ノ丸、千貫門等構造物復元の可能性について継続的な調査

(3) 春日山城跡の整備課題

- ・ 景観への転換継続：自然公園法、森林計画との調整
- ・ 土砂崩落防止：遺構復元と土砂流出防止（斜面保護）の両立
- ・ 山城全体の雨水排水処理
- ・ 本来の通路と後設された遊歩道の整理など散策路整備
- ・ 散策順路サインなど案内・説明板の充実
- ・ 春日山城が築かれた時代の植生復元

(4) 啓発の課題

- ・ 上杉謙信公、上杉景勝公、直江兼続と春日山城をセットで協調したPR戦略
- ・ 山城から見える景色を強調したPR戦略
- ・ 越後府中と現在の港や町なみを重ねた歴史紹介
- ・ 戦国時代の食文化、笹寿司、兵糧食、かちどき飯などを紹介。（『北越軍談』）
- ・ 上杉謙信公と戦国武将をセットでPR
- ・ 越後布に関連した魚沼地域との連携